

平成 29 年度名古屋大学大学院文学研究科
学位（課程博士）申請論文

造語要素「不・無・非・未」の機能

— 日中、日韓との対照研究を視野に入れて —

名古屋大学大学院文学研究科
人文学専攻日本文化学

朴 景淑

平成 30 年 2 月

目次

第一章 本研究について	1
1. 日本語の「不・無・非・未」の位置づけ	1
1.1 「不・無・非・未」の接辞的特徴	1
1.2 「不・無・非・未」の否定の機能と意味	4
1.3 先行研究及び問題点	6
2. 中国語の「不・無・非・未」の位置づけ	8
3. 韓国語の「不・無・非・未」の位置づけ	9
4. 研究目的と研究対象	9
5. 本論文の構成	10
6. 研究意義	12
第二章 「不」と「非」の造語機能と意味機能	15
1. はじめに	15
2. 先行研究	15
3. 考察データと分類基準	18
4. 「不」の2字結合語と3字結合語の否定の意味	18
5. 「非」の2字結合語と3字結合語の否定の意味	20
6. 「不」の造語機能の通時的考察	23
6.1 上代から近世における「不」の3字結合語の使用実態	23
6.2 明治、大正期における「不」の3字結合語の使用実態	28
7. 「非」の3字結合語の使用実態	32
7.1 上代から近世における「非」の3字結合語の使用実態	32
7.2 明治、大正期における「非」の3字結合語の使用実態	32
8. おわりに	35
第三章 「無」の造語機能と意味機能	36
1. はじめに	36
2. 先行研究	36
3. 「無」の下接語の意味的性質と品詞転換機能	37
3.1 考察対象と品詞分類基準	38
3.2 「無」の名詞下接語	38
3.3 「無」の動名詞下接語	42

3.4 「無」の形容動詞性名詞の下接語	45
4. 「無」の造語機能の通時的考察	45
4.1 上代から近世における「無」の結合語の使用実態	46
4.2 明治、大正期における「無」の結合語の使用実態	49
5. おわりに	53
第四章 「未」の造語機能と意味機能	55
1. はじめに	55
2. 先行研究	55
3. 「未」の下接語の性質と意味	55
3.1 「未」の下接語の性質	55
3.2 「未」の下接語の意味	57
4. 「未」の造語機能の通時的考察	58
4.1 上代から近世における「未」の結合語の使用実態	58
4.2 明治、大正期における「未」の結合語の使用実態	60
5. おわりに	61
第五章 程度副詞との共起から見た「不・無・非・未」の性質	62
1. はじめに	62
2. 語彙的否定のあり方	63
3. 程度副詞についての先行研究	65
4. 分析方法	66
5. 「不・無・非・未」の否定の程度性	67
5.1 「とても＋不―」と「すこし＋不―」	67
5.2 「とても＋無―」と「すこし＋無―」	73
5.3 「とても＋非―」と「すこし＋非―」	76
5.4 「とても＋未―」と「すこし＋未―」	78
6. おわりに	79
第六章 「非〇〇的」の成立過程	80
1. はじめに	80
2. 先行研究	80
3. 「非科学的」の定着プロセス	81
4. 「非」の意味変化、「不」との相違点	84
5. 「非」と「不」の機能の相違点	85
5.1 「不経済」と「非経済的」	85

5.2 「不合理」と「非合理的」	87
6. おわりに	88
第七章 否定の造語要素の優先選択	89
1. はじめに	89
2. 「未」と「不」の否定の意味	89
3. 「不」と「非」の否定の意味	90
4. 「無」の否定意味	91
5. 「不・無・非・未」の同形下接語の用例分析	92
6. 「不・無・非・未」の結合語の接続形態	96
7. おわりに	97
第八章 日中「不・無・非・未」の類似点と相違点	100
1. はじめに	100
2. 日中「不・無・非・未」の相違点	100
3. 日中「不」の類似点と相違点	102
3.1 先行研究	103
3.2 調査対象および分析方法	103
3.3 日本語の「不」の中国語訳	104
3.4 中国語の「不」の日本語訳	109
3.5 日中「不」の下接語の価値評価の違い	110
3.6 日中「不」の機能	111
4. 日中「無」の類似点と相違点	112
4.1 中国語の「無」の意味	112
4.2 日中「無」の同形結合語	113
4.3 日本語の「無」の中国語訳	114
4.4 日中「無」の機能	119
5. 日中「非」の類似点と相違点	120
5.1 中国語の「非」の意味	120
5.2 日中「非」の同形結合語	120
5.3 日本語の「非」の中国語訳	121
5.4 日中「非」の機能	123
6. 日中「未」の類似点と相違点	123
6.1 中国語の「未」の意味	123
6.2 日中「未」の同形結合語	123

6.3 日本語の「未」の中国語訳	124
6.4 日中「未」の機能	127
7. おわりに	127
第九章 日韓「不・無・非・未」の類似点と相違点	129
1. はじめに	129
2. 日本語と韓国語の「不・無・非・未」の特性	130
2.1 日本語の「不・無・非・未」の特徴	130
2.2 韓国語の「不・無・非・未」の特徴	130
2.3 日韓「不・無・非・未」の類似点と相違点	132
3. 韓国語の品詞性及び日本語との対応関係	133
4. 日韓「不」の下接語と結合語の品詞性	134
4.1 日本語の「不」の下接語と結合語の品詞性	134
4.2 韓国語の「不 bul」の意味と語例	140
4.3 韓国語の「不」の下接語と結合語の品詞性	142
4.4 日韓「不」の下接語と結合語の品詞性	149
4.5 日韓両言語の品詞転換機能の相違点がある原因	150
4.6 日韓「不」の品詞転換機能の相違点	151
5. 日韓「無」の下接語と結合語の品詞性	152
5.1 日韓「無」の意味	152
5.2 日本語の「無」の下接語と結合語の品詞性	152
5.3 韓国語の「無 mu」の下接語と結合語の品詞性	154
5.4 日韓「無」の品詞転換機能の相違点	160
6. 日韓「非」の下接語と結合語の品詞性	161
6.1 韓国語の「非 bi」の意味	161
6.2 日本語の「非」の下接語と結合語の品詞性	162
6.3 韓国語の「非」の下接語と結合語の品詞性	164
6.4 日韓「非」の品詞転換機能の相違点	169
7. 日韓「未」の下接語と結合語の品詞性	170
7.1 韓国語の「未 mi」の意味	170
7.2 日本語の「未」の下接語と結合語の品詞性	170
7.3 韓国語の「未」の下接語と結合語の品詞性	172
7.4 日韓「未」の品詞転換機能の相違点	177
8. おわりに	179

第十章 本論文の主な結論と今後の課題.....	181
1. 各章の主な結論.....	181
2. 今後の課題.....	188
【資料1】「不」の3字結合語の下接語の品詞分類.....	189
【資料2】「不」の2字、3字結合語の意味分類.....	190
初出一覧.....	193
参考文献.....	195
用例出典.....	198

表 目 次

表 1	「不」の3字結合語の出現時期及び否定の意味	28
表 2	形容動詞性のある「無 N」の下接語の意味分類	41
表 3	形容動詞性のない「無 N」の下接語の意味分類	42
表 4	形容動詞性のある「無 VN」の下接語の意味分類	44
表 5	形容動詞性のない「無 VN」の下接語の意味分類	44
表 6	語彙的否定形式	64
表 7	「不経済」と「非経済」の用例数	86
表 8	「不合理」と「非合理的」の用例数	87
表 9	「不」と「非」の結合語の接続形態	96
表 10	「不・無・非・未」の下接語の品詞性と語数	97
表 11	日中両言語の造語要素と結合前後の品詞転換機能の有無の比較 ..	101
表 12	日本語と韓国語の形態上の対応関係	134
表 13	日本語の「不」の下接語と結合語の品詞性	138
表 14	日韓「不」の下接語と結合語の品詞性	150
表 15	日韓「無」の下接語と結合語の品詞性	161
表 16	日韓「非」の下接語と結合語の品詞性	169
表 17	日韓「未」の下接語と結合語の品詞性	177

第一章 本研究について

1. 日本語の「不・無・非・未」の位置づけ

「不・無・非・未」は接辞的特徴のみならず、否定の機能と意味も持っている。本節では先行研究に基づき、「不・無・非・未」の接辞的特徴と否定の機能と意味について述べる。1.1では「不・無・非・未」の接辞的特徴について、1.2では「不・無・非・未」の否定の機能と意味について説明し、1.3では先行研究における問題点を提示する。

1.1 「不・無・非・未」の接辞的特徴

山田(1936:571-593)は、接辞を「単語の内部に於ける遊離する性質を有する部分にして既に成立せる単語又は語幹に付属して稍複雑なる意義を有する単語を構成するもの」と定義している。また、接辞を接頭辞と接尾辞に大別しており、接頭辞は体言、用言、副詞の上に加えてその語調または意義を添えるもの、接尾辞は意義を添えるものと一定の資格を与えるものに分類している。さらに、同書では一定の意義を添える接頭辞を「敬意を添えるもの」や「真正又は純粹の意を示すもの」など9種類に分け、「不」と「無」を下記の①～③の類に分類されている。

①打消の意を示すもの

「ふ」 「不」の字音を用ゐたるなり。漢語よりなる名詞に接す。

ふ信心 ふ便利 ふ承知

②無き意を示すもの

「ぶ」 「無」の字音を用ゐたるなり。漢語よりなる名詞に接す。これは次の「む」よりは意強く、時としては醜さを寓せりと見ゆ。

ぶ用心 ぶ意氣 ぶ器用 ぶ禮 ぶ遠慮 ぶ愛想 ぶ勢

「む」 「無」の字音を用ゐたるなり。漢語よりなる名詞に接す。

む利息 む藝 む欲 む差別 む分別 む理解

③不可なる意をあらはすもの

「ふ」 「不」の字音を用ゐたるものにして、①の「ふ」と似たれど、

意は異なり。従つて漢語よりなる名詞のみならず、汎く名詞に接す。

ふ取締 ふ心得 ふ行跡 ふ首尾 ふ機嫌

「ぶ」 「無」の字音を用ゐたるものにして、②の「ぶ」と似たれど、意は異なり。されど醜き心持ある點は似たり。従つて漢語よりなる名詞のみならず、汎く名詞に接す。

ぶ男 ぶ作法 ぶざま ぶしつけ

山田（1936）の記述により、「不」と「無」の下接語¹の語種は和語と漢語とがあり、「不」は名詞に前接する接頭辞として、意味によって「打消」と「不可なる」の意を表し、前者の下接語は漢語名詞、後者の下接語は漢語と和語とが見られることが分かる。また、「無」は「無き」の意と「不可なる」の意味を表し、「ふ」と「ぶ」との2つの発音を持ち、「不」と同様に名詞の前に前接することについても言及がある。しかし、山田（1936）では、「不」と「無」が一定の意義を添える接頭辞であり、名詞の前に前接することが指摘されているが、「不」と「無」の下接語と結合語の品詞性には触れていない。

野村（1977:258-260）は語構成要素である語基と接辞を以下のように定義している。

語基 語の意味的な中核となるもので、単独で、語を構成することもできる。

接辞 語基と結合して、形式的な意味をそえたり、語の品詞性（文法的性格）を決定したりする。単独では語を構成することはできない。

野村（1977）の接辞の「形式的意味をそえる」機能と「語の品詞性を決定する」機能は山田（1936）の「意義を添える」と「一定の資格を与える」機能とに共通している。否定接頭辞の機能として野村（1977）では、漢語系接頭辞のうち、「無条件・不利益・非現実的・未発表」の「無・不・非・未」は否定の意味を添える接頭辞であるとしている。また、一般的に、接頭辞は、意味を添加するだけで、結合対象となる語の品詞性を変える働きはないと考えられるが、否定の接頭辞は、結合形全体にいわゆる形容動詞の語幹相当の品詞性を与える点で共通しており、

¹ 本論文では「不・無・非・未」の後に付く語を下接語といい、「不・無・非・未」と結合した後の語を結合語という。例えば、「不道德」の下接語は「道德」であり、「不道德」は、「不」と下接語の「道德」が結合した後の結合語という。

これらの否定の接頭辞ほど顕著ではないが、他の漢語系の接頭辞にも存在する（「大規模」「有意義」）点で、和語や英語の接頭辞とは異なる特徴を持っていると述べている。

さらに、野村（1973）は、否定接頭辞「不・無・非・未」を取り上げ、その特徴を以下の①～③にまとめている。

- ① 造語要素の意味的な結合関係が、他の前部分にくる一字漢語とちがって、一般の構文上の修飾関係の順序と異なる。（無関係・不公平・名女優・食中毒）
- ② 和語に同様の用法を持つ言語単位が発達していない。（音無しの構え・上着無しで外出する・親知らず・向う見ず・ノーカード）
- ③ いわゆる形容動詞の語幹を形成する。（無意味な・不景気な・非常識な）

以上、山田（1936）では「不」と「無」が「意義を添える」機能を持っていることから接頭辞に分類されている点、野村（1977）においても「不・無・非・未」が接頭辞として分類されるが、「形式的意味を添える」機能のみならず、「語の品詞性を決定する」機能があることから、一般の接頭辞と異なると指摘されている点を確認した。

また、森岡（1994:228）は、接辞を派生辞といい、「派生辞は、派生語（derivational words）を造る結合形式の形態素で、いわゆる接辞（affix）」であり、派生辞は語基あるいは語に付いて、意味を添加したり、語基や語を他の機能に切り替えたりする結合形式の形態素であるとし、それらを4種類²に分類している。そして、同書では接頭辞が意味を添えるだけで、語基を他の語基に転ずるものは少ないとし、漢語系の「不・無・未」などが熟語の構成要素でありながら、その意味・用法が接辞に類することから准接辞³と称され、純粹の接辞からは区別されると指摘して

² 森岡（1994:228）では派生辞を次の①～④の4種類に分類されている。

① 結合形式の語基に付いて自立形式に形成する接辞（ひとづ、ふたり…）

② 主として自立形式の語基に付いて意味を添える接辞（お川、叔父さま…）

③ 語基を他の語基に転生させる接辞（学者ぶる、春めく…）

④ 語を他の語に準用させる辞（彼は学者だ。今日は祭りです。…）

³ 森岡（1994:251）は、「亜熱帯、怪文書、過保護、閑文字、擬国会、貴婦人、不愉快、無意味、未解決…」などの下線部の漢字は2字熟語が基になって、語頭または語尾に漢字形態素を添えるもので、このような位置にある形態を准接頭辞と呼んでおり、「亜流、怪人、過日、閑話、擬装、貴人」の下線部の漢字は、これを分解して准接辞を取り出すことができないため、同じ漢字が2字熟語の構成要素として用いられている場合は、たとえ意味的に同じであっても、准接辞と認めないと述べている。

いる。

山下（2013）は、現代日本語における漢語接辞の研究状況について概観し、文法論、語彙論・意味論、生成文法、認知言語学など様々な視点により研究がなされてきたという。

山下（2013:157）では、「漢語接辞」について次のように定義されている。

「漢語接辞」とは、一般的に漢字で表記される字音接辞のことで、二字漢語に前接または後接して三字漢語を構成する形態素を指す。「新体操・前校長・近代化・合理的」における傍線部であり、「新・前」等が接頭辞、「化・的」等が接尾辞である。また、これらは、漢語のみならず和語、外来語、混種語にも接続して合成語を形成する。

先行研究から「不・無・非・未」は、接頭辞または准接頭辞に分類されている。その理由としては、意味の添加が可能であり、下接語の品詞を変えることができるからである。ただし、熟語の構成要素ともなる点で一般の接辞の性格とは異なる特徴を持っている。また、一般的に接頭辞と認められる形態は下接語が自立性のある2字漢語である場合を指していることが分かる。よって、本論文では主に「不・無・非・未」と2字漢語が結合した後の語を中心に考察を行い、「不・無・非・未」が語を構成する形態素であることから造語要素と称する。また、「不・無・非・未」が1字漢字と結合した後の語を2字結合語といい、2字漢語と結合した後の語を3字結合語と称する。

以上、1.1では「不・無・非・未」が意味の添加機能と品詞転換機能を持っていることから接辞的特徴があることについて述べた。「不・無・非・未」の意味の添加機能は文字どおりに否定の意味の添加である。それでは、「否定」という枠組みの中で「不・無・非・未」はどのように位置づけられているのだろうか。

次の1.2では「不・無・非・未」の否定の機能と意味について概観する。

1.2 「不・無・非・未」の否定の機能と意味

1.2.1 語彙的否定と文法的否定

現代日本語においては「不・無・非・未」という漢字を用いた否定形式以外に、和語の「ない」という否定形式も存在する。工藤（2000:95）では以下のように両者の違いについて例を挙げて説明している。

例：(i)彼女は幸せではない。

(ii)彼女は不幸せだ。

同書では(ii)の「不幸せだ」が派生による語彙的否定形式であって、「彼女は幸せでも不幸せでもない」と言えるように、肯定の「幸せだ」とは反対関係にあるとすれば、(i)の文法的否定は、肯定とは矛盾関係にあって、主語と述語の結び付きを否定する文否定であると述べられている。

工藤(2000)の結論をまとめると「ない」は文法的否定を表すのに対し、「不」は語彙的否定として位置づけられる。「無」・「非」・「未」も同様に語彙的否定を表す。

1.2.2 否定の意味

野村(1978)では、前部分の接辞性語基と後部分の語基の品詞性、および、その結合関係によって、前部分の接辞性語基を「党大会、核爆発、都知事…」の体言型、「大都市、中学校、小規模…」の連体修飾型など8種類に分けられている。そのうち、「不・無・非・未」は否定辞型に属しており、後部分の語基に否定の意味を与えるとともに、結合形全体の品詞性を変える特徴がある。

相原(1986)では、「不・無・非・未」の否定の意味がより詳しく分類されている。同論文では、否定の接頭辞⁴「不・無・非・未」の働きを「概念性の否定」「存在性の否定」「行為性の否定」「事態性の否定」「価値性の否定」に分け、それぞれの否定の働きをまとめると以下のとおりである。

- ① 概念性の否定 語基の表す概念を離れた、またはその概念に必要な条件を欠いている存在であること(非人情、非常識…)
- ② 存在性の否定 語基の表している事象そのものが存在しないこと(無試験、無条件…)
- ③ 行為性の否定 接辞と結合する語基や形態素の示す行為や動作が行われないこと(不許可、未完成…)
- ④ 事態性の否定 結合する語基によって示された状態にない、またはそれと相反する状態にある、という意を添えること(不確実、無所属…)
- ⑤ 価値性の否定 語基そのものの形状が望ましいものではない、価値のある状況にない、という意味を添える用法(不成績、無気力…)

⁴ 本論文では「不・無・非・未」を造語要素と呼ぶが、先行文献をまとめるとき、先行文献において「接頭辞」または「接頭語」と記述されている場合は、その名称に従う。

相原（1986）では、「不」は「行為性の否定」「事態性の否定」及び「価値性の否定」、「無」は、主に「存在性の否定」、「非」は主に「概念性の否定」、「未」はほとんど「行為性の否定」を表すと指摘している。

このように、日本語の「不・無・非・未」は語彙的否定として、各造語要素の否定の意味には類似点もあれば、差異も見られる。

1.3 先行研究及び問題点

相原（1986）に述べられている各造語要素の否定の意味は下接語の性質とも関わっている。

「不・無・非・未」の下接語の性質と否定の意味との関わりを提示された先行研究には野村（1973）サトーアメリカ（ほか）（1982）及び奥野（1985）が挙げられる。

野村（1973）は、否定の接辞が2字熟語に付加される場合に着目し、雑誌および新聞の調査により951語を研究対象としている。「不」はサ変動詞に付く場合、「～しない」という動作性の否定を表し、「無」は実体に付加されること、また、サ変動詞に付加される場合も「～することがない」の意味であることを示している。

また、「非」は「不」と「無」の間の特質を持ち、各種の語と結合し、結合形が属性概念を表す場合、形態は「不」と類似すること、実体概念を表す語と結合しやすい点では「無」と共通する面もあることを指摘している。さらに、「未」が表す意味内容は「まだある行為をしていないこと」あるいは「まだある状態になっていない」ことであるとし、そして「未」が結合する動作性の動詞の中でもとくに瞬間動詞が多いことを指摘している。

野村（1973）では「不」がサ変動詞に付く場合は「～しない」という動作性の否定を表すことを指摘しているが、一方で「動作性否定」と認められない場合も存在する。例えば「不消化」・「不調和」・「不用意」などの語は「消化しない」・「調和しない」・「用意しない」などの動作性否定よりも、「消化していないこと」・「調和していないこと」・「用意していないこと」など状態を示す語としての位置づけが妥当であろう。

一方、サトーアメリカ（ほか）（1982）および奥野（1985）では「不」は体言・用言に、「無」は体言に付加されてそれぞれ名詞性を否定する点、「非」に付加する語は品詞に制限がなく、また「未」は動詞性を否定する点が指摘されている。

ただし、サトーアメリカ（ほか）（1982）の研究方法には以下に示す問題点が見

られる。

サトウアメリカ（ほか）（1982）では『広辞苑』の第一版と第二版、『電子計算機による新聞の語彙調査』（1973）を資料とし、その中から「不・無・非・未」が付くすべての語を抽出して研究対象としている。「無意識」を「意識のないこと」とするか「意識しないこと」とするか、「不安」を「安らかでないこと」とするか「安心できない」とするか、などの問題について分析者三人が協議し、『広辞苑』の第一語義をもとに、他の国語辞書や漢和辞典を参照し意味を決定しているが、この方法だと語義決定の手続きにおける主観性が強く反映されている可能性が考えられる。また上に述べた形での語義決定を受けて、相手要素の品詞を分析しているが、例えば調査対象の語に対して「N ガナイコト、N ガ悪イコト、N ガ少ナイコト……」となるものは相手要素が名詞類の品詞、「V シナイコト、ヨク V シナイコト、V デナイコト……」となるものは相手要素が動詞類の品詞、このほか、形容詞・形容動詞・副詞類の品詞とその他の品詞に分類している。つまり語義の判断基準とこれを踏まえた相手要素の品詞分析には主観性を帯びている可能性が考えられる。

先行研究に見られる問題点から、筆者は「不・無・非・未」の否定の意味と下接語の品詞性、結合語の品詞性についてはより厳密かつ詳細な検討が必要であり、「不・無・非・未」と結合する語との間での優先選択の考慮が必要だと考える。

また、「無意識」が「意識のないこと」と「意識しないこと」という二つの語義が定着した要因について分析する必要がある。「意識」という語は日本語において動名詞（VN）に属し、名詞と動詞の二つの品詞ともになり得る機能を果たしている。「意識のない」ときは、名詞の品詞特性が表れ、「意識しない」の場合は動詞の品詞特性が表れる。つまり、「不・無・非・未」の下接語と、その品詞の様態との間には一定の関わりがあると言えよう。造語要素の下接語は、形式上は名詞であるがそれぞれの品詞性は異なっている。たとえば「不賛成」・「無投票」・「非課税」・「未解決」などの語の下接語「賛成」・「投票」・「課税」・「解決」は「スル」を付けてサ変動詞になり得る名詞である。「不穏当」・「不可能」・「無風流」などの語の下接語「穏当」・「可能」・「風流」は形容動詞になり得る名詞である。

本論文では「不・無・非・未」の下接語を品詞性によって再分類し、下接語の品詞性と結合語の意味関係について観察する。「不・無・非・未」の下接語の品詞性に規則性があるものの、その規則に沿うすべての語に「不・無・非・未」が前接できるわけではない。「不・無・非・未」の造語力は漢語の消長と深く関わっており、共時的のみならず、通時的な考察も必要となる。よって、本論文では通時

的に各造語要素の3字結合語の使用実態にも注目したい。

2. 中国語の「不・無・非・未」の位置づけ

中国語においても「不・無・非・未」が使用されているが、日本語と重なる用法もあれば、まったく異なる用法も見られる。中国語では一般的に「不・無・非・未」は否定の副詞と言われるが、少数ながら接辞に分類する文献も見られる。

呂(1983:46)では、接辞を接頭辞、接尾辞、接中辞に分けられるが、接頭辞または接尾辞とみなす多くの語素は、准接頭辞または准接尾辞と言えとし、「不」「無」「非」などは准接頭辞に分類されている。「准」を付けなければならない理由については、語義上まだ完全に機能語化⁵していないため、ときに語根の形で表れることがあるからだと指摘し、准接頭辞または准接尾辞が存在することは中国語の特色の一つであるとしている。呂(1983)の「准接頭辞」という言い方は、森岡(1994)と類似している。

朱(2001)は中国語の接辞の特徴を以下のようにまとめている⁶。

- ① 位置の固定性 接辞は必ず定位された機能語語素であり、その他語素の前または後に置くことができる。
- ② 意味の添加機能もあれば、語基の品詞性を変えることも可能である。造語力に生産性を持つ。
- ③ 語基に付着し、語基と極めて緊密な関係を持ち、一般的に他の成分の挿入ができない。
- ④ 音声の弱化現象がある。

朱(2001)は、中国語の“啊一、半一、本一、不一……”などの22語を接頭辞として分類しており⁷、「不」と「非」も接頭辞に分類されている。また、中国語の接辞の多くは、実質語から機能語化して形成されると指摘している。

以上、中国語の「不・無・非・未」は、文法的否定と語彙的否定両方を表すこ

⁵ 張(1979:20-70)は「実質語は単独で質問の答えとなり、実際の意味を持つ語である。実質語には名詞、動詞、形容詞、数詞、量詞、代名詞などが含まれる。一方で、機能語は単独で質問の答えとなることができず、実際の意味も持たない語であるが、文の補助的成分となり、前置詞、接続詞、助詞、感嘆詞などが含まれる」と述べている。

⁶ ①～④の日本語訳は筆者によるものである。

⁷ 朱(2001)では、“啊一、半一、本一、不一、超一、初一、打一、单一、第一、多一、反一、泛一、非一、分一、副一、该一、可一、见一、老一、所一、总一、准一”の22語を接頭辞に分類している。

とができる。語彙的否定として使用される場合は、接辞的特徴を持ち、日本語と類似した機能を有する。

次に韓国語の「不・無・非・未」は文法的にどのように位置づけられているかを見る。

3. 韓国語の「不・無・非・未」の位置づけ

Jo hyeonsug (1989)⁸は、否定の意味や機能を持つ形態素を文否定 (sentence-negation) と成分の否定(constituent negation)に分け⁹、文否定は工藤 (2000) の文法的否定であり、成分の否定は語彙的否定と共通しており、漢語名詞の前に付く否定接頭辞の「不・無・非・未」は成分の否定であると指摘している。同論文では、成分の否定の一般的な特徴、否定接頭辞と固有語の接頭辞及びその他漢語接頭辞との相違点について述べられ、漢字語の接頭辞が下接語の性格を変えることは固有語の接頭辞にはない特性であると指摘している。

Gim gyucheol(1980)は、「不・無・非・未」について意味を添加するだけでなく、品詞転換機能も持っている」と指摘し、准接頭辞と分類している。

Jo hyeonsug (1989)、Bag seogmun (1999) などの先行文献においては、韓国語の「不・無・非・未」は、下接語の品詞性を変える品詞転換機能について指摘されているが、例示に止まり、下接語と結合語の品詞性、品詞転換のある語数などについて詳細な分析は行われていない。また、日本語と韓国語の「不・無・非・未」の品詞転換機能についての対照研究も見られない。

4. 研究目的と研究対象

現代日本語において漢語の使用頻度は非常に高い。1字漢語は単独で使用されるよりも、多くはほかの語と結合して使用されている。特に「不・無・非・未」は否定を代表する1字漢語である。本論文では、上述の先行研究の問題点を鑑みて、現代日本語の「不・無・非・未」の造語機能と意味機能を明らかにし、通時的な考察を通して「不・無・非・未」の使用実態について観察する。また、対照研究を通じて、日本語と中国語、日本語と韓国語の「不・無・非・未」の相違点

⁸ Jo hyeonsug (1989) は韓国語で書かれた論文である。論文内容及び用語の翻訳は筆者によるものである。以下、外国語の論文内容をまとめる際の翻訳はすべて筆者による。なお、韓国語の漢字の字体は日本語と異なるが、本論文では便宜上日本語の字体を使用する。

⁹ Jo hyeonsug (1989) は「나는 학교에 안 간다. (私は学校に行かない。)」または「나는 학교에 가지 못 한다. (私は学校に行けない。)」における「아니」「못」は文否定の機能を担っており、韓国語の「無意識、不可能、非現実的、未解決」における「不・無・非・未」は接頭辞として成分の否定を担っているとしている。

と類似点を明らかにしたい。

本論文では現代語を中心に考察を行う。また、下接語に独立性のある「造語要素+2 字漢語」(3 字結合語) を研究対照とする。主に以下の問題点の解決を試みる。

- ① 各造語要素間の下接語と結合語の品詞性、及び否定の意味にはどのような関連性と差異があるのか。
- ② 各否定の造語要素は造語機能の規則性を持っているものの、造語機能の規則性に当てはまるすべての語には前接されていない。許容度かつ生産力はあるものの、漢語の消長、歴史的の語の定着度、翻訳語など様々な要因に左右されている。「不・無・非・未」の3字結合語はいつから出現し、現代に至るまで造語機能にはどのような変化があったのか。
- ③ 「不・無・非・未」は結合語を形容動詞に転換する品詞転換機能が見られる。これらの語は、程度副詞と共起することが可能であり、いわゆる程度性を持っている。「不・無・非・未」の否定の程度性にはどのような差異があるのか。
- ④ 日中両言語の「不・無・非・未」はどのような類似点と相違点を持っているのか。とりわけ、日中「不・無・非・未」の同形結合語は、どのような相違点があるのか。
- ⑤ 日韓両言語の「不・無・非・未」には、どのような類似点と相違点があるのか。とりわけ、日韓両言語の品詞転換機能にはどのような差異があるのか。
- ⑥ なぜ「不・無・非・未」が必要であるのか。

5. 本論文の構成

上記の①～⑥の問題意識から、本論文を2部に分ける。第Ⅰ部は日本語の「不・無・非・未」の造語機能と意味機能について考察を行い、第Ⅱ部は日本語と中国語、日本語と韓国語の「不・無・非・未」の類似点と相違点を論ずる。

本論文は NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』¹⁰から抽出した「不・無・非・未」の3字結合語を中心に、その造語機能と意味機能、及び日本語と中国語、日本語と韓国語との類似点と相違点について考察を行ったものである。抽出した語彙は、朝日新聞のデータベースによるものである。新聞データベースを選んだ理由としては、「不・無・非・未」は会話文よりも改まった文章

¹⁰ 考察対象とするデータは NTT データベース『日本語の語彙特性 第7巻』である。『日本語の語彙特性』は、1985年から1998年までの14年間に発行された朝日新聞の紙面に基づいて朝日新聞社が作成した、全記事データ(単語数341771語)をコーパスとして用いたデータである。

において多用されるためである。また、辞書では、現代において使用されている語彙に限られていないため、現代において使用例のある新聞データから対象となる語彙を抽出した。本論文の構成内容の詳細は以下のとおりである。

第一章では、先行研究に基づき、日中韓三言語において「不・無・非・未」の位置づけと問題意識、研究目的、研究対象、本論文の構成内容、及び研究意義について述べる。

第二章から第七章は本論文の第 I 部であり、日本語の「不・無・非・未」の造語機能と意味機能について考察を行う。本論文は下接語に独立性のある 3 字結合語を中心に検討する。それは、「不・無・非・未」の 2 字結合語と 3 字結合語の否定の意味、出現時期、分析方法に差異があると考えられるためである。2 字結合語と 3 字結合語は分けて考察を行う必要があることを提示するために、第二章は 2 字結合語も考察範囲に入れる。

第二章では、「不」と「非」の 2 字結合語と 3 字結合語を意味により分類し、通時的に「不」と「非」の 3 字結合語の意味機能と造語機能について考察を行う。

第三章では、「無」の下接語の性質と品詞転換機能の関わり、「無」の否定の意味について分析し、通時的に「無」の 3 字結合語の使用実態について観察する。「無」は「ない」の意味を表し、結合語の品詞を変化させる機能を持っている。しかしながら、すべての下接語が「無」と結合した後に品詞転換機能が見られるわけではない。「無」と結合前後に品詞が変わらない語も存在する。これは、「無」の下接語の意味と品詞性によるものであると考える。

第四章では、「未」の下接語の性質と否定の意味について考察を行い、通時的な考察を通して「未」の 3 字結合語の使用実態について観察する。

第五章では、程度副詞との共起から「不・無・非・未」の否定の程度性の相違点について考察を行う。程度副詞は「状態性の語を修飾し、その語に内在する「程度性」を限定することを主な働きとする。」¹¹「不・無・非・未」は否定の意味を表しているが、否定の程度はその先行する程度副詞によって表すことができると考えられる。第五章では、程度副詞「とても／すこし」との共起関係から「不・無・非・未」の否定の程度性について考察する。

第六章では、「非科学的」の成立過程を例に、「非〇〇的」¹²の構造について考察を行う。「不・無・非・未」のうち、「非」は 3 字結合語の語例が少なく、主に「非〇〇的」の形態が目立つ。本章では英和辞書により「非科学的」の成立過程につ

¹¹ 佐野 (1999:32) による。

¹² 「〇〇」は 2 字漢語を指す。

いて観察した上、「不経済／非経済的」「不合理／非合理的」「不衛生／非衛生的」など「不」と「非」の同形下接語の類似点と相違点を明らかにしたい。

第七章では、第Ⅰ部の考察結果に基づき、「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性、結合語の接続形態、否定の意味の相互作用により、「不・無・非・未」の優先選択の規則性をまとめる。

第Ⅱ部は対照研究であり、第八章と第九章からなる。

第八章では、日本語と中国語の「不・無・非・未」の同形結合語の、中国語への対訳可否の問題を中心に、日中両言語の「不・無・非・未」の類似点と相違点についてまとめる。

第九章では、日本語と韓国語の「不・無・非・未」の品詞転換機能を中心に、日韓両言語の「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性について観察する。

日本語と韓国語の否定の造語要素は、下接語の品詞を転換させる点で類似した機能を持つ。膠着語である日本語と韓国語における下接語と結合語の品詞転換機能は、結合語の文中における活用形が変わることによって働く。日韓両言語の「不・無・非・未」は数多くの同形語を形成しており、下接語と結合語の品詞転換機能を明らかにすることによって、両言語話者の誤用を防ぐことができる。そこで、第九章では、両言語の否定の造語要素全体の類似点と相違点を概観した上で、日韓両言語における「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性に焦点を当て、その類似点と相違点を明らかにしたい。

第十章では、本論文における主要な結論をまとめる。主に日本語の「不・無・非・未」の造語機能と意味機能、及び日中「不・無・非・未」の機能の類似点と相違点、日韓「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞転換機能の類似点と相違点についてまとめる。

6. 研究意義

本研究では、日本語の「不・無・非・未」の造語機能と意味機能を明らかにした上、日中、日韓と対照研究を行う。

膠着語としての日本語、韓国語と孤立語としての中国語は言語表現形態に違いがあるが、3言語は本来漢字文化圏の言葉に属し、相互に影響されている。「不・無・非・未」は中国から伝来したものであるが、現代に至るまでに日中韓3言語それぞれに浸透し、3言語の否定の造語要素は共通点もあるが、相違点も少なからず存在している。

日本語と中国語、日本語と韓国語の「不・無・非・未」の類似点と相違点を明

らかにすることによって、日本語学習者の否定の造語要素を勉強する際の母語による干渉を軽減し、日本語教育者が造語要素を教授する際の参考資料として活用することを可能とさせる。

第 I 部 日本語の「不・無・非・未」の機能

第二章 「不」と「非」の造語機能と意味機能

1. はじめに

「不」と「非」は否定の造語要素として使われている。「不誠実」は「誠実でないこと」¹³、「非公式」は「公式でないこと」の意味を表し、「不誠実」と「非公式」のいずれも「～でないこと」の意味を持っているが、「非誠実」と「不公式」とは言いにくい。また、それぞれマイナスの意味をもたらす語「不健康」、「非行」と、マイナスの意味を持っていない語「不干涉」、「非会員」とがある。これらの言語現象を解明するには、「不」と「非」の造語機能と意味機能を明らかにする必要がある。

2. 先行研究

野村（1973）は、現代雑誌 90 種の用語調査と電子計算機による新聞の語彙調査¹⁴により主に否定の接頭語が 2 字漢語に付加される場合に着目し、否定の接頭語の結合対象となる語を実体概念と属性概念¹⁵に分けて分析を行った。その結果、「不」と「非」はいずれも実体概念と属性概念をさす語の前に前接し、属性概念を表す語のうち、性質や状態を表す語と結合する用法を持っており、「非」のほうが実体概念を指す語に結合しやすいことを明らかにした。なお野村（1973）は、「不」がサ変動詞に付く場合、「～しない」という動作性を伴った意味に意識される傾向が強いと指摘しているが、一方で「動作性否定」と認められない場合も存在する。例えば「不消化」・「不調和」・「不用意」などの語は「消化しない」・「調和しない」・「用意しない」などの動作性の否定よりも、「消化していない」・「調和していない」・「用意していない」など状態の否定としての位置づけが妥当であろう。

拙稿（朴 2015）では、NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第 7 巻』により抽出した「不」と「非」に後続する 2 字下接語を名詞(N)、動名詞(VN)、形

¹³ 語の意味は『日本国語大辞典（第二版）』を参照する。

¹⁴ 現代雑誌 90 種の用語調査（『国研報告 21・22・25』所収）では、昭和 31 年に発行された 90 種類の雑誌から、延べ語数で約 44 万語を、電子計算機による新聞の語彙調査（『国研報告 48』所収）では、昭和 41 に発行された三種類の新聞から、約 300 万語を標本として抽出している。

¹⁵ 野村（1973）は、文脈の中で、コトやモノを表すと見られる語または結合形を「実体概念を表す表現」とし、サマを表すものを「属性概念」を表す表現としている。野村（1973）は、「たいせつなのは健康だ」の「健康」は、「健康トイウコト」という実態視された概念を表し、「かれは健康だ」の「健康」は「健康ナヨウス」という属性を表し、両者は区別されると指摘している。

容動詞性名詞(AN)¹⁶に分類して分析を行った。次の(1)と(2)に語例を示す。

(1)不 N(24 語)	不経済	不衛生	不品行	… ¹⁷
不 VN(48 語)	不許可	不処分	不成功	…
不 AN(36 語)	不穏当	不活発	不得意	…
不 AN/VN(9 語)	不安心	不評判	不安定	…
(2)非 N(8 語)	非衛生	非公式	非合理	非条理
	非人情	非金属	非現業	非国民
非 VN(5 語)	非存在	非課税	非公開	非上場
	非具象			
非 AN(1 語)	非合法			

「不」と「非」はいずれも名詞、動名詞、形容動詞性名詞の前に前接可能であるが、「不」は動名詞を下接語とする結合語が最も多く、「非」に比べて形容動詞性名詞の下接語も圧倒的に多い。一方で、「非」の下接語の多くは名詞であるのが特徴である。このような「不」と「非」の下接語の品詞の類似性により、「不経済／非経済」「不合理／非合理」「不衛生／非衛生」などの同形下接語を否定する語例が見られる。それぞれ「経済的でないこと」「合理的でないこと」「衛生的でないこと」という意味を表すことは共通しているが、次の(3)(4)のように、連体修飾をする場合、「不」の結合語は「(不+2 字漢語) な」の接続形態が多いのに対して、「非」の結合語では「(非+2 字漢語) な」は少なく、「的」と共起して使用される場合が多い。以下用例¹⁸を挙げながら説明する。

(3)自分はそのような一生を幾片にも破断するような不経済なことは、けっしてしたくない。

阿部善雄 2004 『最後の「日本人」』

¹⁶ 拙稿(朴 2015)は、「不」と「非」の下接語を名詞(N)、動名詞(VN)、形容動詞性名詞(AN)に分類し分析を行った。

- ・名詞：名詞だけの品詞の語(例：規則・条理・成績など)。
- ・動名詞：サ変動詞になり得る名詞(例：許可・調和・飽和など)。
- ・形容動詞性名詞：形容動詞になりうる名詞(例：穏当・可能・健康など)。

¹⁷ 品詞別に分類した「不」の3字結合語は【資料1】に示す。

¹⁸ 本章の用例は現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版(略称BCCWJ-NT)による。用例の下線は筆者による。

(4)防衛設備のコスト増大と精巧化のため、各国、特に発展途上国にとって、自己の製品計画と生産基盤から合理的な防衛必要をすべて満たすことは、ますます困難となり、非経済的になっている。

著者不明・浦野起央(訳)2002『資料体系アジア・アフリカ国際関係政治社会』

また、次の(5)(6)ように「不」は評価しうる範囲内で基準を満たさないことを表し、「非」は評価範囲外を表すこともできる。

(5)市長は冒頭、「最近、私に関する雑誌などで、皆さんに不安や戸惑いを与えていることについて、本当に心苦しく思っています」と切り出し、「実に理不尽、不合理的な内容が多い」と批判した。

朝日新聞 2007

(6)近代の文明は神秘や迷信などの非合理的なものを排除し、科学的な合理性と効率の道を目指した。

朝日新聞 2006

(5)の「不合理」は合理性で評価しうる範囲内で基準を満たさないものを指し、(6)の「非合理的」は「神秘」、「迷信」などのように合理性で評価しうる範囲外にあるものを指す。

このように「不」と「非」には、下接語の品詞性及び結合語の形態、意味の類似点と相違点が見られる。従来の研究では、「不」と「非」の3字結合語に着目し、2字結合語については研究が進んでいない。しかしながら、「不漁」「不足」「非凡」「非礼」のように、「不」と「非」の2字結合語においても否定の意味が存在しているため、「不」と「非」の否定の意味の全体像をみるには、2字結合語も分析する必要がある。ただし、2字結合語と3字結合語は成立時期と分析方法に差異があるため、本研究では3字結合語を中心に考察を行うが、2字結合語と3字結合語の差異を提示するために、本章では、「不」と「非」の2字結合語も考察範囲にいれ、3字結合語と対照しつつ、「不」と「非」の意味機能について概観した上、近世以前に既に使用されている2字結合語に対し、3字結合語は近世以前、近世以降にどのような造語機能を持っていたかについて考察を行う。

3. 考察データと分類基準

本章では NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』により「不」と「非」の2字結合語と3字結合語を分析対象とする¹⁹。詳しい分類基準は以下に示す。

- ① 3字結合語のうち、「不思議」・「不世出」のような現代語において「不/非+2字漢語」に分解できないものは対象外とする。
- ② 語の意味は、『日本国語大辞典（第二版）』を参照し、結合語に二つ以上の意味がある場合、その後に数字（1、2、3…）を付加した上、否定する対象を示す。たとえば「不知」は、「知らないこと。知っていないこと。また、そのさま。」と、「知恵がないこと。思慮がないこと。愚かであること。また、そのさま。」といった二つの意味があり、前者を「不知 1（知る）」、後者を「不知 2（知恵）」とする。
- ③ 「不」と表記し、「ぶ」と発音される語は結合語の後に（ぶ）と表記し、「ふ」、「ぶ」両方読まれる語は結合語の後に（ふ・ぶ）と記す。

4. 「不」の2字結合語と3字結合語の否定の意味

上記の分類基準に基づき、本節では「不」の否定の意味について考察を行う。

- (7) 不法就労はもちろん悪いが、外国人派遣サービスは重宝だった。

毎日新聞 2004

- (8) 僕は二度とその不注意な行為をくり返さなかった。

大藪春彦 2002 『小説すばる』

- (9) 当時の大学は、一、二年生の間は教養部というところで教養科目などを勉強することになっていました。これがどうも不評判で、はやく学部に進みたいと思う学生が多かったようです。

佐藤洋一郎 2002 『DNA 考古学のすすめ』

- (10) 事業者は不公正な取引方法を用いてはならない。

塩原義則 2004 『薬事関係法規・制度』

¹⁹ 「不」の2字結合語と3字結合語の対象語彙は【資料2】に示す。

(7)の「不法」の下接語「法」は、「法律」のことであり、「不法」は「法律にそむく」という意味を表す。下接語の「法律」は、基準のあるものであり、「不」の結合語は「(ある基準)にそむく／外れる／合わない」という意味を表すことができる。(8)の「不注意」は「注意が足りないこと」を表し、「不」の結合語は「足りない」の意味を表す。(9)の「不評判」は「評判が悪いこと」を表し、「不」は下接語に「悪い」という意味を付加する。また、(10)の「不公正」は「公正である」という状態の否定を表し、「不」の結合語は「～でない」の意味を持っている。

さらに、次の用例のように、「不」は「ない」の意味を表し、並びに動作の否定と状態の否定を表すことができる。

(11)不敵な面構えで、四十代半ばくらいだろうか。

斎藤純 2004『銀輪の覇者』

(12)家庭と学校の不干涉が徹底している欧米では、家庭訪問は基本的に「ない」という。

朝日新聞 2001

(13)補修決議に不賛成の者は賛成者に区分所有権の時価での買い取りを請求できる。

神戸新聞 2002

(14)商売の成功不成功を決定するのは、ネックになっている部分ですから、いちばんネックになっていることを解決することが鍵になります。

邱永漢 2001『お金の原則』

(11)の「不敵」は「相手になる者がいないこと」であり、「不」の結合語は「ない」の意味を表す。(12)の「不干涉」は「干涉する」という動作の否定を表し、(13)の「不賛成」は「賛成する」の否定を表す。一方で、(14)の「不成功」は「成功する」状態の否定を表す。

このように「不」の結合語の意味は、以下の a～g に分類することができる。「不」の結合語は 234 語あり、以下に語例の一部を示す。

a (ある基準) にそむく／外れる／合わない

1 字下接語：不法 不意 1 (思い) 不順 1 (正道) …

2 字下接語：不本意 不条理 不徳義…

b (量、レベルなど) が足りない

1 字下接語：不才 不漁 不意 2 (注意) …

2 字下接語：不勉強 不注意 不見識…

c～が悪い

1 字下接語：不作 2 (作物) 不作 3 (作品) 不出 2 (出来上がり) …

2 字下接語：不首尾 不始末 不成績…

d～でない

1 字下接語：不孝 不幸 不祥…

2 字下接語：不公正 不健全 不公平…

e～がない

1 字下接語：不敵 不二 不例

f (動作) しない

1 字下接語：不言 不作 1 (耕作) 不参…

2 字下接語：不賛成 不承知 不処分…

g (状態) しない／していない

1 字下接語：不急 不朽 不具…

2 字下接語：不合格 不安定 不一致…

上記の a～g の分類のように e「～がない」の意味を除いて、「不」の 2 字結合語と 3 字結合語はいずれも同様の意味を持っている。「不」の 3 字結合語に e「～がない」の意味が発達していないことは、否定の造語要素である「無」に「～がない」の意味があることが原因であると考えられる。

「不」の否定の意味と対照しつつ、次に「非」の否定の意味について分析を行う。

5. 「非」の 2 字結合語と 3 字結合語の否定の意味

「非」の結合語の語例は 38 語で、「不」の結合語 234 語に対して語例が少ないが、両者は意味の類似点と相違点が見られる。「非」の意味の分類について、以下に用例を挙げながら、説明を行う。

(15)パワー氏は決して非人情な冷血漢ではない。

井口時男（ほか）2007『現代文』

(16)田の土を掘る作業は、ふだんデスクワークばかりやっている非力な私の体力にはこたえた。

小宮宗治 1999『定年後・八ヶ岳いなか暮らし』

(17)少年の場合は、非行といっても育ち方や環境の影響が非常に大きいんです。

矢野達雄 2004『マンガからはいる法学入門』

(18)今日は休みで、非番です。

菅篤哉 2005『一日一訓おじいさんのお話』

(15)の「非人情」は「人情にはずれること」、「非理」は「理に合わないこと」の意味があるように、「非」は「不」と同様に、「(ある基準)にそむく／外れる／合わない」という意味を表すことができる。(16)の「非力」は、「体力・腕力の弱いこと。あるいは、力量のとぼしいこと」を表し、「非」の結合語は「足りない」の意味を有する。また、(17)の「非行」は「不正な行い、不良行為」の意味を表し、「非」は「悪い」というマイナスの意味を付加する。(18)の「非番」の下接語は「番」であり、「非番」は「当番でないこと」を表し、「非」は「～でない」の意味を付加する。

このように「非」は次の四つの意味を持つ。以下に語例を示す。

a (ある基準)にそむく／外れる／合わない(10語)

1字下接語(6語)：非法 非理 非道 非礼 非情 非望

2字下接語(4語)：非人情 非国民 非条理 非合理

b (～が足りない／ない／少ない／低いなど)基準以下(3語)

1字下接語(3語)：非学 非才 非力

c～が悪い(3語)

1字下接語(3語)：非勢 非行 非運

d～でない(22語)

1字下接語(12語)：

非常 非凡 非番 非分 非命 非家 非業 非時 非晶 非人

非有 非職

2 字下接語(10 語) :

非衛生 非公式 非具象 非公開 非上場 非課税 非合法 非現業
非金属 非存在

「非」の結合語は上述の 4 つの意味を持っているが、b「(量、レベルなど)が足りない」と c「～が悪い」の意味は、2 字下接語の否定には用いられていない。また、a～d の意味は「不」とも類似している。

「不」と「非」はいずれも d「～でない」の意味を持っているが、「不」は「不健康」「不親切」「不正直」のように、下接語の「健康」「親切」「正直」という状態を否定する。一方で、「非」は「非凡」「非衛生」のような状態語の否定のほか、「非金属」「非公式」のような「金属」「公式」という事物や事態の否定の意味も表すことができる。

また、「不」は 1 字下接語及び 2 字下接語を否定する場合、e「～がない」以外に a～g の各否定の意味を表すことができるが、「非」の 3 字結合語には「～が足りない」「～が悪い」「～がない」の意味を表す語例が見られない。「非」の 2 字結合語における「足りない」「悪い」などのマイナスの意味は、「非」の 3 字結合語の造語には影響されていないようである。『字通』によると、「不」の字訓は「はなふさ・おおきい・しからず」とあり、「非」の字訓は「くし・そむく・わるい・あらず」とあることから、「不」は単純な否定、「非」は「わるい」というマイナスの意味を伴うと考えられる。しかしながら、「不」と「非」の 3 字結合語においては、「不」のほうが「悪い」という意味を伴い、「非」は、久保（2010）に指摘されているように「ある対象が、当該するカテゴリーに属していない」という否定の意味を持っている。

次に近世以前の文学作品、及び明治、大正期の雑誌『太陽』コーパスから「不」と「非」の 3 字結合語の出現時期について概観することによって、「不」と「非」の 3 字結合語の否定の意味及び造語機能について通時的な考察を行う。

6. 「不」の造語機能の通時的考察

6.1 上代から近世における「不」の3字結合語の使用実態

本節ではジャパンナレッジの『新編 日本古典文学全集』により、上代から近世にかけて「不」の3字結合語(異なり語数)の使用実態について分析を行う²⁰。

「不」の3字結合語は、中古では「不牢固²¹」1語のみである。

(19) (前略)「世界不牢固」(せかいふらうこ)とのみ思さるるぞ、げに、世の人の言ぐさに思ひきこえさせたるやうに、いかに変化の現れたまへるにや。

狭衣物語 (1) p.24 / 校注・訳：小町谷照彦 後藤祥子

(19)の「世界不牢固」は、「世皆不牢固」のことで、「世ハ皆牢固ナラザルコト水ノ沫・泡・焰ノ如シ」(『法華経』随喜功德品の偈の句)²²の引用である。「不牢固」の「不」は「確固としたものはない」という状態の否定を表し、仏教用語からの引用であることが分かる。

中世では、「不得心⁴」「不相応²」「不汚染¹」「不満足¹」「不自由³」「不案内¹」などの6語が見られる。

(20) 僻事を以て不得心 (ふとくしん) の所望をなさば、

正法眼蔵随問記 p.352 / 校注・訳：安良岡康作

(21) これに依つて、内・外不相応 (ふさうおう) の事出で来る。

正法眼蔵随問記 p.353

(22) ただ、身心を仏法に投げ捨てて、さらに、悟道・得法をも望む事なく、修行する、これを不汚染 (ふをぜん) の行人と云ふなり。

正法眼蔵随問記 p.474

²⁰ 近世までの用例及び用例の出典、ページは、ジャパンナレッジの『新編日本古典文学全集』により検索したものである。また、用例の下線と省略記号「…」は筆者によるものであり、括弧内は右ルビを示す。以下、第三章と第四章も同様である。

²¹ 結合語の後の数字は使用頻度を表す。

²² 語例の意味はジャパンナレッジの『新編 日本古典文学全集』の注釈または現代語訳を参照した。

(23) (前略) 此願不満足(しぐわんふまんぞく)と舌をのごひ、誓不成正覚と口をはく。

海道記 p.81 / 校注・訳：長崎健

(20)の「不得心」は、注釈に「納得できないこと。不承知」とあり、納得する状態になっていないことを表す。(21)の「内・外不相応」は注釈に「心の内に思う事と、外に現れた行為とが一致しないこと」とあり、「不相応」は「相応しない」「一致しない」という状態の否定を表す。(22)の「汚染」は、注釈により「分別心をもってけがすこと」を表し、「不汚染」は、「そうした心を投げ捨てた、清浄の、または、絶対無上の意」であることから「不汚染」は「汚染していない」という状態の否定を表している。(23)は、注釈に「此ノ願ヒ満足セザレバ、誓ツテ正覚ヲ成サズ」(無量寿経上)による)とあり、「不満足」は「満足する」状態でないことを表す。

(24)「へェ、お腹立ちは重々御尤もではござれども、おごうが居りませいで、何かにつけて不自由にござる。…」

狂言集 p.307

(25)愚僧は都不案内のものでござるによって、何とぞ都へ道案内をなされて下されうならば忝うござる。

狂言集 p.411

(24)の「不自由」は「自由でないこと」を、(25)の「不案内」は詳しく知らないことを表す。中世に新たに使用されている「不」の3字結合語うち、「不得心」「不相応」「不汚染」「不満足」の「不」は「(状態)しない／していない」を表し、「不自由」「不案内」の「不」は「～でない」という意味を付加する。また、「不得心」「不相応」「不汚染」の出典は、道元の法語がまとめられた『正法眼蔵随問記』であることと、「不満足」も仏教用語からの引用であることから、中世の「不」の3字結合語は、仏教用語の影響が大きいと思われる。

近世において、新たに出現した語例は28語あり、「不」は次のような否定の意味を表す。

a (ある基準) にそむく／外れる／合わない(3 語)

不作法 (ぶ) 2 不本意 1 不理屈 1

b (量、レベルなど) が足りない(9 語)

不用意 7 不用心 4 不所存 4 不覚悟 3 不見識 1 不詮索 (ぶ) 1

不詮議 (ぶ) 1 不掃除 1 不人情 1

c～が悪い(6 語)

不調法 (ぶ) 27 不首尾 (ぶ) 22 不行儀 8 不了簡 7 不機嫌 (ぶ) 6

不器量 2

d～でない (5 語)

不器用 6 不心中 (ぶ) 6 不風雅 (ぶ) 3 不風流 (ぶ) 2 不全盛 (ぶ) 1

f(動作)しない(4 語)

不承知 7 不養生 (ぶ) 4 不退転 1 不同心 1

g(状態)しない／していない(1 語)

不落居 1

「不」は「不器用」「不風流」のような「～でない」という意味を表すほか、「(ある基準) にそむく／外れる／合わない」「(量、レベルなど) が足りない」「～が悪い」「(動作) しない」「(状態) しない／していない」などにも用いられ現代語と同様に否定の意味の多様性が見られる。以下に用例の一部を示す。

(26)髪切つた後家女に、女敵とは不理屈ながら、これも調べて益ないこと。

近松門左衛門集 (1) 源五兵衛 おまん 薩摩歌 p.289／校注・訳：鳥越文蔵
他

(26)の「不理屈」は現代語訳に「理屈に合わぬ」とあり「不」の結合語は「(ある基準) にそむく／外れる／合わない」という意味を表す。

(27)子どもの難儀仕申候やうに、兄者人不覚悟(あにじやびとふかくご)いたし置かれ候。

井原西鶴集 (3) 万の文反古 p.270／校注・訳：暉峻康隆 他

(28)父義盛の不詮議(ぶせんぎ)と、吐したやつら。素頭打ち砕く。

近松門左衛門集 (3) 曾我会稽山 p.366／校注・訳：鳥越文蔵 他

(27)の「不覚悟」は注釈から「油断して失敗すること」であり、「覚悟が足りない」という意味を表す。また、現代語訳から(28)の「不詮議」は「調べ不足」の意味であるように「不覚悟」「不詮議」は「～が足りない」という意味を表している。

(29)むかしは瘦馬にもものつて、鑓の一筋ももたした人でござれば、こんな事きかれましたら、不行儀（ふぎやうぎ）ものめと、迎いけてはおかれますまい。

浮世物語集 野白内証鑑 p.245

(30)あげ畳といふ事は、簀子の下へ道を付けて、不首尾（ぶしゅび）なればぬけさすなり。

井原西鶴集 (1) 好色一代男 p.122

(29)、(30)の「不行儀」「不首尾」はそれぞれ「行儀が悪い」「首尾が悪い」の意味を表し、「不」は「悪い」という意味を付加する。

(31)…天命を知る年になりて、平生の不養生（ぶやうじやう）にて頓死をせられける。

原西鶴集 (3) 日本永代蔵 p.46

(32)また女郎のかたより文日をたのめば、大かた十人の客七、八人迄は不同心（ふどうしん）の貞（かほ）見ゆる、是は何たる事ぞや。

浮世草子集 好色敗毒散 p.68

(31)の「不養生」は「養生しないこと」、(32)の「不同心」は「同意しないこと」を表し、「不」は「(動作) しない」という否定の意味を表す。

(33)職人の手前は濟みながら、不落居（ふらつきよ）なことにて、道具を止められ、下りませぬと。

近松門左衛門集 (1) おなつ清十郎 五十年忌歌念仏 p.26

(33)の「不落居」は注釈に「合点のいかないこと。風変わりなこと。」とあり、「落ち着かない、落居しない」という意味を表すので、「不」は「落ち着いた」状態になっていないことを表す。

(34)…寺にあげて手習ひをさすれども、芸能の方はことのほかに不器用(ふきよう)なり。

浮世物語 p.92／校注・訳：谷脇理史 他

(35)さやうのおもはく持ちたる上臈は、大様不全盛(ぶぜんせい)なるものなり。

けしずみ p.415／校注・訳：谷脇理史 他

(34)は現代語訳に「武芸・学芸のほうは、とりわけ無器用な子供だった。」と解説されていることから、「不器用」は「器用でない」という意味を表す。(35)の「不全盛」は注釈に「はやらない。客があまりつかない。」とあり、「全盛でない」という意味を表している。

中古から中世にかけて「不」は「(状態) しない／していない」と「～でない」という意味を表し、主に仏教関連の文献に使用されている。近世になって「不」は、新たに「(ある基準) にそむく／外れる／合わない」「(量、レベルなど) が足りない」「～が悪い」「(動作) しない」などの意味を表すようになり、現代における「不」と同様に意味の多様性を見せるようになる。現代において「～が足りない」の意味は造語力を持たず、その他の意味を持つ語は増えており、とりわけ「～でない」の意味の語が多く定着している²³。

中古から近世にかけて「不」の3字結合語の否定の意味と語数について次の表1にまとめる。

近世に新たに出現した28語のうち、「不全盛(ぶ)、不風流(ぶ)、不心中(ぶ)、不風雅(ぶ)、不養生(ぶ)、不調法(ぶ)、不首尾(ぶ)、不機嫌(ぶ)、不作法(ぶ)、不詮索(ぶ)、不詮議(ぶ)」などの11語は、右ルビに「ぶ」と記されていることから、「不」の結合語にはマイナスの意味が込められていることが窺える。須山(1974)は、ブツ(打)が「ブチコロス、ブチノメス、ブチマケル、ブンナグル」など殴打の動作の類の用法に用いられることから、相手に危害を加えるような「ぶ」という濁音が嫌悪感を催す意味を背負って「不」の変形として成り立つ事情が考えられると指摘している。

²³ 【資料2】をご参照。

表 1 「不」の3字結合語の出現時期及び否定の意味

否定の意味	中古	中世	近世
a(ある基準)にそむく／外れる ／合わない	—	—	3語
b～が足りない	—	—	9語
c～が悪い	—	—	6語
d～でない	1語	2語	5語
e～がない	—	—	—
f(動作)しない	—	—	4語
g(状態)しない／していない	—	4語	1語

6.2 明治、大正期における「不」の3字結合語の使用実態

本節では『太陽』コーパス²⁴により、「不」の3字結合語の使用実態について観察する。

近世までの「不」の3字結合語が35語あるのに対し、明治、大正期の雑誌『太陽』における「不」の3字結合語は190語と急増している。そのうち、名詞下接語は44語、動名詞下接語は75語、形容動詞性名詞の下接語は61語、動名詞に形容動詞性を兼ねる下接語は10語ある。次の(36)～(39)に語例を示す。

(36)下接語がNの語 (44語)

不景氣 229	不經濟 76	不合理 75	不規則 66	不條理 45
不道德 44	不品行 38	不徳義 26	不規律 20	不得策 20
不人望 20	不本意 18	不結果 17	不面目 17	不權衡 16
不氣味 14	不行跡 11	不見識 11	不体裁 11	不人情 10
不秩序 9	不作法 9	不義理 8	不人氣 8	不成績 7
不器量 4	不衛生 3	不調子 3	不正義 3	不要領 3
不行儀 2	不理屈 2	不節操 2	不所存 2	不能力 2
不行状 1	不勇氣 1	不適意 1	不徳行 1	不憐憫 1
不博愛 1	不効果 1	不信義 1	不感情 1	

²⁴ 『太陽コーパス』は、明治大正期によく読まれた雑誌『太陽』（博文館刊）を資料とした日本語コーパスであり、雑誌『太陽』の1895・1901・1909・1917・1925年の約1400万字の全文が収録されている。

(37)下接語が VN の語 (75 語)

不信任 192	不利益 167	不統一 59	不生産 58	不平均 41
不注意 41	不調和 37	不同意 37	不承知 32	不案内 27
不徹底 24	不用意 24	不成立 24	不信用 22	不賛成 21
不成功 18	不整頓 13	不消化 12	不合格 10	不割譲 9
不認可 8	不進歩 8	不養生 8	不退轉 8	不溶解 7
不整理 6	不首尾 5	不講和 5	不完備 5	不用心 4
不一致 4	不勉強 4	不起訴 4	不發達 4	不經驗 4
不活動 4	不了簡 4	不攝生 3	不得心 3	不信認 3
不細工 3	不遠慮 3	不信心 3	不信仰 3	不和合 3
不承認 3	不参加 3	不覺悟 2	不適合 2	不承諾 2
不調理 2	不連絡 2	不研究 2	不感服 2	不同情 2
不移轉 2	不合議 2	不檢舉 2	不飽和 1	不定住 1
不宣誓 1	不連續 1	不許諾 1	不採定 1	不賛同 1
不融通 1	不認容 1	不獨立 1	不休息 1	不節制 1
不決定 1	不援助 1	不理解 1	不比例 1	不相反 1

(38)下接語が AN の語 (61 語)

不可能 321	不完全 282	不自然 147	不十分 91	不適當 89
不自由 85	不愉快 70	不公平 69	不健全 68	不必要 67
不充分 65	不名譽 36	不親切 34	不穩當 18	不如意 18
不健康 17	不機嫌 17	不正直 17	不適任 16	不熱心 14
不熱心 14	不明瞭 13	不分明 12	不熟練 12	不道理 10
不活潑 ²⁵ 10	不格好 ²⁶ 10	不誠實 8	不便利 8	不器用 7
不平等 7	不忠實 7	不鮮明 6	不隨意 6	不透明 5
不精確 5	不幸福 5	不正確 4	不風流 4	不安固 4
不合法 4	不得意 3	不信實 3	不精密 3	不正當 3
不純粹 2	不暢達 2	不明白 2	不快活 2	不公明 1
不整然 1	不清潔 1	不堅確 1	不元氣 1	不懇親 1
不堅固 1	不均一 1	不鞏固 1	不周到 1	不神聖 1

²⁵ 「不活潑」は「不活發」という表記もあるが、字体のみ異なるため、同一の単語と見なす。

²⁶ 「不格好」は「不恰好」という表記もあるが、字体のみ異なるため、同一単語と見なす。

不慎重 1

(39)「不」の下接語が VN/AN の語 (10 語)

不都合 209 不満足 68 不謹慎 29 不始末 28 不相應 26
不安心 24 不評判 19 不相當 18 不調法 2 不繁昌 2

(36)～(39)の明治、大正期に使用例のある「不」の3字結合語の190語のうち、近世以前から使用例のある語はわずか25語(13.2%)である。

(40)近世から使用例のある語 (25 語)

不得心 不相応 不満足 不自由 不案内 不本意 不理屈 不作法
不用意 不用心 不所存 不覚悟 不見識 不人情 不了簡 不行儀
不調法 不器量 不首尾 不機嫌 不器用 不風流 不退転 不養生
不承知

明治以降には2字漢語が多く作られたため、「不」の3字結合語が急増していると考えられる。現代語²⁷の下接語の品詞性と同様に、「不」は名詞、動名詞、形容動詞性名詞に前接し、動名詞下接語の語数が最も多い。

『太陽』コーパスにおける「不」の3字結合語のうち、使用頻度の高い語は現代においても使用されているが、使用頻度の低い語の多くは現代語に使用例が見られない。

使用頻度の低い語は臨時的に造られた可能性が高いため、現代には定着しなかったと考えられる。臨時的に造られた語の使用環境は以下の二つに分けられる。一つは「不」の否定により肯定と否定が対になって使用される。もう一つは「不」の結合語の連続的使用現象である。

(41)人は自己若くは他人の行状、行爲に關して斷定すと曰ふことも亦第二の事實なり。而して此斷定は善又は惡と曰ふ賓位を有す。例へば某の行爲は善なり、又は其の行状は惡なりと曰ふが如し、或る人の行状及び意衷は傍觀者に適意若くは不適意の感動を惹起す。

湯本武比古 1895 「フリードリッヒ、パウルゼンの倫理学」

²⁷ 本論文における現代語は NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』により抽出した「不・無・非・未」の結合語を指す。

(42)吾人は、如何なる行状、例へば他人に對して、如何なる行状をなすべきかは、道義によりて、指示せらるゝことを知る、吾人は教育により、徳行及び不徳行に關する社會の斷定により、法律により、刑罰により、而して道義規則によりて、如何に自ら行爲せねばならぬかを、幼少の時より銘肝す。

湯本武比古 1895「フリードリッヒ、パウルゼンの倫理学（承前）」

(43)所謂一視同仁的態度よりして是れを言ふと、帝國は北方派、南方派と云ふ區別によりて援助不援助を決し、…

西湖漁郎 1917「段祺瑞と日支關係」

(41)～(43)は、肯定側の「適意」「徳行」「援助」に続き、否定の「不適意」「不徳行」「不援助」が使用されている。

(44)英國と雖亦然り、我れ豈豫じめ非英國的感情を有せんや、苟くも其の一舉一動の我に不利益不感情なるに於て、我は斷然之に向つても亦膺懲する所なきを得ざるのみ。

著者不明 1895「輿論一斑」

(45)國家の形勢が國民の緊張した精神状態を要求すること今より大なるはないのに、學校内の氣風は反て漸次弛緩し、不誠實不堅確となつて來る。

兆水漁史 1917「兵式体操と一年志願兵制度の整理」

(46)不經濟で不堅固な木材建築を止めて、此の鐵筋コンクリートの建築をお勧めする次第である。

浅野総一郎 1925「時局に面して安田善次郎翁を想ふ」

(44)は「不利益」に続き「不感情」が使用され、「不」による否定が連続的に使用され、その各語の使用頻度は順に 167、1 である。即ち、当時ある程度使用頻度の高い「不利益」の影響により、後続の語も「不」が用いられた可能性も考えられる。(45)の「不誠實」と「不堅確」の使用頻度はそれぞれ 8 と 1 であり、(46)の「不經濟」と「不堅固」の使用頻度はそれぞれ 17 と 1 である。

このような臨時的に造られた語の多くは、現代には定着せず、現代では近代に比べ、「不」の 3 字結合語が減少している。

7. 「非」の3字結合語の使用実態

7.1 上代から近世における「非」の3字結合語の使用実態

「非」の3字結合語は、中古の「非参議4」、中世の「非学生2」の2つの語例が見られる。

(47) なまなまの上達部よりも、非参議（ひさんぎ）の四位どもの、世のおぼえ口惜しからず、もとの根ざしいやしからぬ、やすからに身をもてなしふるまひたる、いとかはらかなりや。

源氏物語（1）帚木 p.59／校注・訳：阿部秋生（他）

「非参議」は、注釈に「三位以上でまだ参議にならぬ者、四位で一度参議に任ぜられたことのある者、四位でも参議の資格をもつ者、「非参議の四位ども」は上記の第三にあたる」とあり、「非参議」は「参議でない」の意味から「非」は、「～でない」という否定の意味を表す。

(48) 「御文、本より非学生（ひがくしやう）にて、子細を知らぬさかしらす物かな。…」

沙石集 p.239／校注・訳：小島孝之

現代語訳では「そなたはもともと学僧ではないから、訳も知らずに差し出口をするのよ。」のように「非学生」は「学僧でない」の意味から、「非」は「～でない」という否定の意味を表す。

「非」の3字結合語は、近世以前では「非参議」「非学生」の2例のみで、「参議」「学生」という職名と身分の否定に用いられている。「非」の2字結合語における「基準以下」「悪い」などのマイナスの意味及び「非」の文字そのものが持っているマイナスの意味は「非」の3字結合語の造語には影響されていない。

7.2 明治、大正期における「非」の3字結合語の使用実態

近世以前では、「非」の3字結合語が2語であるのに対し、明治、大正期には、40語となる。

(49)下接語が N の語 (31 語)

非立憲 42	非官僚 34	非常識 13	非公式 10	非政友 9
非藩閥 6	非軍人 6	非佛説 5	非道德 3	非人道 2
非文明 2	非論理 2	非議員 2	非保険 2	非國民 1
非現實 1	非自己 1	非正義 1	非副業 1	非現役 1
非教民 1	非學術 1	非博愛 1	非詩人 1	非商人 1
非眞理 1	非協會 1	非平和 1	非歌人 1	非醫者 1
非凡人 1				

(50)下接語が VN の語 (8 語)

非募債 23	非干涉 5	非改正 4	非増税 4	非併合 4
非賠償 2	非改造 1	非獨立 1		

(51)下接語が AN の語 (1 語)

非尋常 1

近世以前の「非参議」と「非学生」の下接語はそれぞれ身分と職名を表す名詞である。近世以降では身分・職名を表す名詞のほか、「正義」「文明」などの抽象名詞も増えており、名詞のみならず、動名詞、形容動詞性名詞の下接語もある。「不」と同じように「非」の否定により肯定と否定が対になって使用される用例がある。

(52)已に個人無し詩人非詩人の別あらんや。

坪内逍遙 1895「戦争と文学(承前)」

(53)之れ政治家たるものは古今東西を問はず、國の立憲非立憲を論ぜず、共に國民元氣の代表者たり指導者たるによる、

吉村銀次郎 1895「国民の元氣」

(54)果して然らば改正非改正の大体論にあらず、全部改正一部改正の大体論にもあらず、要は止だ草案各條の當否完不完の論たるべき道理ならずや。

内田魯庵 1901「老壯士」

(52)～(54)は、「詩人」「立憲」「改正」の否定として「非」が用いられている。

(55)西園寺内閣は爲に人心緩和の必要を看取し政府の財政方針として非増税非募債を宣言するの已む無きに至り時の財務當局者をして屢々此の言を爲さしめたりしに拘らず、

本多精一 1909「財政経済」

また、(55)のように「非」の3字結合語の連続的使用も見られるが、多くは(56)～(58)のように「非～的」の形態または「非+名詞複合語」の形態が連続的に使用される。

(56)然れども彼の思想は非科学的、非論理的、非倫理的、非哲學的、非宗教的なり、

龍山学人 1901「宗教時評」

(57)そんな非實用的な非生産的なものに、資を投ずることの如何に馬鹿馬鹿しいことであり、如何に非現代的であるかゞ、シミ～と彼等の腦裏にしみ込んだのであらう。

犬丸徹三 1925「ホテル経営上から見た世相」

(58)露講和意見 中央執行委員會は巴里聯合會議特派スコベレフ氏の使命に付非領土併合非償金的講和主義に基く建議要項を決定すと。

著者不明 1917「日誌」

「非」の形容動詞性名詞の下接語が1語のみであるが、明治期から「○○的」を否定する例が多く見られる。(59)に語例を示す。

(59)「非～的」の語例(12語)

非科学的 非論理的 非倫理的 非哲學的 非宗教的 非官僚的
非立憲的 非文明的 非道德的 非常識的 非政友的 非人道的

8. おわりに

本章では「不」と「非」の2字結合語と3字結合語を意味により分類し、「不」と「非」の3字結合語の意味機能と造語機能について通時的な考察を行った。

「不」は「(ある基準)にそむく／外れる／合わない」、「(量、レベルなど)が足りない」、「～が悪い」、「～でない」、「～がない」、「(動作)しない」、「(状態)しない／していない」といった7つの意味を持っており、「非」は「(ある基準)にそむく／外れる／合わない」、「(量、レベルなど)が足りない」「～が悪い」「～でない」という4つの意味を持っていることが明らかになった。「不」と「非」はいずれも「～でない」という意味を持つが、「不」はもっぱら「(状態)でない」という意味を表すのに対し、「非」は状態の否定のほか、「(事物・事態)でない」という意味も表すことができる。「不」は「～がない」という意味以外に2字結合語と3字結合語ともに、各意味による造語が見られるが、「非」の2字結合語の持つ「足りない」「悪い」の意味は、「非」の3字結合語の造語には影響を与えない。

造語機能からみた場合、「不」の3字結合語は、既に近世以前から使用され、とりわけ近世の文学作品においては現代語の持つ各意味による造語が見られる。一方で「非」の3字結合語は中古の「非参議」、中世の「非学生」という二つの語例を見るのみであり、職名と身分の否定を表すにすぎない。明治、大正期には「不」の3字結合語が急増し、現代語の下接語の品詞性と同様に、「不」は名詞、動名詞、形容動詞性名詞に前接し、動名詞下接語の語数が最も多い。明治、大正期において「非」の下接語は身分・職名を表す名詞のほか、「正義」「文明」などの抽象名詞も増えており、名詞のみならず、動名詞、形容動詞性名詞の下接語もある。明治、大正期の「不」と「非」の3字結合語には臨時的一語も多かったため、多くの語は現代に定着されなかった。

第三章 「無」の造語機能と意味機能

—3字結合語を中心に—

1. はじめに

「無」は「ない」の意味を表し、否定の接頭辞として使用されている。接頭辞は接尾辞と異なり、基本的には語の品詞を決定する力を有していないが²⁸、

「無」は結合語の品詞を変化させており、前述の接頭辞とは異なる性質を有する。たとえば「無責任な行動」とは言えるが、「*責任な行動」とは言えないように名詞下接語の「責任」が「無」と結合した後、形容動詞になるという品詞転換機能が見られる。

しかしながら、すべての下接語が「無」と結合した後に品詞転換機能が見られるわけではない。「無」との結合前後に品詞が変わらない語も存在する。これは、「無」の下接語の意味と品詞性によるものであると考える。

本章では、「無」の3字結合語を中心に、「無」の下接語がどのような意味と品詞性を持ち、「無」との結合前後に品詞転換があるか否かの問題、及び「無」の3字結合語の造語機能について通時的な考察を行う。

2. 先行研究

野村（1973）は、否定の接頭語「無・不・未・非」の用法と機能及び形容動詞の語幹を作るか否かについて、現代雑誌90種の用語調査と電子計算機による新聞の語彙調査により主に否定の接頭語が2字漢語に付加される場合に着目し、実体概念と属性概念を用いて分析を行った。その結果、「無」は実体概念をさす語に前接しやすく、属性概念を表す語でも、サ変動詞の語幹になりうる語の前に付き、サ変動詞の語幹に付く場合には「～スルコトガナイ」のように実体視する意が強いと指摘している。

また、須山（1974）では「不」と「無」が持つ、否定、反対、対立といった表現の諸相との関わりについて考察が行われており、「無」の後に付く語をPとし、「無P」がどのような肯定表現と対立するかという見方から分析を行った結果、「無」の結合語の品詞は名詞、または形容動詞が多く、2字結合語の場合、動詞になる語例が見られ、「無」の結合語の意味は基本的に「～がないこと」を

²⁸ 『日本語学研究事典』p.166の「接頭語」の項目を参照した。

表し、「無」の肯定側は「有」の他に「多」「深」「重」などがあると述べられている。

拙稿（朴 2012）は、「不・無・非・未」の品詞転換機能について中国語と比較対照し、「無」と名詞下接語または動名詞下接語との結合語の一部は、日中両言語いずれも形容動詞（中国語の場合は形容詞）への品詞転換機能が見られると指摘した。

従来の研究では、「不・無・非・未」四つまたはそのうちの二つの造語要素に関する対照研究はあるが、個々の造語要素に関する詳細な分析は行われていない。野村（1973）、須山（1974）、朴（2012）において、造語要素の下接語と結合語の品詞転換機能について指摘されているが、「無」の下接語がどのような意味性質を持ち、どのような下接語が「無」との結合前後に品詞転換機能があるのかについては詳細な分析が行われていない。

「無」の結合語は、「無料」「無為」などの2字結合語、「無意識」「無軌道」などの3字結合語、「無血革命」「無軌道電車」などの4字以上の結合語がある。

「無」の2字結合語の下接語は、独立性が低く、熟語化された語が多い。例えば、「無料」と「無為」の下接語「料」と「為」は独立して文の成分となることなく、「料金」「行為」などほかの形態素と結合し、熟語を形成する。また、

「無」の4字以上の結合語は、「無」の2字結合語と3字結合語の二次結合であるため、今後の課題とする。本章では、下接語に独立性のある「無」の3字結合語を対象とする。

さらに、「無」は、名詞、動名詞、形容動詞性名詞に前接するが、該当する品詞性を持つすべての語に前接するわけではなく、「無」の3字結合語は、下接する2字漢語の消長と深く関わっており、通時的な観察も必要となる。本章では、下接語に独立性のある「無」の3字結合語を対象とし、下接語と結合語の品詞性、下接語の意味、及び品詞転換機能について考察を行い、通時的に「無」の結合語の造語機能を観察することによって、「無」の3字結合語の造語機能と意味機能を明らかにしたい。

3. 「無」の下接語の意味的性質と品詞転換機能

3では品詞別に「無」の下接語の意味的性質と品詞転換機能について分析する。まず3.1では考察対象と品詞分類基準を設定し、次に、3.2と3.3では各品詞別に「無」の下接語の意味的性質と品詞転換の詳細について観察を行う。

3.1 考察対象と品詞分類基準

本節では NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』により抽出した「無」の3字結合語を考察対象とする。「無」の3字結合語において「無鉄砲」のような当て字及び「無答責」のような「無+2字漢語」に分解できない語は除外とする。

対象となる「無」の下接語は名詞 (N)、動名詞 (VN)、形容動詞性名詞 (AN) に分けることができる。分析対象となる「無」の3字結合語は76語あり、そのうち名詞下接語は37語、動名詞下接語は37語、形容動詞性名詞の下接語は2語である。

以下に分類語彙表増補改訂版データベース (ver.1.0)²⁹に基づき、「無」の下接語の属する意味(「部門」、「中項目」、「分類項目」)及び結合語の品詞性について分析を行う。分類語彙表は「語を意味によって分類・整理したシソーラス(類義語集)」である。否定の造語要素の下接語はどのような意味カテゴリーに属するかを知るには、分類語彙表が有効であると考えられる。また、否定の造語要素の造語力も同じ意味カテゴリーから増える可能性が高い。

3.2 「無」の名詞下接語

「無」の名詞下接語は37語あり、そのうち、「人間活動ー精神および行為」を表す語は21語、「抽象的關係」を表す語は10語、「人間活動の主体」を表す語は2語、「生産物および用具」を表す語は2語、「自然物および自然現象」を表す語は2語見られる。「無」の名詞下接語は主に「人間活動ー精神および行為」と「抽象的關係」を表す語が比較的多い。「無」と名詞下接語の結合語のうち、結合語が形容動詞性名詞に転換する語は17語(46%)ある。次の(1)に示す。

(1)形容動詞性名詞になる語(17語)

- 無神経〈活動/心/感覚〉³⁰
- 無関心〈活動/心/注意・認知・了解〉
- 無慈悲〈活動/心/好悪・愛憎〉
- 無定見〈活動/心/思考・意見・疑い〉

²⁹ 分類語彙表とは、「語を意味によって分類・整理したシソーラス(類義語集)」である。分類語彙表増補改訂版データベース (ver.1.0) は昭和39年刊の増補改訂版の元データになる。収録総語数9万6千語、異なり語数は約8万語となる。分類は分類番号を用いて整理され、分類番号は広い概念から順に「類」「部門」「中項目」「分類項目」を表している。

³⁰ 山型括弧内は〈部門/中項目/分類項目〉の順に示している。以下同様である。

無責任 〈活動/心/道德〉
 無節操 〈活動/心/道德〉
 無愛想 〈活動/心/表情・態度〉
 無表情 〈活動/心/表情・態度〉
 無気力 〈活動/心/心〉
 無軌道 〈活動/心/知・知識〉 〈生産物/機械/乗り物（陸上）〉³¹
 無作法 〈活動/行為/威厳・行儀・品行〉
 無邪気 〈活動/行為/行為・人柄〉
 無趣味 〈活動/生活/遊楽〉
 無目的 〈関係/類/理由・目的・証拠〉
 無価値 〈関係/様相/様相・情勢〉
 無秩序 〈関係/様相/調和、混乱〉
 無能力 〈関係/力/物力・権力・体力など〉

また、「無」と名詞下接語の結合語のうち、結合語が形容動詞に転換しない語は 20 語（54%）ある。次の(2)に示す。

(2)形容動詞性名詞にならない語(20 語)

無一文 〈活動/経済/資本・金銭〉
 無資産 〈活動/経済/資本・金銭〉
 無利子 〈活動/経済/給与・料金・利子〉
 無利息 〈活動/経済/給与・料金・利子〉
 無報酬 〈活動/経済/給与・料金・利子〉
 無過失 〈活動/行為/成功・失敗〉
 無国籍 〈活動/行為/行為・身上〉
 無資格 〈活動/行為/行為・身上〉
 無政府 〈主体/機関/政府機関〉
 無党派 〈主体/機関/同盟、団体〉
 無条件 〈関係/類/因果〉

³¹ 『日本国語大辞典』（第二版）によれば、「無軌道」は「軌道のないこと」と「常識にはずれたでたらめな行動をすること。また、そのさま」といった二つの意味を持っているため、「軌道」は〈生産物/機械/乗り物（陸上）〉の意味のほか、転義として「常識」の意味カテゴリーである〈活動/心/知・知識〉にも属する。形容動詞性名詞になる語は後者の意味として使用される場合である。

無重力〈関係/力/弾力・動力・圧力など〉
無資力〈関係/力/物力・権力・体力など〉
無重量〈関係/量/量〉
無事故〈関係/事柄/事柄〉
無期限〈関係/時間/時機・時刻〉
無灯火〈生産物/機械/灯火〉
無免許〈生産物/道具/札・帳など〉
無色彩〈自然/自然/色〉
無一物〈自然/物質/物体〉³²

(1)と(2)に示すように「無」の名詞下接語の属する「部門」と「中項目」及び「分類項目」の詳細からみた場合、〈活動/心/感覚〉、〈活動/心/注意〉などの語は目に見えない抽象的な意味を持つ語であり、「感覚」や「注意」があるか否かの判断基準は主観的な特徴を持っている。このような語は、「無」と結合前後に名詞下接語から形容動詞性名詞の結合語への品詞転換が見られる。一方で、〈活動/経済/資本・金銭〉、〈生産物/機械/灯火〉などの意味を表す語「金銭」や「灯火」があるか否かの判断基準は客観的特徴を持っている。即ち、人間の心理活動は主観的特徴を持っており、経済活動で用いられる金銭、生産物である灯火などは客観的特徴を持っている³³。下接語が主観的か客観的かによって結合語はさらに以下の二つの種類に分けることができる。

a 完全にゼロを表す語：無資格 無免許 無利子 無利息 無一文…

b 「無」に近づく幅のある語³⁴：無感覚 無責任 無能力 無邪気 無気力…

³² 分類語彙表増補改訂版データベースに「一物」の項目がみられないため、類似語である「物体」で調べた。

³³ 本論文では人によって有無の判断基準が異なる語（能力、価値など）を「主観的」とし、具体的な数値で表せる語（利子、重量など）や客観存在物（灯火、免許など）など客観判断基準のある語を「客観的」とする。

³⁴ 佐野（1999）は、「程度」という観点から状態性述語を分類し、「無料」は一点的で、その点的な状態に限りなく近い状態を表しうるだけの幅があると指摘している。本論文では「無」が「ない」という意味であることから、佐野（1999）に基づき、一点的であるとし、「無」の結合語が完全にゼロを表さないときは、一点的の「無」に近づく幅があると考えられる。「無料」の場合は、完全にゼロを表すため、「無」に近づく幅がないと考えられる。

aの「利子」「利息」は具体的な数字で表すことのできる「客観的」特徴を持っているため、その結合語である「無利子」「無利息」は「利子」「利息」が完全にゼロであることを表す。すこしでも「利子」がある場合は、「無利子」とは言えないため、「無利子」「無利息」はゼロに近づく幅が見られず、形容動詞性名詞にならない語である。一方でbの「無感覚」の下接語「感覚」は、「主観的」特徴を持っている。完全に「感覚のない状態」も想定できるが、「感覚が鈍い」場合も「無感覚」と言えるように「無感覚」という語には「無」に近づく幅のある語である。また、「無能力」の下接語「能力」は、能力が完全にゼロである判断基準は主観的であるため、「無能力」は「無」に近づく幅がある語であると考えられる。b類の語は「無」と結合前後に品詞転換機能が見られる。

分類語彙表により分類した「無」の名詞下接語の意味と下接語の語例を表2と表3にまとめる。

表2と表3のように、下接語が主観的特徴を持つ場合、結合語は「無」に近づく幅があり、形容動詞性名詞になる。一方で下接語が客観的特徴を持つ場合、結合語は完全にゼロを表し、形容動詞性名詞にならない。

表2 形容動詞性のある「無 N」の下接語の意味分類

分類語彙表による下接語の意味分類	下接語（語数）
〈活動/心〉	神経、関心、慈悲、定見、責任、節操、愛想、表情、気力、軌道、作法 (11語)
〈関係/様相〉	価値、秩序 (2語)
〈活動/行為/人柄〉 〈活動/生活/遊楽〉 〈関係/類/目的〉 〈関係/力/能力〉	邪気、趣味、目的、能力 (各1語)

表 3 形容動詞性のない「無 N」の下接語の意味分類

分類語彙表による下接語の意味分類	下接語（語数）
〈活動/経済〉	一文、資産、利子、利息、報酬（5語）
〈活動/行為〉	過失、国籍、資格（3語）
〈主体/機関〉	政府、党派（2語）
〈生産物〉	灯火、免許（2語）
〈自然〉	色彩、一物（2語）
〈関係/力〉	重力、資力（2語）
〈関係/量/量〉 〈関係/時間/時機・時刻〉 〈関係/類/因果〉 〈関係/事柄/事柄〉	重量、期限、条件、事故（各1語）

3.3 「無」の動名詞下接語

「無」の動名詞下接語の37語のうち、動名詞下接語が形容動詞性名詞の結合語に転換する語は21語（57%）であり、動名詞下接語が名詞結合語に転換する語は16語（43%）である。以下に語例を示す。

(3)形容動詞性名詞になる語(21語)

- 無計画 〈活動/心/案〉
- 無思慮 〈活動/心/思考・意見・疑い〉
- 無意識 〈活動/心/注意・認知・了解〉
- 無理解 〈活動/心/注意・認知・了解〉
- 無意味 〈活動/心/意味・問題・趣旨〉
- 無信心 〈活動/心/信仰、宗教〉
- 無頓着 〈活動/心/欲望・期待・失望〉
- 無分別 〈活動/心/思考・意見・疑い〉
- 無自覚 〈活動/心/自信・誇り・恥・反省〉
- 無遠慮 〈活動/心/自信・誇り・恥・反省〉 〈活動/交わり/賛否〉
〈活動/待遇/待遇〉
- 無防備 〈活動/心/意思〉
- 無造作 〈活動/心/意思〉（無造作の項目）

無感覚 〈活動/心/感覚〉
無差別 〈活動/心/比較・参考・区別・選択〉 〈関係/類/異同・類似〉
無教育 〈活動/行為/才能〉
無作為 〈活動/行為/行為・活動〉
無統制 〈活動/待遇/命令・制約・服従〉
無関係 〈関係/類/関係〉
無矛盾 〈関係/類/相対〉
無制限 〈関係/作用/限定・優劣〉
無抵抗 〈関係/力/弾力・動力・圧力など〉

(4)形容動詞性名詞にならない語(16語)

無干渉 〈活動/交わり・待遇/仲介〉
無許可 〈活動/交わり/賛否〉
無競争 〈活動/交わり/競争〉
無欠席 〈活動/交わり/出欠〉
無回答 〈活動/言語/問答〉
無批判 〈活動/言語/批評・弁解〉
無鑑査 〈活動/心/研究・試験・調査・検査〉
無試験 〈活動/心/研究・試験・調査・検査〉
無配当 〈活動/経済/授受〉
無担保 〈活動/経済/給与・料金・利子〉
無得点 〈関係/量/値・額〉
無所属 〈関係/類/連絡・所属〉
無着陸 〈関係/作用/移動・発着〉
無修正 〈関係/作用/作用・変化〉
無添加 〈関係/作用/増減・補充〉
無投票 〈関係/作用/入り・入れ〉

(3)と(4)の語例から分かるように、動詞下接語の37語のうち、「人間活動—精神および行為」を表す語は27語、「抽象的關係」を表す語は10語であり、「人間活動—精神および行為」を表す下接語が多く見られる。

分類語彙表により分類した「無」の動名詞下接語の意味と下接語の語例を表 4 と表 5 に示す。

名詞下接語の場合と同様に、結合語に品詞転換のある語は「思量」「矛盾」「自覚」など「心」「抽象的關係」を表す主観的な語が多く、「回答」「干渉」「添加」など具体的な行為や作用を表す語の多くは「無」との結合前後に品詞転換が見られない。前者は「無」に近づく幅のある語であり、後者は完全にゼロを表す語、即ち行為、作用などが行われていないことを表す。

表 4 形容動詞性のある「無 VN」の下接語の意味分類

分類語彙表による下接語の意味分類	語例 (語数)
〈活動/心〉	計画、思慮、意識、理解、意味、信心、頓着、分別、自覚、遠慮、防備、造作、感覚、差別 (14 語)
〈関係/類〉	関係、矛盾 (2 語)
〈活動/行為/才能〉 〈活動/行為/行為・活動〉 〈関係/力/弾力・動力・圧力など〉 〈活動/待遇/命令・制約・服従〉 〈関係/作用/限定・優劣〉	教育、作為、抵抗、統制、制限 (各 1 語)

表 5 形容動詞性のない「無 VN」の下接語の意味分類

分類語彙表による下接語の意味分類	語例 (語数)
〈活動/交わり〉	干渉、許可、競争、欠席 (4 語)
〈活動/心〉	鑑査、試験 (2 語)
〈活動/経済〉	配当、担保 (2 語)
〈活動/言語〉	回答、批判 (2 語)
〈関係/作用〉	着陸、修正、添加、投票 (4 語)
〈関係/量/値・額〉 〈関係/類/連絡・所属〉	得点、所属 (各 1 語)

3.4 「無」の形容動詞性名詞の下接語

「無」の下接語には、名詞下接語と動名詞下接語のほか、次の(5)に示すように形容動詞性名詞の下接語が2語ある。

- (5)無風流〈活動/生活/遊樂〉
無器用〈活動/行為/才能〉

「無」の名詞下接語37語、動詞下接語37語に対して、形容動詞性下接語は2語のみであり、その下接語と結合語はいずれも形容動詞性を持っている。「無風流」「無器用」の「無」はいずれも「ぶ」と読まれ、「不」とも表記される。

以上、「無」の下接語は名詞、動名詞、形容動詞性名詞があり、下接語の意味分類からは、「無灯火」「無色彩」のような生産物や自然を表す具体名詞もあれば、「無思慮」「無理解」のような人間の心理活動を表す抽象名詞も見られる。しかしながら、同じく生産物を表す「電話」や自然を表す「日光」に「無」が前接する語例は見られない。また、抽象名詞である「反省」「判断」に「無」が前接することも許容度に差はあるものの、今回の調査範囲では語例が見られない。即ち、「無」の下接語の品詞規則や意味分類に沿うすべての語に、「無」が前接可能というわけではない。これは、「無」の3字結合語の通時的な造語力と関係しており、共時的な分析のみでは不十分である。

4. 「無」の造語機能の通時的考察

3では、現代語における「無」の3字結合語の造語機能と意味機能について分析を行った。「無+2字漢語(「無」の3字結合語)」の造語はいつごろから出現し、その造語機能にはどのような変化があったのだろうか。4では、通時的な考察を通して「無」の造語機能について概観する。

松井(2015)は、『日本国語大辞典 第二版』を用い、明治前期の接頭辞「不」と「無」の使用状況について考察を行った。その結果、「無」の3字結合語は、慶応四年以前に45語、明治元年から明治二十五年の明治前半期に54語、明治二十六年以降に120語あり、「無」の3字結合語は、明治後期から格段に多くなり、明治前期での造出率の高さを指摘している。

松井(2015)の『日本語国語大辞典 第二版』の掲出語による時期分類から、「無」の3字結合語の大量増加は明治以降であると言える。しかし、語彙対象は

辞書に止まり、「無」の3字結合語の通時的な使用実態については観察されていない。そこで、本節では文学作品と明治、大正期の雑誌を調査対象とする。

4.1 上代から近世における「無」の結合語の使用実態

本節ではジャパンナレッジの『新編 日本古典文学全集』を調査対象とし、上代から近世にかけて「無」の3字結合語（異なり語数）の使用実態について分析を行う。

「無」の結合語は上代の『日本書紀』に「無道」「無為」「無量」「無辺」「無上」「無位」の6例が見られ、いずれも2字結合語で、3字結合語は見られない。

中古において「無」の2字結合語は増加するが、「無」の3字結合語の使用例は見られない。

中世において「無」の3字結合語が出現しはじめ、「無水練 1」³⁵「無器量 2」「無案内 6」「無人声 3」「無辺際 1」「無覚了 1」「無返事 1」「無功德 2」「無奉公 3」「無分別 5」「無調法 6」の11語が見られる。次の(6)～(16)に用例³⁶を示す。

(6)…川岸に淵のありけるにころびいりて、倉光は無水練(ぶすいれん)なり、瀬尾はすぐれたる水練なりければ、…

平家物語 p.137

(7)此身こそ無器量(ぶきりやう)の者で候へば、自害をも仕り候べきに、我ゆゑに御命をうしな参らせむ事、五逆罪にや候はんずらむ。

平家物語 p.138

(8)五月十五夜の雲間の月のあらはれいでて、あかかりけるに、かたきは無案内(ぶあんない)なり、信連は案内者なり。

平家物語 p.288

(9)高野山は帝城を避って二百里、郷里をはなれて無人声(むにんじやう)、…

平家物語 p.301

³⁵ 「無」の3字結合語の直後の数字は使用頻度を表す。以下同様である。

³⁶ 用例において「無」と表記し、「ぶ」と読まれる語がみられるが、「む」と「ぶ」の読みの違いについては今後の課題とする。

(10) 広大無辺際(くわうだいむへんさい)の国…

沙石集 p.63

(11) されば、論にも、菩提心の姿をば浄法界とも釈し、無覺了(むかくれう)とも云へり。

沙石集 p.138

(12) 玉置庄司、御使に出で会ふて、事の由を聞いて、無返事にて内へ入りけるが、…

太平記(1)p.276

(13) 達磨に対して無功德(むくとく)の話聞き、…

太平記(3)p.169

(14) 例の無奉公者(ぶほうこうもの)の武悪めは何とした。

狂言集 p.143

(15) イヤ、それは親ぢゃ人の無分別(むぶんべつ)といふものぢゃ。

狂言集 p.165

(16) つうつと無調法者(ぶてうはふもの)ではござれども、随分お目長に使うて下されい。

狂言集 p.208

近世における3字結合語は19語である。中世に使用例のある「無水練」「無器量」「無人声」「無辺際」「無覺了」は、近世においては使用されていない。近世における「無」の3字結合語と使用頻度を(17)に示す。

(17) 無分別 63	無調法 11	無作法 6	無首尾 5	無得心 3
無案内 2	無功德 2	無面目 2	無返事 1	無奉公 1
無一物 1	無年貢 1	無拍子 1	無算用 1	無遠慮 1
無挨拶 1	無器用 1	無差別 1	無風雅 1	

(18)～(30)に近世において新たに使用される 13 語の用例を示す。

(18)無一物(もつ)の所より、無尽蔵(むじんざう)の益おほきは、ひとり我仏法
か。

御迦物語 p.579

(19)この無首尾(ぶしゆび)さへかくなしければ、ましてや分のよき女郎に身を捨
つるは断りぞかし。

井原西鶴集(1)好色一代女 p.421

(20)新田に申し請けて十年は無年貢、…

井原西鶴集(3)日本永代蔵 p.91

(21)あひの手を、口三味線の無拍子(ぶひやうし)に、頭をふり回してつらく
し。

井原西鶴集(3)世間胸算用 p.436

(22)戸左衛門見付けて、「あれは源五左衛門屋敷なるが、無作法千万(ぶさはふせ
んばん)なる木のぼり、近所の内証まで見おろすに、断りの使ひは来るか」
と言へば、…

井原西鶴集(4)武道伝来記 p.149

(23)あまりといへば、親ながら・無得心(むどくしん)なるお心や。

近松門左衛門集(1)おなつ清十郎 五十年忌歌念仏 p.32

(24)思へば／＼無算用(ぶさんよう)。

近松門左衛門集(1)淀鯉出世滝徳 p.93

(25)さばき髪、御前近くも無遠慮に。縁先にあげ足して。

近松門左衛門集(1)丹波与作侍夜のこむろぶし p.343

(26)無挨拶(ぶあいさつ)なるをりふし。

近松門左衛門集(2)紙屋治兵衛 きいの国や小はる 心中天の網島 p.391

(27)お詞の中でムリやすが、わつちらもおめさん無面目(むめんもく)なにセツ子
(こ)でもムリやせん。

滑稽本 酪酊気質 p.232

(28)イヤイヤもつとひつつめてくんな。とかくこつちのほうへくると、髪はへた
くそだ。ねをかたくつめていふことをしらねへ。無器用(ぶきよう)な

東海道中膝栗毛 p.306

(29)よく養父母に相仕へて、毫も愆あることなきに、反て非命に早く逝きしは、
善悪応報、無差別(むしやべつ)に似たれども、然にあらず。

近世説美少年録 (3) p.132

(30)無風雅の至りなり。

俳論集 去来抄 p.458

上代から近世までの調査の結果、「無」の3字結合語は中世から用例があり、近
世において語例が増加している。近世までの「無」の3字結合語を使用頻度順に
まとめると下記のとおりである。

(31)近世までの「無」の3字結合語 (24語)

無分別 68	無調法 17	無案内 8	無作法 6	無首尾 5
無功德 4	無奉公 4	無得心 3	無人声 3	無面目 2
無器量 2	無水練 1	無辺際 1	無覺了 1	無返事 1
無一物 1	無年貢 1	無拍子 1	無算用 1	無遠慮 1
無風雅 1	無挨拶 1	無器用 1	無差別 1	

次に『太陽』コーパスを用い、明治、大正期の「無」の3字結合語の使用実態
について考察を行う。

4.2 明治、大正期における「無」の結合語の使用実態

近世までの「無」の3字結合語が24語あるのに対し、明治、大正期の雑誌
『太陽』における3字結合語は165語と急増している。

『太陽』コーパスにおける「無」の3字結合語のうち、名詞下接語は99語、動名詞下接語は63語、形容動詞性名詞の下接語は3語見られる。次の(32)～(34)に語例を示す。

(32)名詞下接語 (99語)

無責任 122	無邪氣 97	無政府 78	無意義 70	無條件 46
無關係 41	無關心 28	無氣力 28	無能力 27	無慈悲 20
無愛想 18	無理想 18	無代價 17	無定見 15	無勢力 14
無秩序 14	無一物 13	無作法 12	無職業 12	無趣味 11
無道德 11	無期限 9	無利子 8	無報酬 8	無感覺 7
無月謝 7	無資格 7	無資力 7	無節操 7	無宗教 7
無方針 6	無資産 5	無規律 5	無利息 5	無抵當 5
無免許 4	無見識 4	無際限 4	無警察 3	無主義 3
無邊際 3	無主權 2	無住所 2	無紀律 2	無精神 2
無常識 2	無權能 2	無給料 2	無金力 2	無鬚髯 2
無借料 2	無愛嬌 2	無技巧 1	無効力 1	無目的 1
無聲音 1	無一文 1	無火藥 1	無條約 1	無脊椎 1
無權力 1	無宗派 1	無音信 1	無人格 1	無貞操 1
無年限 1	無階級 1	無音響 1	無虚氣 1	無雅致 1
無蛋白 1	無際涯 1	無境界 1	無成算 1	無優劣 1
無財産 1	無邪念 1	無能率 1	無證人 1	無系統 1
無機嫌 1	無罰金 1	無權利 1	無理由 1	無拍子 1
無人情 1	無見料 1	無雅趣 1	無教法 1	無骨格 1
無威力 1	無權勢 1	無恩惠 1	無俸給 1	無功德 1
無結果 1	無良心 1	無給金 1	無信號 1	

(33)動名詞下接語 (63語)

無意味 87	無意識 73	無頓着 69	無所屬 68	無遠慮 47
無造作 45	無教育 36	無制限 32	無記名 30	無信仰 24
無差別 17	無經驗 16	無分別 11	無警告 9	無併合 8
無賠償 8	無試験 7	無自覺 6	無思慮 6	無準備 6
無節制 6	無解決 5	無競争 4	無組織 4	無配當 4
無制裁 3	無統一 3	無抵抗 3	無計畫 2	無鑑査 2

無防護 2	無許諾 2	無防禦 2	無検査 2	無批判 2
無用心 2	無着陸 1	無勘定 1	無是非 1	無交渉 1
無落款 1	無撰擇 1	無活動 1	無案内 1	無拒絶 1
無自制 1	無計算 1	無同情 1	無進歩 1	無判明 1
無檢束 1	無拘束 1	無説明 1	無自愛 1	無判断 1
無生産 1	無昇級 1	無解散 1	無信用 1	無反省 1
無干渉 1	無配偶 1	無監督 1		

(34)形容動詞性名詞の下接語 (3語)

無風流 3 無器用 3 無調法 3

(32)～(34)の明治、大正期に使用例のある「無」の3字結合語(165語)のうち、近世以前から使用例のある語はわずか11語(7%)である。明治以降に2字漢語が多く作られたため、「無」の3字結合語が急増したものと考えられる。現代語の下接語の品詞性と同様に、「無」は主に名詞下接語または動名詞下接語に前接する。

『太陽』コーパスにおける「無」の3字結合語のうち、使用頻度の高い語は現代においても使用されているが、使用頻度の低い多くの語は現代語に使用例が見られない。

使用頻度の低い語は臨時的に造られた可能性が高いため、現代には定着しなかったということが原因の一つであると考えられる。

(35)文部大臣は大學を直轄の學校として監督せざるまでも學問教育を管理する職權上より或種の監督を爲すことは必要である、絶対に大學を無監督にするといふことはできないのである、

浮田和民 1909「沢柳政太郎氏の「退耕録」を読む」

(36)これは、國家的に、男子の自制力を無視したもので、同時に、この無自制の男子に對して、幾萬の女子の墮落を餘儀なくする事の公認です。

久布白落実 1925「家庭破綻の種々相と貞操問題」

(35)と(36)の「無監督」と「無自制」はいずれも使用頻度が1であり、前文脈の名詞である「監督」と「自制」の否定として「無」が使用されている。

「無」は、近世以前において「無調法」「無分別」など限られた下接語に前接していたが、明治、大正期においては、「N/VNがない」という意味を表す語として、「無 N/無 VN」という形が多く作られている。「無」の造語力は近世以前に比べて高くなったことが窺える。

また、下記の(37)～(39)のような、「無」の3字結合語の連続的使用現象も見られる。

(37)…本欄で紹介したこともあつた通り、無制限、無報酬、而して無恩恵といふ有状であるが、苟くも工場で徒弟制度の規定が必要ならば、町家の小僧にも、一定の標準を與へて、恩恵に浴せしむる必要は、勿論のことである。

国府犀東 1901「社会事情」

(38)真正の立憲國民は、新聞の賛成によつて賛成する如くに無思慮無判断であつてはならぬ。

兆水漁史 1917「教育時言」

(39)例へば智育が教育の根本義であるといふは有らゆる智識に關することを無差別無撰擇に注入しても何の役に立たぬ。

青柳栄司 1917「強国と成る可き根本大策（工業教育の振興）」

(37)の「無制限」「無報酬」「無恩恵」は「無」による否定が連続的に使用され、その各語の使用頻度は順に 32、8、1 である。即ち、当時ある程度使用頻度の高い「無制限」の影響により、後続の語も「無」が用いられた可能性も考えられる。(38)の「無思慮」と「無判断」の使用頻度はそれぞれ 6 と 1 であり、(39)の「無差別」と「無撰擇」の使用頻度はそれぞれ 17 と 1 である。また、「無」の3字結合語が連続的に使用される現象は、近世以前では見られない用法であり、意味の観点から見ると「～がない」という意味が強調され、文章が洗練される。

また、現代語データベースである『NTT データベースシリーズ 日本語の語彙特性 第7巻』における「無」の3字結合語 76 語のうち、50 語(65.8%)が太陽コーパスにおける「無」の3字結合語と一致し、26 語(34.2%)が現代のみの語である。

(40)太陽コーパスに使用例のある現代語（50語）

無関心 無慈悲 無定見 無責任 無節操 無気力 無邪気 無趣味
無目的 無秩序 無能力 無一文 無資産 無利子 無利息 無報酬
無資格 無政府 無条件 無資力 無期限 無免許 無一物 無計画
無思慮 無意識 無意味 無頓着 無分別 無自覚 無造作 無感覚
無差別 無教育 無関係 無制限 無抵抗 無干渉 無競争 無批判
無鑑査 無試験 無配当 無所属 無着陸 無風流 無器用 無作法
無遠慮 無愛想

(41)現代語のみ（26語）

無神経 無表情 無軌道 無価値 無過失 無国籍 無党派 無重力
無重量 無事故 無灯火 無色彩 無理解 無信心 無防備 無作為
無統制 無矛盾 無許可 無欠席 無回答 無担保 無得点 無修正
無添加 無投票

以上、通時的にみた場合、上代から中古では「無」の2字結合語が使用され、「無」の3字結合語の用例は中世から見られるが、特に明治期では翻訳語や新漢語など2字漢語が多く作られたため、「無」の3字結合語が急増している。しかし、現代においては「無」の3字結合語の語数は明治、大正期に比べて低下しており、NTTデータベースにおける「無」の3字結合語は、65.8%が明治、大正期から使用されている語であり、34.2%が『太陽』コーパスにおいて使用例のない語である。

5. おわりに

本章ではNTTデータベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』により抽出した「無」の3字結合語について下接語と結合語の品詞性、下接語の意味、及び品詞転換機能について分析を行い、「無」の造語機能について通時的な考察を行った。

「無」の下接語は名詞下接語、動名詞下接語、形容動詞性名詞の下接語が見られ、名詞下接語の37語及び動詞下接語の37語は、いずれも「人間活動－精神および行為」を表す語と「抽象的關係」を表す語に前接しやすい。「無」の名詞下接語と動名詞下接語は、「無」と結合した前後に形容動詞性名詞に品詞転換する語と形容動詞性名詞に品詞転換しない語が見られるが、これは「無」の結合語に

「無」に近づく幅があるか否かと関わりがある。下接語が客観的特徴を持つ場合、結合語は、完全にゼロを表し、品詞転換が見られない。一方で、下接語が主観的特徴を持つ場合、結合語は「無」に近づく幅があり、形容動詞性名詞への品詞転換機能が見られる。

通時的にみた場合、中世以前はもっぱら「無」の2字結合語が使用され、3字結合語の使用例は中世になってから現れる。特に明治、大正期では「無」の3字結合語が急増し、現代語における「無」の3字結合語の半数以上が明治、大正期から使用されている語である。

第四章 「未」の造語機能と意味機能

1. はじめに

「未」は主に動名詞を下接語とし、「まだ～していない」という意味を表す。本章では「未」の下接語の性質と「未」の意味について考察を行い、通時的な考察を通して、「未」の3字結合語の使用実態について観察する。

2. 先行研究

野村(1973:46-47)は、「未」と結合するのは、すべて動作性のある語であり、結合形は、ある時点までにその動作が完了していない意味を表すため、結合語の対象となる語を語幹とするサ変動詞には、瞬間動詞が多く、動作性の語と結合し、実体概念を表す用法を持たない点では、「不」に近く、結合形が「～の」という形態をとることが多い点では、「無」と共通しており、両者の中間的な性格を備えていると指摘している。

久保(2010:59-60)は「未」の基本的な意味を「過去から現在までにおいて、ある状態が期待されるべき状態にまで達成されていないが、未来において達成の可能性がある。」と提示し、「未」の意味が時間の進展、つまり動的プロセスに関わるものであるとしている。

先行研究により、「未」の下接語は動作性を持つこと、「未」は動的プロセスに関わっていることが分かる。しかし、「未成熟」の下接語「成熟」は動作性よりも状態性を持ち、成熟した状態になっていないことを表している。このように「未」の下接語には主に動名詞であるものの、その動詞の性質には差異が見られる。本章では動的プロセスにおける時点から「未」の下接語を分類し、その結合語の意味について考察を行う。また、通時的な考察により、「未」の3字結合語の使用実態について観察する。

3. 「未」の下接語の性質と意味

3.1 「未」の下接語の性質

『日本国語大辞典(第二版)』では、字音語素としての「未」を以下のとおりに説明している。

まだ時がこない。まだ終わっていない。いまだ。否定の語。未央、未解、

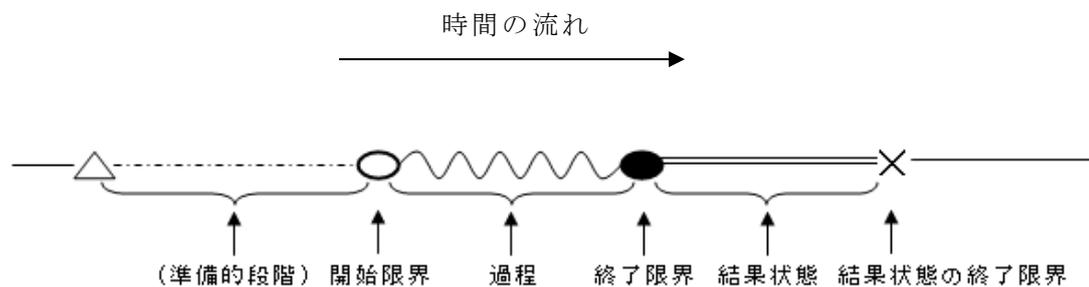
未開、未刊、未完、未決、未婚、未済、未熟、未詳、未遂、未然、未知、未着、未定、未納、未分、未萌、未亡人、未満、未明、前代未聞、未来、未了、未解決、未帰還、未経験、未承認、未成年、未曾有、未発達、未発表

「未」の下接語は名詞と動名詞に分けられる。NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』において抽出した「未」の3字結合語は15語あり、そのうち名詞下接語は「未成年」1語であり、14語は動名詞下接語である。『日本国語大辞典』の「未」の意味解釈と合わせてみると「未成年」のみ「まだ時がこない」の意味を表していると言える。また、以下の(1)のうち、「未解決」「未完成」などは「まだ終わっていない」と解釈することができるが、「未発表」は「まだ発表が終わっていない」という意味として説明が出来ず、「まだ発表されていない」という解釈が適切であろう。

(1) 「未」の下接語がVNの3字結合語（14語）

未解決 未開拓 未開発 未完成 未経験 未成熟 未整理 未発達
未分化 未確認 未決定 未処理 未組織 未発表

よって、「未」の下接語が動名詞である場合、下接語の性質によって、「未」の結合語の表す動的プロセスにおける状態は異なっている。金子（2000:16）では、動詞が表す出来事の時間的な構造を以下の図のように示している。



図：動詞が表す出来事の時間的な構造

金子（2000:16）による

「未」の否定によって表す段階は動作過程の開始限界に達していない状態または動作過程の終了限界と結果状態に達していない状態を表す。前者は9語、後者

は 6 語ある。次の(2)と(3)にそれぞれの語例を示す。

(2)動作過程の開始限界に達していない状態 (9 語)

未開拓 未確認 未開発 未発表 未組織 未処理 未経験 未整理
未分化

(3)動作過程の終了限界または結果状態に達していない状態 (5 語)

未解決 未成熟 未完成 未発達 未決定

「未」の結合語が「動作状態の否定」であることは明らかに看取しうる。たとえば「未解決」は「まだ解決していないこと/さま」、「未完成」は「まだ完成していないこと/さま」、「未発表」は「まだ発表されていないこと」のように「動作がまだ発生していない状態」または「動作がまだ完全に終了していない状態」の「動作状態の否定」が見られる。

3.2 「未」の下接語の意味

本節では、分類語彙表増補改訂版データベース (ver.1.0) に基づき、「未」の下接語の属する意味(「部門」、「中項目」、「分類項目」)について観察する。「未」の下接語の属する意味を(4)に示す。

(4)未解決 〈活動/心/決心・解決・決定・迷い〉

未経験 〈活動/心/学習・習慣・記憶〉 〈活動/生活/処世・出处進退〉

未確認 〈活動/心/注意・認知・了解〉

未決定 〈活動/心/決心/・解決・決定・迷い〉

未開拓 〈活動/事業/農業・林業〉

未開発 〈活動/事業/建設・土木〉

未処理 〈活動/事業/技術・設備・修理〉

未発表 〈活動/言語/宣告・宣言・発表〉

未成年 〈関係/時間/年配〉

未完成 〈関係/存在/成立〉 〈関係/作用/終了・中止・停止〉

未整理 〈関係/様相/調節〉 〈活動/事業/技術・設備・修理〉

未発達 〈関係/作用/進歩・衰退〉 〈自然/生命/生〉

未分化 〈関係/作用/分割・分裂・分散〉

未組織〈関係/作用/統一・組み合わせ〉〈関係/様相/内容・構成〉

未成熟〈自然/生命/生〉

(4)から分かるように「未」の下接語は「人間活動－精神および行為」を表す語が9語、「抽象的關係」を表す語が6語、「自然物および自然現象」を表す語が2語見られる。「無」の下接語は「人間活動－精神および行為」「抽象的關係」「人間活動の主体」「生産物および用具」「自然物および自然現象」それぞれの意味に属する語例があるが、「未」は「人間活動の主体」及び「自然物」を下接語としない。それは、「未」が基本的に動名詞に前接し、且つその結合語は動的プロセスと関わりがあるため、名詞である「人間活動の主体」と「自然物」には付かないからである。

4. 「未」の造語機能の通時的考察

4.1 上代から近世における「未」の結合語の使用実態

本節ではジャパンナレッジの『新編 日本古典文学全集』により、上代から近世にかけて「未」の結合語の使用実態について分析を行う。

上代では「未詳」が見られ、3字結合語は見られない。

(5)また軍王も未詳なり。

万葉集(1)p.27

「未詳」は「まだ、はっきりとわかっていないこと。まだ明らかでないこと。また、そのさま。」という意であり、「未」は「明らかな状態」を否定しているため、状態の否定を表している。

中古において新たに「未来」「未熟」「未進」が見られる。

(6)善悪因果経に云はく、「過去の因をしらむと欲はば、其の現在の果を見よ。未来の報いを知らむと欲はば、其の現在の業を見よ」と者へるは、其れ斯れを謂ふなり。

日本霊異記 p.72

(7)前に参りたりしには、大将のまだ未熟（みずく）にものしたまひしかばこそ、

人心地もせしか。³⁷

うつほ物語 (3) 国譲 中 p.139

(8)穴糸惜シ、千万石也ト云フトモ、未進 (みしん) ハ罷リ負ナムヤ。

今昔物語集 (4) p.238

中世において新たに「未曾有」「未練」「未受」「未学」「未成」「未聞」「未明」の用例が出てくるが、「未」の3字結合語は見られない。「未曾有」は3字ではあるが、「未+曾有」に分離できないため、3字結合語とはみなさない。

(9)…未曾有 (みぞう) の悪行なり

徒然草 p.163

(10)未練 (みれん) の狐、化け損じけるにこそ。

徒然草 p.259

(11)また、未受以前 (みじゆいぜん) の罪相をも犯戒と云ふべきか、如何。

正法眼蔵随聞記 p.328

(12)「四十八軽戒の中に、未受戒の所犯を犯と名づくに見ゆ。如何」。

正法眼蔵随聞記 p.328

(13)もしは、他の非器を顧み、或は、初心・未学 (みがく)³⁸の人の心得へからずとて、方便・不実を以て答ふべからず。

正法眼蔵随聞記 p.494

(14)観心未成 (くわんじんみじやう)³⁹にして、境の縁にも犯されぬほどにて、利生も事行もすべし

沙石集 p.213

³⁷ 同書の注では「仲忠がまだ年若く成熟していなかったことをいう。」とあり、「未熟」は現代と同様に「まだ成熟していない」という意味を表す。

³⁸ 同書の注では「ミガク。学問していないこと。文書語 (日葡辞書)。」とある。

³⁹ 同書の注では「観心がまだ成就していないこと。」と解釈している。

(15)…前代未聞の行粧なり。

太平記 (1) p.59

(16)…五百余騎を率して、未明 (びめい)に般若寺へ推しよせ、…

太平記(1)p.260

近世において、新たに「未満」の用例が見られる。

(17)…年尚十五未満にて、且今様に従ふて、…

近世説美少年録 (2) p.382

以上、近世以前では、「未」の2字結合語は見られるが、3字結合語は見られない。下接語の品詞性からは「未詳」以外は、すべて動詞である。近世以前から、「未」は主に動詞の否定として使われていることが分かる。

4.2 明治、大正期における「未」の結合語の使用実態

次に『太陽』コーパスを用い、明治、大正期の「未」の3字結合語の使用実態について考察を行う。

『太陽』コーパスの「未」の3字結合語は29語あり、そのうち、現代語にも使用例のある語は8語であり、現代語に使用例のない語は21である。それぞれ(18)(19)に語例を示す。

(18)現代語にある「未」の3字結合語 (8語)

未成年 17	未解決 12	未決定 5	未完成 5	未發達 4
未整理 3	未經驗 1	未組織 1		

(19)現代語にない「未」の3字結合語(21語)

未受精 74	未起工 7	未信徒 6	未消却 4	未成功 4
未確定 3	未發行 3	未募集 3	未熟練 2	未開封 2
未感染 1	未開墾 1	未調査 1	未召集 1	未到着 1
未報告 1	未終了 1	未着手 1	未發見 1	未透徹 1
未經過 1				

現代語の「未」の結合語は 15 語あり、現代語に至るまでに「未」の 3 字結合語の語数が減少したことが窺える。

5. おわりに

「未」の否定によって表す段階は動作過程の開始限界に達していない状態または動作過程の終了限界と結果状態に達していない状態を表す。前者は「動作がまだ発生していない状態」を表し、後者は「動作がまだ完全に終了していない状態または動作が結果状態に達していない状態」という「動作状態の否定」を表す。

近世以前では、「未」の 2 字結合語は見られるが、3 字結合語は見られない。下接語の品詞性からは「未詳」以外は、すべて動詞である。近世以前から、「未」は主に動詞の否定として使われている。

『太陽』コーパスの「未」の 3 字結合語の 29 語のうち、現代語にもある語は 8 語だけであり、21 語が現代語に見られない語である。現代語に至るまでに「未」の 3 字結合語の語数がかなり減少したことが窺える。

第五章 程度副詞との共起から見た「不・無・非・未」の性質

1. はじめに

程度副詞は状態性の語を修飾し、その語の内在する「程度性」を限定することを主な働きとしており、「程度性」を持つ状態性述語の中心は形容詞であり、多くの形容詞は一般の程度副詞と共起する⁴⁰。『日本語学研究事典』によると、「非常に痛い」「少し暮れてきた」などが程度副詞で、事態の有する程度性に言及することで事態の実現のされ方を限定したものである。

「不・無・非・未」は否定の意味を表しているが、否定の程度性はその先行する程度副詞によって表せると考える。

- (1) 銀行員に窮状を訴えると、「最新の機械です。ご不自由ならどなたかと一緒にいらしてください」と言われましたが、他人の手を煩わせるのはとても不合理です⁴¹。

1989年06月26日

- (2) 君の自主性を尊重するとか、自分で考え給（たま）えとか、恰好（かっこう）がよいけれど決断という負担を単に押しつけているだけで、とても無責任なのである。

1999年04月04日

- (3) これらの歴史をふまえると、平戸を訪れる観光客は歴史に裏付けられた異国情緒を十分に味わえる。しかしながら受け入れ施設、あるいは観光施設の整備は少し不十分だ。

1998年10月23日

上記の(1)~(3)のように否定の造語要素の結合語には、「とても」という程度が甚だしいことを表す副詞の修飾を受ける語もあれば、少量を表す程度副詞「すこ

⁴⁰ 佐野（1999:32）による。

⁴¹ 本章の例文は朝日新聞データベース聞蔵 II ビジュアル（知恵蔵）によるものである。「聞蔵 II ビジュアル（知恵蔵）」は 戦後紙面データベース部分（1945年～1984年までの朝日新聞紙面を収録）、1984年以降の記事データベース部分、現代用語「知恵蔵」最新版など3部分が含まれている。本論では1984年以降の記事データベースを用い、用例を収集する。

し」も見られる。本章では、程度副詞との共起関係から「不・無・非・未」の否定の程度性について考察する。

2. 語彙的否定のあり方

現代日本語において「不・無・非・未」という漢字を用いる否定のほか、和語の「ない」という否定形式も存在する。工藤（2000）では、「ない」は文法的否定を表すのに対して、「不」は語彙的否定として位置づけると指摘している。「無」・「非」・「未」も同様に語彙的否定を表す⁴²。

「不・無・非・未」のような語彙的否定と、「来ない、若くない、親切ではない、学生ではない」のような文法的否定形式の否定のあり方の違いについて、工藤（2000:103-104）では次のようにまとめている。

- ① 文法的否定形式は基本的に〈述語否定＝文否定〉であって、主語と述語とのむすびつき（ネクサス）を否定するものである。したがって、陳述副詞との呼応がある。一方、語彙的否定形式のほうは、主語と述語とのむすびつきを否定するものではない〈語否定〉である。したがって、陳述副詞とは基本的に呼応せず、程度副詞と共起しうる。語彙的否定形式の場合、主語と述語のむすびつきは肯定的であると言えよう。
- ② 述語否定＝文否定であれば、主語が表す実体（属性の持ち主）に述語が表す属性が存在するか否かをめぐって、肯定文とは矛盾関係（*contradictory terms*）になるが、述語否定でなければ反対関係（*contrary terms*）であってよい。
- ③ 文法的否定形式はほぼすべての動詞、形容詞、名詞述語に規則的に存在し包括的であるが、語彙的否定形式には、対応する肯定形式が存在する場合もあればない場合もあって、非包括的である。

工藤（2000）は以下の表 6 により、語彙的否定形式に対応する肯定形式が存在しない場合もあることを説明している。

⁴² 第一章の 1.2 に工藤（2000）の語彙的否定についての詳しく説明している。

表 6 語彙的否定形式

肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
幸せだ	不幸せだ	*	不慣れだ	*	無関係だ
確かだ	不確かだ	*	不向きだ	*	無意味だ
完全だ	不完全だ	*	不揃いだ	*	無抵抗だ
可能だ	不可能だ	*	不都合だ	*	無邪気だ
親切だ	不親切だ	*	不経済だ	*	無責任だ
愉快だ	不愉快だ	*	不用意だ	*	無関心だ
正確だ	不正確だ	*	不安定だ	*	無神経だ
器用だ	不器用だ	*	不器量だ	*	無気力だ
現実的だ	非現実的だ	*	非常識だ	*	未発達だ
生産的だ	非生産的だ	*	非効率だ	*	未解決だ
専門だ	専門外だ	*	予想外だ	*	未確認だ
					未経験だ

工藤（2000:104）による（*は存在しないことを表す）

工藤（2000）では、語彙的否定形式は陳述副詞とは基本的に呼応せず、程度副詞と共起しうると指摘されているが、程度副詞と語彙的否定の対応関係について詳しく言及していない。

また、表 6 のように語彙的否定形式には対応する肯定形式が存在する場合もあれば存在しない場合もあって、非包括的であるが、語彙的否定形式には「潜在的比較基準」⁴³としての肯定側が存在していることが考えられる。「不慣れ」「不都合」は「不」を取って、「慣れ」「都合」として肯定の意味を表すことができないが、「不慣れ」は「慣れている状態」に対しての否定であり、「不都合」は「好都合」に対しての否定と言えよう。話者は話者が考えている「慣れている状態」と比較して「不慣れ」といい、「好都合」と比較したプロセスを経て、「不都合」と表すことが考えられる。従って、「慣れている状態」と「好都合」はそれぞれ「不慣れ」・「不都合」の肯定側と言えよう。「不・無・非・未」は否定を表すが、その

⁴³ 渡辺（1990）では程度副詞の体系について論述している。同論文では「彼は多少なまいきな所があるね」の場合、一種の比較基準を含んだ表現だとし、「その比較基準とは、言わば一般的社会常識といったもので、人が普通備えていると期待されるすなおさ乃至なまいきさ、それを踏まえて、それを基準に判断すると「なまいき」の側に寄っている。その比較基準は言語的に顕在化されないままであるわけだが、それは、比較基準が一般的常識だからであって、それが潜在的比較基準として機能していることは間違いないと思われる。」と指摘している。

肯定側に対しての否定である点で肯定側に到達しないことがあり、肯定側からの心理的距離によって程度副詞が使用されると考えられる。肯定側に遠ければ遠いほど「非常に、とても」という大量の程度副詞が使われ、肯定側に近ければ近いほど、「すこし、多少」のような少量を表す程度副詞と共起しうる。

3. 程度副詞についての先行研究

渡辺（1990）では程度副詞を計量の程度副詞と比較の程度副詞に分け、前者は「とても類」、後者は「もっと類」とし、「とても類」には「はなはだ、すこぶる、たいへん」などがあり、「もっと」類には「ずっと、よほど、いっそう」などの語が存在すると指摘している。

また、同論文では「すこし」「ちょっと」「多少」などの「多少類」を「潜在比較」の程度副詞と呼んでおり、さらに「多少」は計量構文「Xは—Aだ」で用いる時と、比較構文「XはYより—Aだ」で用いる時とで、Aの位置に立つ状態性概念の語の範囲が異なる現象を指摘している。すなわち、比較構文においては「彼は彼女より多少なまいきだ。」と「彼は彼女より多少すなおだ。」のどちらもが可能だが、計量構文では「彼は多少なまいきだ。」は可能だが、「*彼は多少すなおだ。」は否であるから、計量構文に用いられる時、Aの位置には、話者によってマイナスの評価の与えられたものが最もよくなじみ、少なくともプラス評価の与えられた語はAの位置になじまないと指摘している。

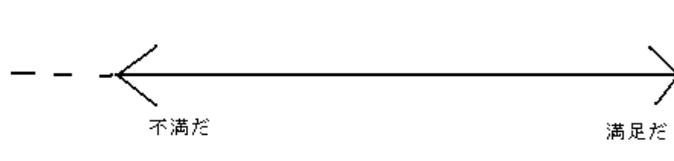
また、佐野（1999:32）では「程度副詞は状態性の語を修飾し、その語に内在する「程度性」を限定することを主な働きとする」と指摘し、その「程度性」とは「連続的・段階的な状態の幅」を指しているとしている。同論文では、さらに「程度」という観点から状態性述語を以下の四つに分類している。

①「程度性」を持つ（一般の程度副詞「非常に、とても、たいへん、かなり、まあまあ、少し…」などと共起）

例：大きい、小さい、複雑だ、不満だ…

②「程度性」を持つと同時に「極限」を持つ（一般の程度副詞「非常に、たいへん、かなり、まあまあ」とも「ほとんど」とも共起／或は「ほとんど」とのみ共起）

例：満足だ、正確だ…



③「一点的」である。（「ほとんど」と共起）

例：等しい、同じだ、無反応だ、無意識だ、無関係だ、未経験だ、未使用だ…

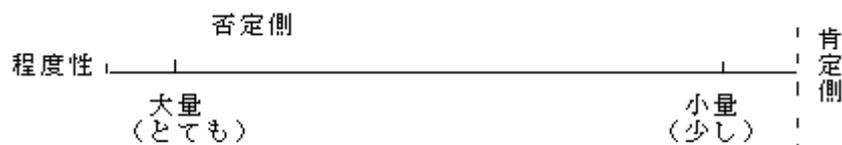
④それを特徴づける様々な性質を内包する（「ほとんど」と共起）

例：6月だ、小学生だ、主婦だ…

4. 分析方法

本章では先行研究を踏まえ、以下の①～③により否定の造語要素の程度性について分析する。

- ① 佐野（1999）の「程度性」の理論から程度副詞と共起しうる「不・無・非・未」の結合語の否定の「程度性」について分析する。
- ② 「不・無・非・未」は「潜在比較基準」としての肯定側が存在している。また、否定は肯定側の反対側に立つので、肯定側と距離がある。「不・無・非・未」の結合語に「少し」のような少量を表す程度副詞が先行するときは、肯定側との距離が近いと考え、「とても」のような大量を表す程度副詞が先行する場合は肯定側との距離が遠いとする。図式化すると以下のように表すことができる。



- ③ 渡辺（1990）によると「多少」が「Xは-Aだ」という「計量構文」に用いられるとき、「Aの位置には、話者によってマイナスの評価の与えられたものが最もよくなじみ、少なくともプラス評価の与えられた語はAの位置になじまない」という結論に基づいて、「多少類」の程度副詞が「不・無・非・未」に先行する場合は分析し、「不・無・非・未」がマイナスの評価が含まれるかについて分析

する。

5. 「不・無・非・未」の否定の程度性

本節では朝日新聞データベースである聞蔵 II ビジュアル（知恵蔵）の 1985 年 1 月 1 日から 2009 年 12 月 31 日までを考察範囲とし、程度副詞については大量を表す「とても」と少量を表す「すこし」が前接する場合を考察する。「とても」と「すこし」に後続する結合語は「不安」「無理」「非礼」「未熟」などの 2 字結合語や「不釣り合い」「不揃い」「不まじめ」のような否定の造語要素と和語の結合形もあるが、第二章の調査結果のように、2 字結合語と 3 字結合語は否定の意味と造語機能に差異があるため、本章では「否定の造語要素+2 字漢語」の 3 字結合語の否定の程度性について観察する。ただし、結合語に「とても」が先行する用例においては、「とても無関心ではいられない」のような打消し表現を伴い、結合語の程度性を限定していない用法は除外とする。また、結合語に「すこし」が先行する用例においては、「少し無責任すぎないか」、「少し無関心すぎる」のような「すこし」を使用されるものの、否定の程度は大量を表す例も除外とする。

5.1 「とても+不」 と 「すこし+不」

「とても+不」は全部で 213 例あり、「不」の結合語の異なり語数は 25 語である。また、「すこし+不」は全部で 362 例あり、「不」の結合語の異なり語数は 19 語である。

第二章の 4 では「不」の 2 字結合語と 3 字結合語を a~g の 7 つの意味に分類した⁴⁴。この意味分類に従い、程度副詞の先行する「不」の結合語を分類すると以下の(4)と(5)のとおりである。(4)は「とても」が先行する「不」の結合語を、(5)は「すこし」が先行する「不」の結合語を意味により分類したものである。

(4) 「とても+不」の語例と使用頻度⁴⁵

a (ある基準) にそむく／外れる／合わない(1 語)

不本意 3

b (～が足りない／ない／少ない／低いなど) 基準以下(1 語)

不条理 2

c ～が悪い(3 語)

⁴⁴ 「不」の 2 字結合語と 3 字結合語を意味により分類した語例は【資料 2】に示す。

⁴⁵ 結合語の後の数字は使用頻度を表す。

不気味 14 不機嫌 7 不恰好 3 不名誉 2

d～でない(19 語)

不愉快 86 不自然 18 不自由 13 不公平 7 不親切 6

不器用 6 不透明 3 不合理 3 不規則 2 不得意 2

不誠実 2 不健全 2 不平等 1 不人気 1 不明朗 1

不十分 1 不経済 1 不衛生 1

g (状態) しない／していない(2 語)

不安定 24 不満足 2

(5) 「すこし＋不」の語例と使用頻度

a (ある基準) にそむく／外れる／合わない(1 語)

不本意 5

b (～が足りない／ない／少ない／低いなど) 基準以下(2 語)

不注意 1 不用意 1

c～が悪い(4 語)

不気味 25 不機嫌 17 不恰好 8 不細工 2

d～でない(11 語)

不自由 241 不器用 13 不愉快 8 不自然 7 不謹慎 4

不十分 3 不合理 2 不規則 2 不公平 2 不明瞭 1

不明確 1

g (状態) しない／していない(1 語)

不安定 19

(4)と(5)のように「とても」と「すこし」が先行する「不」の3字結合語は、それぞれ a、b、c、d、g の意味を表し、とりわけ「～でない」の意味を表す結合語が多い。ただし、e の「～がない」、f の「(動作) しない」の意味を表す結合語は見られない。

以下、各意味の用例を示しながら、「不」の否定の程度性について分析する。

5.1.1 「(ある基準) にそむく／外れる／合わない」を表す結合語

(5)母は 83 歳で亡くなった。10 年余り前、脳梗塞を起こしてからは簡単な計算にも戸惑い、自分の生年月日を言うのもおぼつかなくなった時期がある。記憶自

慢だった母としては、とても不本意な状態だった。

2009年12月21日

- (6)アンパンマンがパンチを切り出すときは、ぎりぎりの線。そしてアンパンマンは一切、武器を持っていないでしょ。相手を傷つけないで、戦っているんです。そう受けとってもらえないのは少し不本意ですね。

2002年11月20日

「不本意」の下接語の「本意」は、話者の比較基準であり、肯定側である。「不本意」はその基準に合わないことを表す。「不本意」は肯定側の「本意」と心理的距離を持ち、肯定側に近ければ「すこし不本意」、肯定側から遠ければ「とても不本意」と表現されやすい。「不本意」は、極限を待たないことから、肯定側との心理的距離によって、大量の「とても」と少量の「すこし」のいずれも先行することが可能である。

5.1.2「(~が足りない／ない／少ない／低いなど) 基準以下」を表す結合語

- (7)「2週間ごとに20万円あまりのお金が、抗がん剤代に消えていく。預金が尽きるのが先か、命が尽きるのが先か、こんな気持ちに苛(さいな)まれないなら、とても不条理に思います」。

2002年12月19日

- (8)これを聞いた別の委員が「職場には違いないが、軍事訓練をしている場所だ」とただし、県は今度は「少し不注意な発言だったかも知れない。軍事訓練を体験するという事などは当然ふさわしくない」と修正した。

2001年03月15日

- (9)少し不用意な発言だったと思う…

2000年04月12日

(7)の「不条理」の下接語「条理」は、「不本意」の下接語「本意」と異なり、直接肯定側の意味を表さないが、「潜在的比較基準」を持っている。即ち、話者は「条理に叶う」状態に対し、「不条理」と表現するのである。「不条理」は肯定

側と距離があり、極限が想定されにくい語であるため「とても」と「すこし」のいずれも先行することができる。「不注意」は「注意の足りないこと」、不用意は「用心の足りないこと」のように、「不」の持つ「不足」の意味は、肯定側と距離があることを示しており、程度性を持つ。「不注意」と「不用意」も基準以下であることから、極限が想定されにくいため、「とても」と「すこし」のいずれも先行可能であると考えられる。

5.1.3 「～が悪い」を表す結合語

(10)その姿はとても不格好で、祭りのにぎわいや華やかさの中では、ひどく恥ずかしい思いにさせられた。

1989年10月06日

(11)外国人登録法が今月から改正され、永住資格が十四年ぶりに回復した。うれしさが込み上げてくると思っていたその日、とても不機嫌だった。

2000年04月18日

(12)少し不格好な、大げさな筆遣いも試み、何十枚も書き直すうち、「弱そうな、だけど元気がある字」に落ち着いた。

2008年10月27日

(13)思うほど子に思われず久びさの電話の声もすこし不機嫌…

2003年10月08日

(10)～(13)の「不格好」「不機嫌」は「～が悪い」の意を表す。その下接語の「格好」と「機嫌」は直接に肯定側の比較基準にならず、渡辺(1990)の提示されている「潜在的比較基準」が内在されている。「不格好」の潜在的比較基準は「一般常識としての格好」または「格好の良い状態」であり、「不機嫌」の「潜在的比較基準」は「機嫌の良い状態」が想定される。「不格好」「不機嫌」はいずれも極限を持たない語であり、程度性のある語であるため、「とても」と「すこし」が先行可能である。

5.1.4 「～でない」と「(状態) しない／していない」を表す結合語

(14)「しかし、そのぐらいではとても不十分だ。麦ごはんは、胃にもたれるという人も多く、似たようなことが人間でも起きている可能性がある」と、話している。

1987年12月16日

(15)うちの父親がしつこいくらい配達している方に言ったので、今では間違いはなくなったようですが、高校生のころ、一度だけ、郵便局から来た私あての封筒がカッターで開けられ、その後をテープでとめてあったことがありました。とても不愉快な気持ちになりました。

1994年01月27日

(16)夫は旅館で働き、生活はとても不規則だ。

1995年06月29日

(17)当たり前になりと同じであれば何の支障もなく生活出来るが、少し変わったことをすれば異質と映る世の中は、一見自由で実はとても不自由なのではないかと思う。

2007年12月27日

(18)これは、文化的にとても不健全なことなんじゃないかなあ。ある物をすごく愛する、ということが、非常に遠慮会釈ない罵声(ばせい)を浴びせかけることと裏腹になっている、という回路がまったくないんですね」

1994年03月07日

(14)～(18)は「とても+不」の用例である。「～でない」の意を表す結合語は下接語が形容動詞性名詞の語と名詞の語がある。(14)と(15)の「不十分」と「不愉快」は下接語が形容動詞性名詞の語であり、下接語の「十分」と「愉快」はそのまま肯定側となっている。一方で、下接語が名詞である(16)の「不規則」は「規則」が肯定側ではなく、「規則的」が潜在的比較基準として働いている。「不十分」「不愉快」「不規則」「不自由」「不健全」はいずれも基準以下であり、極限を持っていない語であるため、「とても」と「すこし」が先行可能であると考え

られる。以下の(19)～(24)は「すこし+不」の用例である。

(19)顔に傷があり、言葉も少し不明瞭（ふめいりょう）な娘ですが、仕事をこなす能力も十分あると思いますし、周りとの調和の取れる人柄であると思います。つらい手術にも他人からの奇異の視線にも耐え、明るく、まじめに生きてきた、人生そのものを見てくださる面接官はいないのでしょうか？

2002年07月26日

(20)りんごの皮むきは苦手だけど、キャベツの千切りは何度も練習して出来るようになった。でも、久しぶりの腕前披露に包丁を動かす手が慎重になる。トン、トトン、と少し不規則な音を立てながら、ゆっくりと刻んでいく。

2002年09月20日

(21)店の人は「よく分からないが、お金は警察でしょう」と言います。500円をケチっているおばはんと見られたようで、少し不愉快な思いをしました。

2004年09月11日

(22)先日も、花季を終えたカサブランカの葉と茎が少し不自然だったため掘り起こしてみると、球根がなくなっており、いかにも生えているように葉と茎を土に立てて偽装してありました。

2006年10月12日

(23)人間関係が少し不器用だという自覚があるなら、今年は試しに、あいさつとお天気の話の連発してみませんか。肩の力が抜けて、人間関係も楽になるはずです。

2007年01月06日

(24)その女性に親しみを感じ、ここで働いていてよかったと思いました。当時、心が少し不安定になっていた私に、この言葉は助けとなってくれたようです。

2009年10月20日

以上、程度性を持つ「不」の結合語は、「(ある基準) にそむく／外れる／合わない」、「(～が足りない／ない／少ない／低いなど) 基準以下」、「～が悪い」、「～でない」と「(状態) しない／していない」の意味を持ち「～がない」「～(動作) しない」の意味を表す結合語には、「とても」と「すこし」が先行する用例が見られない。程度性を持つ「不」の結合語は、いずれも肯定側から距離があり、基準以下であることから、極限が想定されにくい。そのため「とても」と「すこし」が先行する用例がともに多い。肯定側の基準までの距離が近い場合、「すこし」が先行され、肯定側の基準までの距離が遠い場合は「とても」が先行される。次に「無」の結合語の程度性について分析する。

5.2 「とても＋無一」と「すこし＋無一」

「不」の結合語には程度性を持つ語が多いのに対し、「無」は少ない。「とても＋無一」は全部で 21 例があり、「無」の結合語の異なり語数は 8 語である。「すこし＋無一」は全部で 9 例があり、「無」の結合語の異なり語数は 5 語である。以下の(25)と(26)にそれぞれの語例と使用頻度を示す。

(25) 「とても＋無一」の語例と使用頻度

無邪気 6	無責任 5	無愛想 3	無意味 3	無遠慮 1
無気力 1	無国籍 1	無防備 1		

(26) 「すこし＋無一」の語例と使用頻度

無気味 3	無神経 3	無愛想 1	無計画 1	無防備 1
-------	-------	-------	-------	-------

佐野(1999)によれば、「無」は本来ゼロを表し、一点的であるため、程度性を持たない。ただし、第三章の3で分析したように、「無」の結合語は「無資格」「無免許」のような「完全にゼロを表す語」と、「無感覚」「無責任」のような「無に近づく幅のある語」とに分けられる。前者の下接語は具体名詞が多く、後者は抽象名詞が多い。(25)と(26)に示した程度性のある「無」の結合語は、いずれも完全にゼロの状態ではなく、「無」に近づく幅のある語である。以下に用例を挙げながら「無」の結合語の程度性について分析する。

(27)さて、乙武くんの苦悩を知らないボクが言うのはとても無遠慮な気がするが、でもすごく思い切らせて言わせてもらおうと、2度渡米し、特別車をあつらえ、免許を取得するといった恵まれた経済的環境は、すでに“普通”の域を超えている。

2002年09月24日

(28)「業績が悪化し、とても非正規の雇用を継続できる状態ではない。大都会の雑踏の少し無気味な捉え方。第四首も昨今の町の風景。〈青春通り〉から姿を消した若者の行方を思う。

2007年04月30日

(27)と(28)の「無遠慮」「無気味」は「不遠慮」「不気味」とも表記され、「不」と同様に肯定側の基準以下のことを表し、「とても」と「すこし」に後接することができる。

(29)君の自主性を尊重するとか、自分で考え給(たま)えとか、恰好(かっこう)がよいけれど決断という負担を単に押しつけているだけで、とても無責任なのである。

1999年04月04日

(30)とても無気力に生きてきたのでサバイバルウオークなんて、と思いましたが、私も生きたいんだなあと思えて。今度は両親をつれて歩いてみます。

2000年01月08日

(31)戦争はとても無意味だもうやめよう

2000年08月12日

(32)「子供のころから、日本のアニメに接していたんだ。ヤマトも999も見てるけど、特にキャプテン・ハーロックがいいな。マツモトの世界はとても無国籍な未来が描かれていて、ぼくらの音楽に共通するものがある」とトーマ。

2001年04月05日

(33)築地市場には1日に約5万人が出入りする。至る所に置かれた魚や野菜の箱は、素人目にはとても無防備だ。

2001年05月24日

(34)生徒は私にとって、とても無邪気でかわいい存在です。

2008年05月28日

(35)信じられないような内容を書き込んだり、転送したりするのはとても無責任なことです」と説いた。

2009年01月21日

(36)そんな中で、雇用継続が決まった何人かが、とても無神経な発言をして、解雇される仲間の気持ちを傷つけていました。

2009年05月05日

(29)～(36)は「とても+無一」の用例である。(29)の「無責任」の下接語「責任」は肯定側の基準になっていないが、話者は「責任がある」または「一般常識としての責任感」といった潜在的比較基準と比較し、「無責任」と言うのである。「責任感が欠けている」ことも「無責任」と表現できるように、「無責任」はゼロに近づく幅があり、ゼロの状態が「無責任」の極限である。「無責任」は否定側の極限に近く、肯定側とは距離が遠いため、「すこし」よりも「とても」が先行されやすいと考えられる。「無気力」「無意味」も同様である。ただし、話者が少量の程度を表したい場合は、「すこし+無一」と表現することも可能である。

「とても+無一」が21例であるのに対し、「すこし+無一」は9例ある。

(37)写真をお撮りになるんですか？だいたい男性は少し無神経ですよ。

1988年03月13日

(38)「2人姉妹の長女だし、結婚しても自分の親の面倒を見る責任がある。そのためにきちんと貯金しろよ」。無口で少し無愛想な主人が、結婚前にこんなことを言った。

1988年08月04日

(39)豊かな熱帯の自然の中では、どこの庭先にも各種のフルーツが鈴なりで、日々の食料にはさほど困らない。だからなのか、みんなよく働くけれども、少し無計画で万事において「備え」に欠ける生活ぶりだ。

2000年03月10日

(40) (記事見出し) 異郷に来てみると のんびり...少し無防備

2006年01月01日

「無」の結合語は「～がない」状態を表すため、本来ならば一点的で程度性を持たない。「無一物」「無一文」「無資格」「無利子」などの語は「一点的」である。その故、「とても/すこし+無一」の用例は「とても/すこし+不一」の用例より少ない。「とても+無一」が21例であるのに対し、「すこし+無一」は9例ある。「無」の結合語は「～がない」という意味を表す場合もあるし、その意味が弱化して「足りない」という意味も表すことができる。例えば、「無防備」は「防備がない」、あるいは「防備が足りない」と解釈することができる。程度副詞が前接可能の「無責任」「無気力」「無意味」などの結合語は、「無」の意味が弱化したため、「一点的」ではなく、極限を想定しうる状態性の語である。程度性のある「無」の結合語は、否定側の極限に近い場合、「すこし」よりも「とても」が付きやすい。

次に「非」の結合語の程度性について分析する。

5.3 「とても+非一」と「すこし+非一」

「非」の3字結合語には程度副詞が先行する用例が極めて少ない。「とても+非一」は3例があり、「少し+非一」は見られない。

(41)私の取材にはとても非協力だった。

2005年02月09日

(42)「とくに特定局側にはリアルタイムに話が伝わらないし、特定局の連絡会役員には割高な役職手当も支払わなければなりません。とても非効率なんです。

2006年12月29日

(43) そうした場合、流れ作業の前工程は、後工程のトラブルに関係なくモノをつくるので、在庫がたまり、一転、とても非効率となる。

2009年08月09日

第二章の2で分析したように「不」は評価しうる範囲内で基準を満たさないことを表し、「非」は評価範囲外を表すこともできる。(41)の「非協力」と(42)(43)の「非効率」の肯定側はそれぞれ「協力的」「効率的」であり、「非協力」と「非効率」は肯定側から外れている意味を表す。「無」のような極限はないが、肯定側からの距離が比較的遠いため、「とても」が付きやすいと考えられる。

このほか、「とても/すこし」が「非～的」に先行する例が見られ、「非～的」も「すこし」より「とても」が付きやすい。

(44) 日本の農業は、とても非効率的で、保護水準が高いため、外国にとって潜在的には大きな市場になっています。

1988年10月15日

(45) 経済大国といいながら、日本の長時間労働や住宅環境なども、とても非人間的と感じた。

1995年02月20日

(46) 問題になったのは、入市被爆者についてのくだり。残留放射能だけでは「生命がおびやかされるほどのものではなかったと考えられています」とし、「市内はとても非衛生的な環境でしたから、その後、体調をくずした人が少なくない」と結んでいる。

1997年03月06日

(47) 東京大の〇〇助教授は「新渡戸の『武士道』は、江戸期までに実在した武士道とは違う。近代になってつくられたものだ。それを教育現場で回復せよと言うのは、実はとても非歴史的だ」と指摘。

2006年12月06日

(48) 周りの客も楽しそうにおしゃべりしていたので、2人は仕事のぐちや恋の話に花が咲いた。少し非日常的な空間にいたが、心地よい緊張をし、落ち着け

た。帰り際、明日からも頑張っていこうと思った。

2003年02月07日

以上、「非」の3字結合語は程度性を持つ語が少ない。程度性を持つ「非」の結合語は「とても」に付きやすい。それは、「非」の結合語は肯定側をはずれた距離があり、その距離は肯定側から遠いからである。「非」の結合語は「極限」が想定されない点で「不」と類似している。

5.4 「とても＋未－」と「すこし＋未－」

「未」の結合語に程度副詞が付く例は少なく、「とても＋未－」は0例、「すこし＋未－」は1例が見られる。

(49) 本が行う査定は、本社の複数の上司と彼が相談して決めた年間の受注・売上額（ノルマ）などを基準にして、▼非常によい成果を達成（A）▼目標を達成して合格点（B）▼少し未達成（C）▼全然ダメ（D）の四段階に分かれる。一回のボーナスで三十万～百万円の差がつくという。

2000年01月10日

(49)は達成度を評価する基準として「少し未達成」と表現されている。「未達成」の下接語「達成」は肯定側であり、「未達成」は肯定側から距離がある。第四章の3では「未」の否定によって表す段階を「動作過程の開始限界に達していない状態」と「動作過程の終了限界または結果状態に達していない状態」とに分けている。「未発表」は「まだ発表されていないこと」であり、「発表」という動作が開始していない状態を表すため、点心的で程度性を持たない。一方で「未達成」は「動作過程の終了限界または結果状態に達していない状態」を表す語であり、達成に至るまでの幅を持ち、「完全に動作が始まっていない」といった極限を想定しうる点で「無」と類似している。「無－」の場合は「ゼロ」の意味が弱化した結果、「ゼロ」という否定側の極限に近いことを示すため、「とても」が付きやすい。一方で、「未－」の場合は否定側の極限に近いとは限らないので、「とても」と「すこし」にあまり偏りなく後接することができる。

6. おわりに

本章の調査では、朝日新聞の1985年1月1日から2009年12月31日までの「不・無・非・未」の結合語が程度副詞の「とても」と「すこし」に後接する用例を考察した。その結果、「とても+不―」は213例、「すこし+不―」は362例、「とても+無―」は21例、「すこし+無―」は9例、「とても+非―」は3例、「すこし+未」は1例とあるが、「すこし+非―」と「とても+未―」の用例は見られなかった。

最も程度副詞に付きやすいのが「不―」であり、「とても」と「すこし」に後接する例がともに多く、用例数から圧倒的に「無―」「非―」「未―」を上回っている。それは、「不」の結合語は形容動詞になりやすく、程度性を表しやすいからであると考えられる。また、「不」の結合語は極限を想定されにくいいため、肯定側との距離により、「とても」と「すこし」が偏りなく前接される。「不」の結合語の前には「すこし」が付く例が多いことから「不」は話者の好ましくないマイナスの評価を表しやすいことが分かる。

「無―」は少量を表す「すこし」より、大量を表す「とても」に付きやすい。

「無」の結合語は本来であれば、「点的」である状態性の語であるため、程度副詞に付かない。しかし、「無」の一部の結合語は、「無」の「ゼロ」の意味が弱化した結果、「点的」ではなく、「極限」を想定しうる語になるため、否定側の極限に極めて近いことが考えられる。故に、大量を表す「とても」に付きやすい。

「非―」は「ある範囲から外れる」という意味を持っているので、肯定側までの距離が遠いことが考えられ、「とても」に付きやすい。

「未」の結合語の前に程度副詞が付く用例は最も少ない。「動作過程の終了限界または結果状態に達していない状態」を表す「未」の結合語の一部は極限を想定しうる点で「無」と類似している。ただし、「未」の結合語の場合、否定側の極限に近いとは限らないので、「とても」と「すこし」にあまり偏りなく付くことができる。

第六章 「非〇〇的」の成立過程

1. はじめに

「不・無・非・未」のうち、「非」は3字結合語の語例が少なく、「非〇〇的」の形態が目立つ。本章では「非〇〇的」の成立過程の一例として、「非科学的」の成立過程について観察する。また、「不経済／非経済的」「不合理／非合理的」「不衛生／非衛生的」など「不」と「非」の同形下接語の類似点と相違点を明らかにする。

2. 先行研究

野村（1981）は、明治初期から第二次大戦後までの時期に刊行された5種類の英和辞典⁴⁶を用い、同一の言語にあてられている訳語の中から、字音接辞を含む語を抜き出す方法を利用し、「不・無・非・未」を含む語が、英和辞典の訳語としてどのように出現したかをまとめ、そのうちの初出語数について考察している。その結果をまとめると以下のとおりである。

- ① 「不」は明治初期の<薩摩>、中期の<柴田>にすでに使われ、<井上>に最も多く出現する。そして、昭和初期および戦後では、ほぼ同じ程度に用いられている。それに対し、「無」「未」「非」は、大正時代になって、はじめて出現し、「未」と「非」は戦後によく使われている。「無」は昭和初期にピークがあり、戦後にやや減少している。2字漢語と結合する「不」の用法は、『邦訳日葡辞書』とヘボンの『和英語林集成（初版）』（1867年）にも見られることから、近代になってから突然あらわれたのではない。しかし、大正初期の辞書で「不」を含む語が急増するのは、明治期に定着した新漢語と「不」との結合形が大量に生産されたからである。昭和期になって「不」の生産力が弱化してくるのは、「不」の結合対象が2字漢語の範囲に留まり、新しく生産される2字漢語が減少するとともに「不」の造語力も弱化したと見られる。
- ② 「無」の場合にも「不」とほぼ同じ傾向が見られるが、「不」は近世以前の用語を、明治以降にも引きついたのに対し、「無」にはあまりその傾向が見られ

⁴⁶ 五種類の辞典とは次のものである。<>は、略称を示す。

- ① 1869（明治2）『改正増補和訳英辞書』（通称、薩摩辞書）。<薩摩>
- ② 柴田昌吉・子安峻 1885（明治18）『附音図解英和字彙（第二版）』。<柴田>
- ③ 井上十吉 1915（大正4）『井上英和大辞典』。<井上>
- ④ 1927（昭和2）『研究社新英和大辞典（初版）』。<研1>
- ⑤ 1960（昭和35）『研究社新英和大辞典（四版）』。<研4>

ない。そして、昭和初期ごろまでは、かなり生産力を持つものの、現代では勢力を失っている。

- ③ 「非」は現代になってからよく用いられるようになり、「一的」という語に付く用法が目立つ。「一的」は、事物や動作を表す語について、全体を形容動詞の語幹に相当する、状態を表す名詞に変える働きを持っている。訳語の問題として、原語には接辞による整然とした派生関係が存在している。in- や un- の訳語として使われる「無」や「不」が「一的」と結合する用法を持たなかった理由として、否定接辞が持つ本来の機能によるものであると指摘されている。「無」には本来、事象や動作を表す語と結合するので、「一的」のような状態を表す語と結合する接辞としては失格であった。これに対して「不」は形容動詞と結合する用法があるが、「不」は単に否定の意味を添えるだけでなく、マイナスの価値観を伴うものが多い。「非」は無色な語感を持っている点で「不」と異なる。
- ④ 「未」は「未成功」1例を除いては、すべて<研4>に現れることから、「不」や「無」よりも遅れて発達していた。

このように、「不・無・非・未」の発達は近代語の大きな特徴である漢語の大量生産及び翻訳と関係を持っている。次の3では「非科学的」を例として、その定着プロセスを見る。

3. 「非科学的」の定着プロセス

野村（1981）の記述から、近代において大量の新漢語が作り出され、「一的」という接尾辞が発達したことにより、「2字漢語+的」が盛んに使用されるようになり、さらに否定接頭辞の本来の性質により「2字漢語+的」の否定として「非」が使用されるようになったことが分かる。そこで、「非科学的」を例にして、明治から昭和にかけての英和辞書において、Science（科学）、Scientific（科学的）、及びUnScientific（非科学的）がどのように翻訳されていたかについて考察を行う。

1869年（明2）『英和对訳袖珍辞書』

Science, s. 孝問

Scientific, Scientifical, adj. 孝問ノ

1872 年（明 5）『英和对訳辞書』

Science, s. ^{ガクモン} 學問

Scientific, Scientifical, adj. ^{ガクモン} 學問ノ

1882 年（明 15）『英和字彙』

Science, n. 學。理學。科學。藝。學問。智慧。知識。…

Scientific, Scientifical, a. 學問ノ。智慧ノ。學則ノ。博學ノ。學力アル。知識ノ

Unscientific, a. 無學ノ。無知ノ。學則ニ合ハザル

1888 年（明 21）『英和袖珍字彙』

Science, n. 理學、藝、學問、智慧、知識

Scientific, scientifical, a. 理學ノ、智慧ノ、學則ノ、知識ノ

1894 年（明 27）『英和新辞林』

Science, n. 科學、理學、知識、原理

Scientific, scientifical, a. 科學的 科學ニ通曉セル —ly. adv. 科学的ニ

1902 年（明 35）『新訳英和辞典』

Science, n. ①科學 ②學 ③知識 …

Scientific, scientifical, a. ①科學ノ、科學上ノ、科學的 ②學ニ題ゼル、學理ニ精シキ、學問アル

—al-ly, ad. ①科學的ニ。②學理ニ依リテ、學問上ニテ

un-scientific. a. ①科學的ナラヌ。②學理ニ暗キ

1919 年（大 8）『井上英和大辞典』

Science, n. ①〔古〕知識。②科學，理學，科學研究，科學研究法，學術③（又 natural science）自然科學④〔pl.〕學。⑤技術（爭鬪其他の鬪争に於て）

…

Scien-tific, a. ①（調査等）科學的，系統的，自然科學の，自然科學的，自然科學に關する。②精確の，嚴密の③（動作）技術の助による，技術上の。…

Un-sci"en-tific, a. ①科學的ならぬ，學理に戻る。②學理に暗き，科學に興味なき。

1927 (昭 2) 『研究社新英和大辞典 (初版)』

Unscientific c 非科学的、科学によらない、学理によらぬ、不正確な、組織的でない、確実でない

1948 年 (昭 23) 『エッセンシャル英和辞典』

Un-sci-en-tif-ic 科學的でない、非學術的、學理によらぬ

明治 2 年刊行の『英和对訳袖珍辞書』と明治 5 年刊行の『英和对訳辞書』には、Science の訳語にまだ「科学」は表れておらず、「孝問」が表れている。形容詞の Scientific は「孝問ノ」と訳され、UnScientific の項目はない。明治 15 年刊行の『英和字彙』には Science の訳語に「科学」「理学」「智慧」などが加わり、Scientific の訳語は「学問ノ」「智慧ノ」などで表している。UnScientific の訳語は「無知ノ」「無学ノ」のように造語要素の「無」で表しており、「的」を介して形容詞を作る訳語はまだ見られない。明治 27 年刊行の『英和新辞林』には、Scientific の訳語に「科学的」が定着していた様子が窺える。昭和 2 年刊行の『研究社新英和大辞典 (初版)』と昭和 23 年刊行の『エッセンシャル英和辞典』では、UnScientific の訳語としてそれぞれ「非科学的」「非學術的」など接頭辞「非」と接尾辞「的」との二次結合が見られる。

また、朝日新聞データベースから、「科学的」の用例は 1892 年から出現し、「非科学的」の用例は 1911 年から見られることが分かった。

1892 年 3 月 19 日	土壤の科学的組成異変
1894 年 5 月 6 日	科学的作用
1898 年 8 月 25 日	科学的素養 科学的觀察
1899 年 12 月 25 日	科学的宗教
1900 年 1 月 28 日	科学的作用
1911 年 2 月 28 日	非科学的実験
1914 年 8 月 7 日	非科学的貧港
1920 年 9 月 9 日	非科学的
1922 年 5 月 23 日	非科学的知識
1924 年 7 月 27 日	非科学的な犯罪捜査が生んだ 恐ろしい殺人罪

このように「科学的」が定着した後に、「非科学的」が定着するプロセスが見られ、そのプロセスから「非科学的」の語構造は「非科学+的」ではなく、「非+科学的」であることが分かる。

4. 「非」の意味変化、「不」との相違点

『日本国語大辞典（第二版）』の記述によると、「非」には以下の3つの意味がある。

【非】

- ①正しくない。わるい。あやまり。／是非、理非、非違／昨非、先非、前非／是是非非／非行、非道、非法、非望、非謀、非礼／
- ②そしる。／非難、非毀、非議、非笑、非斥／
- ③そうでない。／似而非（「じじひ」「えせ」）／非運、非家、非我、非器、非興、非業、非才、非時、非常、非情、非僧、非俗、非想、非非想処、非鉄金属、非番、非分、非凡、非命、非理、非道、非科学的、非金属、非現実、非現業、非公開、非公式、非合法、非国民、非常識、非戦闘員、非素数、非人情、非売品／

「非」の①「正しくない。悪い。あやまり」と②「そしる」の意味を表す語は「非行」「非道」「非礼」などのように「非」の2字結合語であり、③「そうでない」という意味には「非」の2字結合語もあれば、「非金属」「非科学的」など「非」の3字以上の結合語にも見られる。第二章の考察結果のように「非」の①と②の意味は「非」の3字以上の結合語には影響されていない。

明治期の国語辞書においても、「非」の3字結合語は「非参議」のみある。

1892年-1893年（明25—明26）『日本大辞書』

非

- ① サウデナイコト。
- ② 道理ノ無イコト。——「理ヲ非ニ曲グ」。
- ③ キズ。——「非ヲ打ツ」。
- ④ 勤メノ無クナルコト。免ト對シ、免ハ全ク勤メヲ離レ、非ハ退イテ尚繋ガツテ井ルコト。——「非参議」。——「非番」

『日本大辞書』に登録されている「非」の結合語は以下 12 語である。

非義 非業 非常 非職 非道 非人 非分 非凡
非命 非役 非理 非違

上記の 12 語はいずれも「非」の 2 字結合語であり、「非」の 3 字結合語は見られない。

一方で、『日本国語大辞典』では「不」の意味は次の 3 つに分類している。

ふ 【不】

[接頭]

- ① 体言につけて、それを打ち消し、否定する意を表わす語。
- ② 「～でない」の意を添える。「不確か」「不適當」「不健康」「不自由」「不満足」など。
- ③ 「～がない」、「～がよくない」の意を添える。「不人情」「不品行」「不出来」「不手際」「不勉強」「不都合」など。

「非」は 2 字漢語を否定する場合、「正しくない」「悪い」などの意味を添加しないのに対し、「不品行」「不都合」など「不」の 3 字結合語における「不」は、「～がよくない」という意を添える機能を持っている。

5. 「非」と「不」の機能の相違点

次に「不経済」と「非経済的」、「不合理」と「非合理的」を例にして「不」と「非」の機能の相違点について検討する。

5.1 「不経済」と「非経済的」

表 7 は朝日新聞データベースの各期間における「不経済」と「非経済」の用例数を表す。

1879 年から 1926 年の間に「不経済」が 49 例であるのに対し、「非経済」の用例は見られない。「経済的」は 677 例見られるが、その否定形の「非経済的」はまだ使用されていない状況である。1989 年から 2010 年の間に、「非経済」を含む用例は急増し、そのうち、「非経済的」は 37 例がある。以下の(1)から(4)に用例を挙げ、「不」と「非」の機能の差について考察する。

表 7 「不経済」と「非経済」の用例数

年代	不経済	非経済
1879年～1926年	49例	0（経済的 677例）
1926年～1945年	39例	1例（非経済的観念）
1945年～1989年	31例	1例（非経済部門）
1989年～2010年	199例	58例（非経済的 37例）

(1)痛くなるまで受診を控えている人もいるが、麻酔などの治療費がかかり、かえって不経済だし医療費も圧迫する。

2010年12月12日

(2)大学進学で一人暮らしをする娘は自炊しています。外食やコンビニ弁当は栄養が偏るし、不経済だそうです。

2010年04月29日

(3)また使用済み燃料の有効利用の側面でも、「燃料の単価が高く非経済的で、M O Xの廃棄物の問題も起こる」と効果の薄さを強調。

1997年09月26日

(4)農業は国土や環境保全、社会の安定性、人間性の維持など、非経済的な価値も大きい。

1989年03月12日

(1)では麻酔などの治療費が無駄にかかるので、「不経済」であり、(2)では外食やコンビニ弁当が「不経済」であるとしていることから、「不経済」は費用を無駄に使う、経済的でない意味を表す。

ところで、『日本国語大辞典(第二版)』によると、「経済」は以下のように名詞と形容動詞の用法がある。

【経済】

(名詞)

- ① (一する) (「経国済民」または「経世済民」の略) 国を治め、民を救済すること。政治。
- ② 人間の共同生活を維持、発展させるために必要な、物質的財貨の生産、分配、消費などの活動。それらに関する施策。また、それらを通じて形成される社会関係をいう。
- ③ 金銭のやりくりをすること。
- ④ (形動) 費用やてまのかからないこと。費用やてまをかけないこと。また、そのさまをいう。儉約。節約。

(1)と(2)の「不」が否定するのは、上記の④の形容動詞としての「経済」である。一方で、「非経済的」は(3)のように「経済的でない」という意味を持っているので、「不経済」と意味の重なる部分があるが、(4)のように「経済」というカテゴリーを外れた経済以外の要素を表す場合にも使用されている。この場合は、「不」に入れ替えることができない。

5.2 「不合理」と「非合理的」

また、朝日新聞 2008 年の 1 年間において、「不合理」と「非合理的」の結合形態には次のような特徴が見られる。

表 8 「不合理」と「非合理的」の用例数

形態	非合理的な	非合理的な	不合理的な	不合理的な
用例数	6	1	0	64

表 8 から分かるように「非合理的な」の形態は 1 例のみである。「非合理的な」の形態が 6 例あるのに対し、「不合理的な」は 0 例である。「非」は「的」を媒介にすることで連体修飾が可能となるが、「不合理」は「な」形でそのまま連体修飾ができる。

(5) そんな彼がこの船で遭遇するのは、どうしても非合理的な事件ばかりだ。

2008 年 4 月 13 日

(6)「弁護士がいないと、封建制のような非合理的な力に左右されてしまう」と語気を強める。

2008年4月25日

(7)また、被告が不合理な弁解をしているとし、「被害者らに日々新たな精神的苦痛を与えている」と述べ、反省の念にも疑問を投げかけた。

2008年3月12日

(8)一審は「不合理な設計とまではいえない」としていた。

2008年2月27日

6. おわりに

「非」は「不」「無」「未」と比べて接尾辞「的」との二次結合が多いのが目立った特徴である。「非〇〇的」の定着過程には「〇〇的」の定着を経た後、「非」が加わるプロセスが見られる。

「非」は「的」を媒介とすることで連体修飾を可能とさせるが、「不」は「不〇〇な」の形で連体修飾ができる。「ある範囲から外れる」という意味機能は「不」には見られない「非」の特徴である。

第七章 否定の造語要素の優先選択

1. はじめに

日本語の中には、「不許可」「無許可」「未許可」のように異なる造語要素が同じ下接語に前接する例が多く見られる。これらの造語要素の否定の意味にはどのような相違点があるのだろうか。本章では「不・無・非・未」の下接語の品詞性と否定の意味との関わり、及び結合語の接続形態をまとめ、否定の造語要素の優先選択の規則性を探る。

2. 「未」と「不」の否定の意味

久保（2010）は認知言語学の枠組みに基づき、日本語の否定接頭辞である「不」「非」「未」「脱」を用いた否定表現について、語基の表す事態が時間軸に沿って展開する動的プロセスを持つものであるか否か、また、語基が肯定的もしくは否定的な価値を有しているか否かという、二つの観点からのアプローチを試みることで、否定の造語要素の分類方法を提示し、その分類方法に基づき、各造語要素の表現の方法と意味について考察している。

久保（2010:59-60）は「未」の基本意味を「過去から現在までにおいて、ある状態が期待されるべき状態にまで達成されていないが、未来において達成の可能性はある。」として提示し、「未」の意味は時間の進展、つまり動的プロセスに関わっているものであると指摘している。これに対し、「不」に後続する語基の多くは段階性を持つものであることから、その基本的意味を「ある状態が望ましい基準にまで達していない」とし、「不」は現状についてのみ表現する否定接頭辞であり、未来へ推移するにつれて、現状がどのように変化していくのかについては含意されないため、「不」は動的プロセスには関わらないと指摘している。

久保（2010）は「未」の語基の表す事態が時間軸に沿って展開する動的プロセスを持っていると結論づけている。

「不」は N、VN、AN の語を下接語とし、「未」は主に VN の前に前接する。

第四章の3でまとめたように、下接語の動的プロセスにおいて、「未」の否定によって表す段階は、動作過程の開始限界に達していない状態、動作過程の終了限界、または結果状態に達していない状態を表す。

3. 「不」と「非」の否定の意味

久保（2010）は「不」と「非」について価値判断の観点から分析を行っている。同論文では、「不」の基本的な意味が「ある状態が望ましい基準まで達していない」であることを提示し⁴⁷、この「望ましい事態」とは、我々の価値判断に基づいて決定されるものであるとの見方を示し、一方で、「非」の基本的な意味が「ある対象が、当該するカテゴリーに属していない」であることを述べ、その語基が矛盾概念を持つものである必要があることを示している。

同論文では、「不」に後続する語基は、価値的肯定性を持つものである必要があり、「不」は価値判断に関わる否定接頭辞であると指摘されている。

確かに「不健康」「不誠実」「不得意」の下接語「健康」「誠実」「得意」は、価値判断において価値的肯定性を持っている。ただし、「不」の下接語が AN の語の殆どは価値的肯定性を持っているが、下接語が N や VN の語は価値的肯定性とは関わらないと考えられる。

(1) 不 AN⁴⁸

不穏当 穏当でないこと
不活発 活発でないこと
不得意 得意でないこと
不熱心 熱心でないこと

(1)の「不穏当」「不活発」「不得意」「不熱心」の下接語はいずれも久保（2010）の結論のように価値的肯定性を持っている。ただし、「不」の下接語が N と VN の語は価値的肯定性を持つ語とは限らないのがみられる。

(2) 不 N

不成績 成績がよくないこと
不景気 景気がよくない状態
不見識 見識が低いこと

⁴⁷ 久保（2010）では、「不満足」は「何かに満足すること」が我々の価値判断にとって望ましいことであるが、ある時点において、その基準にまで達していない状態を表しているとし、「満足」という語には肯定的な価値が含まれていると指摘している。

⁴⁸ 「不 N」「不 VN」「不 AN」「不 AN/VN」の語例は【資料 1】に示す。

「不 N」の下接語「成績」「景気」「見識」などの語は「価値的肯定性」を持っていない語であり、「不」が前接することによって「～が悪い/～が低い/欠けている」といったマイナスの意味が付加されている。

また、「不」の下接語が VN の語においても「介入」「侵略」など価値的肯定性とは関わりのない語が見られる。

(3)不 VN

不介入 介入しないこと
不侵略 侵略しないこと
不干涉 干涉しないこと

このように、「不 AN」の下接語は価値的肯定性を持っているが、「不 N」の場合の「不」は、基本的に「～が悪い/～が低い/欠けている」という意味を添加する役割を果たしており、「不 VN」の下接語は価値的肯定性とは関わりのない語が見られる。

久保（2010）は「不」に対して「非」は「カテゴリーの否定」に関わる否定接頭辞であると指摘し、その下接語は矛盾概念を持つ必要があると述べている。同論文では「*私は会員でも非会員でもない。」における「非会員」という表現において、「非」によって区分されているのは、「会員である/ない」のいわば「会員カテゴリー」であり、語基が矛盾概念を持つものであることを必須条件とするが、価値判断に関わる条件は求めないと指摘している。

4. 「無」の否定意味

「無」は漢字の意味どおりに「ない」という意を表し、「有」の反対語である。

(4)無趣味 趣味がないこと
無利子 利子がないこと
無規律 規律がないこと

(4)のように「無」は存否否定を表す。

第三章で述べたように、「無」の名詞下接語には「意義」、「価値」、「意識」のような抽象名詞もあれば、「色彩」、「声音」、「一物」のような具体名詞も存在している。「無」は基本的に「～がない」という意味を添加する。

以上、「不」は価値判断と関わりがあり、「無」は存否否定、「非」はカテゴリーの否定、「未」は動的プロセスの否定であることが分かる。

5. 「不・無・非・未」の同形下接語の用例分析

「不・無・非・未」の否定の意味の相違点と下接語の品詞性を踏まえ、以下に用例を挙げながら同一下接語に前接する場合、否定の造語要素の相違点について分析を行う。本節の例文は朝日新聞データベース聞蔵 II ビジュアル(知恵蔵)によるものである。

(5)(記事見出し) 県公安委員会、不処分決める 凶面偽装容疑のディスコ/愛知県

(記事本文) 同委員会は、業者が営業許可を不正取得したものの、見通しを妨げる範囲が狭く、県警の立ち入り検査後、柱を撤去したことなどから、行政処分しないことを決めたという。⁴⁹

2007年11月3日

(6)逮捕されたものの少年審判で不処分となった元生徒の父親の声には憤りがにじむ。

2005年9月7日

(7)付添人は「少女が否定している非行事実を裁判所が認めたのは不満だ。突き落とした事実はなく、不処分にすべきだ」と決定を批判した。

2004年10月1日

(8)今回のような大量処分は前例がないうえ、着用組合員に対しても処分、非処分の選別を行っており、組織介入、不当労働行為といわざるを得ない。

1985年9月12日

⁴⁹ 同記事本文により抜粋した。以下同様である。

(9)野坂さんは「訓告は実質的な制裁を伴わないもので、無処分と同じ。こうした甘い対応の結果、体罰教員に反省させることができず、体罰が後を絶たない原因の一つになっている。

1996年12月18日

(10)免停処分の期間が満了した後、原告は無違反、無処分で一年経過した。

1993年1月26日

(11)(記事見出し)未処分の15社を10カ月指名停止 橋梁談合事件で県/長野県(記事本文)国が発注した鋼鉄製橋梁(きょうりょう)工事をめぐる談合事件で、県は16日、独占禁止法違反の罪で起訴された業者26社のうち日立造船や三井造船など、県として処分していない15社を同日から10カ月間の指名停止処分とした。

2005年6月17日

(5)では「同委員会が「行政処分しないこと」を決めた」と記事本文にあることから、「処分するかあるいはしないか」に対して決定した結果を表す。(6)(7)の「不処分」も同様に結果状態を表す。(8)の「非処分」は「処分」と矛盾概念を表す語として「処分しない」という意味を表す。一方で(9)と(10)の「無処分」は「処分がないこと」という「有」に対する否定を表す。また(11)の記事見出しの「未処分」は記事内容からみると、「まだ処分していない」という状態を表すが、「処分する」可能性があることの動的プロセスにおける否定を表している。

(12)ドイツ、中絶では“不統一” 旧東側はOK、旧西側は禁止(記事見出し)

中絶が原則禁止の西ドイツに対し、東ドイツは原則自由と、これまで全く対照的に取り扱われていたため、調整がつかなかった。(記事本文)

1990年10月6日

(13)すでに3年前、田川建三・大阪女子大教授が序文での誤訳を指摘したが、棚沢さんらはさらに訳語の不統一、意味の取り違いなどに気づいた。

1989年10月11日

(14) (記事見出し) 水道料金、6市町未統一 合併経て調整中 未合併・津幡は
水源別会計/石川県

(記事本文) 統一化が進められている一般家庭の水道料金が県内6市町で未統一のままとなっている。

2007年11月23日

(12)では「調整がつかなかった」という意味で「不統一」という言葉を使用している。つまり「統一していない」という結果状態を表す。(13)では「棚沢さんらは訳語の不统一到気づいた」とあり、「不統一」は「望ましい統一の状態に達していない」状態を表す。(14)では「統一化」が最終目標として想定され、「統一化が進められている」動的プロセスのなかで「まだ統一されていないこと」が「未統一」と表現されている。

「未」と「不」が同じ動名詞に付く場合、「未」では動的プロセスにおける状態を強く反映されているのに対し、「不」では単なる状態の否定または動作結果の否定を表す傾向にある。

(15)領収書廃棄は不合理 仙台市議会政調費で地裁判決 オンブズマン反発、控訴へ/宮城県 (記事見出し)

仙台市議会の政務調査費の支出の適法性が問われた差し戻し審判決で、仙台地裁は24日、「領収書は廃棄した」とした2会派について不正流用を認めた。(記事本文)

2008年3月25日

(16)盛岡競馬場や県外馬券場「不合理・法令違反なし」

組合監視委が報告/岩手県 (記事見出し)

「明らかな法令違反や著しく合理性を欠く事案はなかった」とした。(記事本文)

2007年8月25日

(17)近代の文明は神秘や迷信などの非合理的なものを排除し、科学的な合理性と効率の道を目指した。(再掲)

2006年2月13日

(18)夢や幻想など非合理的な潜在意識を表現するシュールレアリスムの代表だ。

2002年12月13日

(15)の記事見出しで「不合理」の語が用いられた背景には、記事内容の「不正流用を認めた」結果による判断があると分かる。(16)の「不合理」は「著しく合理性を欠く」という意味を表している。(17)の「神秘や迷信などの非合理的なもの」に含まれる「神秘」と「迷信」は人間の理屈で説明できないものであるため「合理性を外れた」世界として「不合理」が用いられているのである。

(18)も同様に「夢や幻想など非合理的な潜在意識」に含まれる「夢」と「幻想」は、人間の理屈では説明できないものであり、合理の世界を外れたものである。「不合理」は「合理性」で評価しうる範囲内で基準を満たさないものを指し、「非合理的」は「迷信」・「幻想」などのように「合理性」で評価しうる範囲外にあるものを指すことができる。

(19)痛くなるまで受診を控えている人もいるが、麻酔などの治療費がかかり、かえって不経済だし医療費も圧迫する。

2010年12月12日

(20)大学進学で一人暮らしをする娘は自炊しています。外食やコンビニ弁当は栄養が偏るし、不経済だそうです。

2010年04月29日

(21)また使用済み燃料の有効利用の側面でも、「燃料の単価が高く非経済的で、MOXの廃棄物の問題も起こる」と効果の薄さを強調。(再掲)

1997年09月26日

(22)農業は国土や環境保全、社会の安定性、人間性の維持など、非経済的な価値も大きい。

1989年03月12日

(19)では麻酔などの治療費が無駄にかかるので、「不経済」であり、(20)では外食やコンビニ弁当が「不経済」であることから、「不経済」は費用を無駄に使う、経済的でない意味を表す。一方で、「非経済的」は(21)のように経済的でな

いという意味を持っているので、「不経済」と意味の重なる部分もあるが、(22)のように「経済」というカテゴリーを外れた経済以外の要素を表す場合も使用される。このときは、「不」に入れ替えることができない。

6. 「不・無・非・未」の結合語の接続形態

拙稿(朴 2009)は朝日新聞オンライン記事データベース『聞蔵 II ビジュアル』の1985年1月1日から2008年9月30日までを調査範囲とし、同一の下接語を持つ「不・無・非・未」の結合語の接続形態について考察を行った結果、「不」と「非」は同一の下接語が後続する語例があるが、表9のように「不」は「不〇〇な」の形態で、連体修飾成分となり、「非」は「非〇〇的」の形態で連体修飾成分となる⁵⁰。

表9 「不」と「非」の結合語の接続形態

下接語	不			非		
	不〇〇	不〇〇な (に)	不〇〇的	非〇〇	非〇〇な (に)	非〇〇 的
合理	3325	1436	3	562	137	215
道德	305	81	1	75	1	56
経済	256	45	1	83	0	54
条理	2464	633	0	17	1	0

「非〇〇」を含む語の中では「非〇〇」単独形が少なく、ほとんどは「非〇〇」と別の語との複合形、あるいは「非」と接尾辞との共起形で見られる。例えば、「非合理」を例にとって説明すると「非合理」を含むすべての語数を検索した結果、「非合理的」「非合理性」のような接尾辞との共起形で表れる語が多い傾向にある。

⁵⁰ 不〇〇な(に)は形容動詞としての形態を指す。「不〇〇な」は形容動詞の連体修飾であり、「不〇〇に」は形容動詞の連用修飾である。「不〇〇的」は形容動詞の語幹を作る。「不〇〇」は「不〇〇」単独形のほか、「不〇〇」の複合語、「不〇〇な(に)」、「不〇〇的」なども含めたすべての語数を表す。「非」の場合も同様である。

7. おわりに

以上、述べた用例の分析結果により、類義の意味を持つ「不・無・非・未」のうち、それらのいずれに特化して否定を表す語が作り出されるかについて優先選択⁵¹の規則性が見られることが分かる。

「不・無・非・未」の下接語の品詞性、結合語の形態及び否定の意味についての研究結果を踏まえ、以下に表 9 と表 10 に基づき、「不・無・非・未」の優先選択の規則性をまとめる。

表 10 「不・無・非・未」の下接語の品詞性と語数⁵²

造語要素 (語数)	N	VN	AN	AN/VN
不(117 語)	24 語(20.5%)	48 語(41.0%)	36 語(30.8%)	9 語(7.7%)
無(76 語)	37 語(48.7%)	37 語(48.7%)	2 語(2.6%)	—
非(14 語)	8 語(57.1%)	5 語(35.7%)	1 語(7.1%)	—
未(15 語)	1 語(6.7%)	14 語(93.3%)	—	—

「不・無・非・未」の優先選択の規則性は以下の①～③にまとめられる。

- ① 下接語が N の場合、最も前接しやすいのは「無」であり、「非」・「不」がそれに次ぎ、最も前接しづらいのが「未」である。「不」・「無」・「非」は同じ名詞を下接語とする場合でも、その形態を詳細に見ると接尾辞「的」との複合語になる場合は「非」が優先的に用いられる。また「マイナスの評価」の価値判断を表す必要のある場合は「不」が使用される。
- ② 下接語が VN の場合「不・無・非・未」の四種の造語要素はいずれも前接することができるが、その語数から見ると「不」「未」「無」が最も前接しやすく、最も前接しづらいのが「非」である。「無」は VN の語を否定する場合、主に下接語の名詞性を否定する。これを意味用法の側面からみると、価値判断を表すときには「不」が用いられる。「その動作がまだ発生していない」、あるいは「完了していない」という動的プロセスにおける一時点の状態を表

⁵¹ 福田 (2005) は「不・無・非・未」は最適選択の規則が働いていると指摘している。このような最適選択の規則は、「不・無・非・未」の造語機能と意味機能とに関わるものである。本章では否定の造語要素のうち、どれが最適かについては検討せず、このような造語機能と意味機能によって、どれが優先的に選択されるかについて検討する。

⁵² 表 10 は NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第 7 巻』により抽出した「不・無・非・未」の 3 字結合語を、下接語の品詞別に分類したものである。

すときは「未」が優先的に選択される。それに対して、動的プロセスと関わりのない静態状態の否定には「不」と「無」が使用される。

- ③ 下接語が AN のときは「不」が圧倒的に優勢であり、「非」の 3 字結合語のうち、下接語が AN の語例が少なく、「無（む）」と「未」は下接語が AN の語に前接することができない。ただし、「非」は「的」と共起し、形容動詞の語幹を形成する。

第Ⅱ部 日中、日韓「不・無・非・未」の対照研究

第八章 日中「不・無・非・未」の類似点と相違点

1. はじめに

現代中国語においても「不・無・非・未」が使用されている。第一章で述べたように日本語の「不・無・非・未」が語彙的否定を表すのに対し、中国語の「不・無・非・未」は、語彙的否定だけでなく、文法的否定も担っている。

本章では日中「不・無・非・未」の同形語を中心に、中国語で直訳可能かどうかを通して両言語の「不・無・非・未」の類似点と相違点をまとめる。

2. 日中「不・無・非・未」の相違点

本節では先行研究を踏まえ、日中「不・無・非・未」の類似点と相違点について概観する。

拙稿(朴 2012)では、日本語と中国語の否定の造語要素をそれぞれの造語形態から概観した上、NTT データベース『日本語の語彙特性 第7巻』から「不・無・非・未」を含む3字結合語の日中同形下接語を品詞別に分類し、日本語と中国語の間における「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞転換機能の相違点について分析を行った。以下、その研究結果をまとめる。

造語形態において日本語の辞書『大辞泉』、中国語の辞書『漢語大辞典』と『現代漢語辞典』から「不・無・非・未」を前接する語の形態を比較した。

日中両言語の「不」は「不○」「不○再結合」「不○○」「不○○再結合」「不○○不○」⁵³の5つの結合形態がある。「不」の5種類の結合形態は日中両言語ともに各形態が見られるが、「不○○再結合」の形態は中国語の辞書に「不平等条約」の1例のみ見られる。中国語においては「不○」と比べて、「不○○」は複合語を作る数が少ない。また「不○不○」の形態においては、日本語には「増減」のように対義であるか、または「言語」・「知識」のように、類義の関係を持つ2字熟語のそれぞれの前に2つの「不」を挿入した形式が見られる。この現象は中国語にも同様に見られるが、「不○不○」は一つの文法形式として定着しており、日本語に比べて造語力が高いと思われる。

「無」については日中両言語ともに5つの結合形態のすべてが見られる。ただし、日本語の「無○無○」の形態に用いられる語は「無二無三」の1例だけ見られ、その他の形態についても量的に中国語と比べてかなり少ない傾向にある。ま

⁵³ 「○」は一字漢字を指し、「○○」は二字漢語を指す。以下同様である。

た、中国語の「不〇不〇」の形態と同じく一つの文法形式として類義の漢字 2 字に付けることができるが、「上下」のような対義の漢字 2 字には付けることができない。

「非」については 5 種類の結合形態のうち、「非〇」と「非〇〇」の再結合の形式は中国語には見られないが、日本語には数多く見られる。中国語においては「非対抗性矛盾」、「非条件反射」、「非電解質」のような語が存在するが、いずれも「非対抗」、「非条件」、「非電解」のような「非〇〇」の形に分離できず、「非」は「対抗性矛盾」、「条件反射」、「電解質」の否定になる。また、中国語では「非〇非〇」（「～でもない、～でもない」）の形式が存在するが、日本語では見られない。

「未」は中国語では「未〇〇」と「未〇〇再結合」の語数は少ない。日本語・中国語ともに「未〇未〇」の形式は見られない。

また、日中両言語における「不・無・非・未」の結合前後の品詞転換機能の有無について示したのが下の表 11 である。

表 11 日中両言語の造語要素と結合前後の品詞転換機能の有無の比較⁵⁴

結合形態	結合前後の品詞転換機能の有無		結合形態	結合前後の品詞転換機能の有無	
	日	中		日	中
不 N	〇N→A	〇N→A	無 N	〇N→A	〇N→A
不 V	〇V→A	×	無 V	〇V→A	〇V→A
不 A	×	×	無 A	×	—
非 N	〇N→A	×	未 N	×	—
非 V	〇V→N	—	未 V	〇V→A	〇V→A
非 A	×	—	未 A	—	—

表から分かる結果を以下にまとめる。

- ① 「不 N」「不 V」「不 A」の結合形態は、日本語と中国語のいずれの言語ともに見られる。「不 N」の場合は日本語・中国語ともに結合前後で品詞転換機能が

⁵⁴ 結合前後に品詞転換機能があるときは「〇」、結合前後に品詞転換機能がないときは「×」、当該の結合形態が存在しないときは「—」で示している。また、下接語の品詞性と結合語の品詞性の移り変わりについては「V→N」のように示す。

見られるが、「不 A」の場合は日本語・中国語ともに品詞転換機能は見られない。また、「不 V」の場合については、日本語には「V→A」の品詞転換が見られるが、中国語においては結合前後で品詞転換は見られない。

- ② 「無 N」・「無 V」の場合は、日本語と中国語のいずれも結合前後で品詞転換機能がある。「無 A」の場合は、日本語には品詞転換機能がなく、中国語では「無 A」の結合形態が見られない。
- ③ 「非 N」・「非 V」・「非 A」については結合形態からみると、日本語では3種いずれとも見られるが、中国語では「非 V」「非 A」の結合形態が見られない。また、日本語において「非 V」のときには、「V→N」の品詞転換機能が見られる。
- ④ 「未 A」の形態は日本語・中国語ともに見られない。一方で「未 V」の形態は日本語・中国語とも存在し、そこでは「V→A」の品詞転換が見られる。

以上、日中両言語の「不・無・非・未」は、造語形態及び下接語と結合語の品詞転換機能において相違点が見られる。以下3節から日本語で接頭辞と見られる「不・無・非・未」の3字結合語における日中同形語を中心に、「不・無・非・未」の機能の類似点と相違点について分析する。

3. 日中「不」の類似点と相違点

「不」は日中両言語における同形漢字の一つである。日中両言語における「不」は意味用法の類似性により「不確定」「不衛生」などのような数多くの同形結合語を形成している。これらの同形結合語の多くはそのままの形で中国語に翻訳する⁵⁵ことが可能であるが、その中には直訳のできない語も見られる。

(1) 不品行な人 / 品行不端的人

(2) それは不見識きわまる話だ。 / 说那太没有见识了。

(1)と(2)の「不品行」「不見識」の下接語「品行」「見識」は日中同形語⁵⁶である。

⁵⁵ 以下「直訳」という。

⁵⁶ 本章では簡体字または繁体字などの字体に拘らず、元の漢字表記が同じであれば、日中同形語とみなす。日中同形語はさらに意味によって同形同義語、同形類義語、同形異義語に分けられる。同形異義語は日中両言語においてそもそも意味が異なるため、直訳不可能である。本章では、同形同義語と同形類義語を対象とし、中国語で直訳可否かを検討する

ものの、中国語においては「不」を前接して否定することができない。

(3)这个说法不科学。／この言い方は非科学的だ。

(4)这是不人道的的行为。／これは非人道的な行為だ。

逆に、(3)(4)のように中国語の“不科学”“不人道”の日本語訳は「不」ではなく、「非」が用いられる。

このように日中両言語において同形同義の下接語であっても、「不」を前接して否定できない語もあれば、「不」以外の否定の造語要素が使われている語もある。このような言語現象が見られるのはなぜだろうか。上記のような翻訳上の問題を出発点とし、本節では日中両言語における「不」の機能の相違点を明らかにした上で、「不」と他の否定の造語要素との関連性からこれらの言語現象を説明する。

3.1 先行研究

日本語の否定接頭辞に関する先行研究のほとんどは「不」「無」「非」「未」などをめぐって総合的に行われてきた⁵⁷。

日本語の「不・無・非・未」についての先行研究は多く見られるが、中国語との対照研究はあまり行われていない。鄒(2006)は、「不」の2字結合語と3字結合語を研究対象に入れ、「不」の結合相手の独立性からみた語構成と機能からみた語構成とを分析し、日本語の「不」と中国語の「不」の品詞転換機能及び中国語の「不」の否定の意味の弱化現象を指摘したが、日本語と中国語の「不」の対応関係については触れていない。

本節では、日本語と中国語の「不」の対訳を通して、日中両言語の「不」の相違点を明らかにしたい。

3.2 調査対象および分析方法

本節ではNTTデータベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』から下接語が独立性のある「不+2字漢語」(「不」の3字結合語)を抽出し、その下接語を品詞別に分類する。

が、「不・無・非・未」の機能により、直訳不可能の原因を解明することを目的とし、下接語の意味の差による直訳不可能の問題は考察範囲としない。

⁵⁷ 野村(1973)、サトウアメリカ(ほか)(1982)、奥野(1985)を参照。

そして、日本語の中から下接語の形態が中国語に一致する語を抽出し、中国語への直訳可否を整理した上で、日本語と中国語の間における「不」の機能の共通点と相違点を明らかにしたい。

野村（1998）では日本語の品詞性を次のように分類している。

事物類（N）…助辞ガ・ヲをとめない、述語に要求される成分となる。

動態類（V）…スルをとめない、動詞として文の成分となる。

様態類（A）…ナ（ノ）・シイをとめない、連体修飾成分となる。

副用類（M）…単独でまたはニ・トをとめない、連用修飾成分となる。

中国語においては語の形態変化は見られないものの、野村(1998)の分類基準に従って、上記の下線部の一致性を求める方法は可能である。本論では中国語の品詞性を次のように分類する。

事物類（N）…述語に要求される成分となる。文の中で主語と目的語になりうる。

動態類（V）…動詞として文の成分となる。

様態類（A）…連体修飾成分となる。中国語の格助詞“的（de）”を伴い、程度副詞“很（hen）”の修飾を受けることができる。

副用類（M）…連用修飾成分となる。

品詞分類としては、名詞のみの語を「名詞（N）」（例：成績・規則・条理）、サ変動詞になり得る名詞を「動名詞（VN）」（例：着陸、干渉、成功）、形容動詞になりうる名詞を「形容詞性名詞（AN）」（例：穏当・可能・健康）と定義する。

3.3 日本語の「不」の中国語訳

孤立語としての中国語において「不」は、否定副詞として動詞、形容詞、助動詞などを否定することができ、語の数からみると日本語に比べて膨大になるため、その範囲を限定するのが困難である。日本語母語話者が中国語を学習するとき、または中国語母語話者が日本語を学習する際に、最も混同されやすいのが日中同形語であるため、ここでは日本語の「不」の下接語から日中同形語を抽出し、分

析を行う。日本語における「不」の下接語は N の語、VN の語、AN の語があり⁵⁸、その中で下接語が中国語と形態が同じ語を抽出して比較を行う。

日本語の「不」の語数 117 語のうち、下接語が VN の漢語との結合が 48 語と最も多く、下接語が N のものは 24 語、下接語が AN の語は 36 語、下接語が AN/VN の語は 9 語が見られる。その中で日中同形語を抽出し、次の(5)~(8)に示す。

(5)下接語が N の日中同形語 (13 語)

衛生 道德 景気 規則 経済 合理 面目 見識 品行 成績
条理 利益 人情

(6)下接語が VN の日中同形語 (26 語)

調和 適応 確定 拡大 履行 均衡 飽和 特定 消化 徹底
統一 連続 干涉 成功 整顿 処分 侵略 注意 一致 起訴
同意 許可 生産 賛成 合格 成立

(7)下接語が AN の日中同形語 (17 語)

穏当 可能 愉快 活発⁵⁹ 完全 适当 明確 必要 透明 明瞭
明朗 自由 親切 正確 鮮明 誠実 公平

(8)下接語が AN/VN の日中同形語 (5 語)

安心 安定 満足 相応 謹慎

上記の(5)~(8)の日中同形語の中で中国語において「不」が付いたときに「直訳可能」の語と「直訳不可能」の語を分析する。

『中国語大辞典』における“不”の項目の解説から、中国語の「不」は、否定を表す副詞として、動詞、助動詞、形容詞および特定の副詞の前に用い、反復疑問文や“不是..., 就是...”、“不...就...”“不...才...”などのような多様な文法的用法が見られる。そのうち、日本語と中国語の「不」の機能の共通部分は、中国語の「不」

⁵⁸ 詳細な語例は【資料 1】をご参照

⁵⁹ 『日本国語大辞典(第二版)』の見出し語「かっぱつ」は「活発」と「活潑」の二つの表記があり、同項目の「補注」には「活発」は「活潑」の書き換えとあることから、「活発」と「活潑」は同一語であると考えられる。中国語においては、「活発」に対応する簡体字“活发”はみられないが、「活潑」に対応する簡体字“活泼”が使用されているため、本章では「活発」を日中同形語とみなす。

が動詞と形容詞の前に付く場合である。

中国語の「不」は動詞と形容詞を否定することができるため、下接語が VN と AN の語(6)～(8)は中国語の「不」が付けられることになる。確かに(6)～(8)の日本語の下接語が VN と AN の同形語は、いずれも中国語の「不」を前接しても直訳することができる。それは(6)～(8)の同形語は中国語においても動詞または形容詞に属するからである。中国語においての「不」は基本的に動詞と形容詞を否定する機能を持っているのである。一方で、中国語の「不」は名詞を否定する機能を持っていないため、下接語が N の語である(5)は中国語の「不」が付けられないことになるが、下接語が N である(5)の語には中国語の「不」をつけて直訳可能の語もあれば、直訳不可能の語も見られる。以下に例文を取り上げ、分析を行う⁶⁰。(例文中の下線及び例文に対する中国語訳は筆者によるものである。)

(9)不衛生な雑巾から病気にでもなったら、お前さんの家族に何と言ってお詫びしたらいいんや。

坂本敏夫 2003『刑務官』

(要是因不卫生的抹布生了病，怎么跟你家人交代啊。)

(10)未婚で性的関係をもつことは不道德である。

児玉徳美 2004『意味分析の新展開』

(还没结婚就发生性关系，是不道德的。)

(11)不景气でどこもここもどんどん寂しくなる。

江波戸哲夫 2002『部長漂流』

(由于不景气，到处都越来越冷清了。)

(12)不規則な生活や無理なダイエットは肌を老化させる一番の原因です。

浅野裕子 2003『20代で女を磨く本』

(不規則的生活和过度减肥是皮肤老化的最大原因。)

⁶⁰ 例文(9)～(21)は、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)により、抽出した例文である。現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築されたコーパスであり、現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである。検索対象となる資料は「出版・新聞 (コア、非コア)、出版・雑誌 (コア、非コア)、出版・書籍 (コア、非コア)」である。

(13)流氷を眺めてから三分くらいしか経っていない。十二、三万円の旅費で三分とは不経済だ。

菊地慶一 2004『流氷』

(眺望浮冰仅过了三分钟。(花了)十二、三万的旅费才三分钟，太不经济了。)

(14)しかも、このシステムは経理的にも不合理な面がある。

山並辰巳/竹森健太郎 2002『プロジェクト H』

(况且，这个系统在会计上也有不合理的一面。)

(9)～(14)の「不衛生」「不道德」「不景気」「不規則」「不経済」「不合理」の6語は中国語で直訳可能である。一方で、(15)～(21)の「不面目」「不見識」「不品行」「不成績」「不条理」「不利益」「不人情」の7語は中国語で直訳不可能である。

(15)妻の金で馬を買うなど...男としては不面目にござります。

中島道子 2005『山内一豊と妻千代』

(用妻子的钱买马等...对于男人来说是不体面的。)

(16)酒を飲み過ぎて肝臓が腫れたことを憂うるのはその人が不見識なので、…

唐沢俊一/藤倉珊 2004『トンデモ本の世界 T』

(担忧肝肿了是因为酒喝多了，是那个人缺乏见识，…)

(17)こんな不品行な生徒を、本官は未だ一度も乗せたことがない。

池畑慶蔵 2003『追憶』

(本官到现在没有载过如此品行不良的学生。)

(18)あまりの不成績にたまりかねた父が、たまたま朝日新聞に紹介されていた小日向台町国民学校の難聴学級に私を転校させる決心をしたのは、三年生の時である。

加藤光二 2005『可能性に挑んだ聴覚障害者』

(对我的成绩太差忍无可忍的父亲，偶然看到朝日新闻上介绍的小日向台町国民学校的听障班，决定让我转到那所学校，是在我三年级的时候。)

(19)世間知らずの人間が週刊誌を作るという不条理な世界が現実^に生じているわけ
です。

岩本太郎 2004『潮』

(不懂人情世故的人编写周刊，在现实中也在发生这样不合逻辑的事情。)

(20)自分たちに不利益なことを自分たちが決めるとするのは難しい。

山田厚史、藤原作弥 2001『わが放浪』

(自己決定对自己不利的事情很难。)

(21)関係ないことを無闇によそへ漏らすような、そんな不人情なことはまさか
し
ないでしょう。

平石貴樹 2002『笑ってジグソー、殺してパズル』

(把不相干的事情随便泄露给别人，像这样不讲人情的事情应该不会做吧。)

日中同形の下接語の中で、中国語で直訳可能の語と直訳不可能の語がある原因として両言語の下接語の品詞性による差が考えられる。

中国語は語尾変化が見られないのに対し、日本語は語尾変化が見られ、例えば「衛生」と「衛生的な」のように複数の形態が存在する語がある。形態からみると「衛生」は名詞で、「衛生的な」は形容動詞に属している。中国語は形態の変化が見られない孤立語であることから、「衛生」の一語が日本語における「衛生」と「衛生的な」の二つの語の機能を担っている。

「衛生」「道徳」「景気」「規則」「経済」「合理」は日本語において名詞のみの品詞であるが、中国語においては名詞だけでなく、形容詞にもなりうる。中国語の「不」が否定する品詞は形容詞性名詞である。「面目」「見識」「品行」「成績」「条理」「利益」「人情」は中国語で形容詞性のない名詞であるため、中国語の「不」で否定することができない。

以上のように、日本語の「不」が付く下接語と形態が一致する中国語を抽出し、日本語・中国語の「不」の機能について検討した。日本語の「不」は名詞、動名詞、形容詞性名詞を下接語とすることができる。一方で、中国語は基本的に日本語の動詞と形容動詞にあたる品詞を下接語とし、名詞には付きにくい。日本語では否定文に和語の「ない」を用いる反面、「不」は文法的否定形式ができず、語彙的否定形式としての働きをする。これに対して中国語の「不」は文法的否定形式としての機能も担っている。

これまで日本語から中国語の翻訳をみてきたが、中国語における語彙的否定形式としての「不」は、日本語ではどのように翻訳されているのか。次は、その翻訳の様子をみる。

3.4 中国語の「不」の日本語訳

中国語の「不」に対応する日本語訳には「不」以外に「無」「非」「未」のような否定接頭辞が使われる現象が見られる。

(22)不抵抗政策／無抵抗政策⁶¹

不抵抗主义／無抵抗主義

(23)不着陆／無着陸飛行、着陸しない

(24)不记名存款／無記名預金

不记名投票／無記名投票、

不记名支票／無記名小切手

(25)这种讲法太不科学。／この話し方はあまりに非科学的だ。

(26)不人道／非人道的、非人情である、人道的でない。

(27)你的想法太不现实了！／君の考え方はあまりに非現実的だ。

(28)首倡不结盟运动。／非同盟運動を首唱する。

不结盟国家／非同盟国家

不结盟政策／非同盟政策

(29)不熟练工人／未熟練労働者

上記の(22)～(29)のように中国語の「不」の日本語訳には「不」以外に「無」「非」「未」のようなほかの否定接頭辞で表す訳語が見られる。それは日本語における

⁶¹ (22)～(29)の語例及び例文は、『中国語大辞典』によるものであり、左側は中国語であり、右側はそれに対応する日本語訳である。

「不・無・非・未」の下接語の機能によるものである。日本語の「不」「無」「非」「未」は否定の意味を表す否定接頭辞であり、「不」と「非」は N、VN、及び AN の前に前接し、「無」は N と VN、「未」は VN の前に前接する。一方で中国語の“不”は動詞と形容詞、“无”と“非”は名詞、“未”は動詞を否定する。日本語における「不」の機能は完全には中国語の「不」と一致せず、中国語の「不」の一部の機能が日本語の「無」「非」「未」などの否定接頭辞によって分担されているのである。

(22)の“抵抗”は、中国語では「抵抗する、反抗する」という意で、否定は“不抵抗”と言えるが、“无抵抗”という言い方もある。(23)の“着陆”は「着陸する」という意で、動詞であるから中国語では“不”で否定する。(24)の“记名”は動名詞であるので、中国語では“不记名”／“无记名”両方が言えるが、“无记名”がより多く使用されている。日本語において「抵抗」「着陸」「記名」に「不」が前接せず、「無」と翻訳されるのは日本語における「不」と「無」の下接語の性質によるものであると考えられる。日本語において「抵抗」「着陸」「記名」はいずれも動名詞であり、日本語における「不」と「無」は両方ともに動名詞に前接することができる。(25)～(27)の下接語の“科学”“人道”“现实”は中国語において形容詞性を持っているため、「不」を用いて否定する。しかし、日本語の「科学」「人道」「現実」は名詞であり、連体修飾成分になるには「的」を下接する必要がある。そして「〇〇的」の否定は「非」が使われる。そのため、“不人道”“不现实”“不科学”は日本語で直訳できず、「非～的」の形式で翻訳する。(28)の中国語の“不”が日本語の「非」と訳されるのは、日本語の「不」と「非」の結合語の語構造によるもので、結合語の意味の差異は見られない。

上記に挙げた語例以外に中国語の“不”の日本語訳には「ない」と対応する用例が多数を占めている。それは日本語と中国語で「不」の下接語の性質が違い、また、中国語の“不”が語彙的否定だけではなく文法的否定の機能も担っているからである。

3.5 日中「不」の下接語の価値評価の違い

上述のように日中「不」は否定機能の違いと下接語の品詞が異なるほか、下接語の価値評価も違いが見られる。

日本語の「不 AN」の下接語はプラスの意味を表す語がほとんどである。久保(2010)の説明によれば、「不満足」という表現においては、「何かに満足すること」が我々の価値判断にとって望ましいことであるが、その基準にまで達していない

状態を表しているため、「満足」という語には肯定的な価値が含まれていると考えられ、これと同様に「健康であること」「誠実であること」「得意であること」は、価値判断において肯定的な価値を持っており、「不」に後続する語は、価値的肯定性を持つものである必要があり、「不」は価値判断に関わると考えられる。

「不穩当」「不活発」「不得意」「不熱心」などの「不」の下接語は、「穩当」「活発」「得意」「熱心」であり、それらはいずれも価値的肯定性を持っている。

一方で、中国語の「不 A」の形容詞下接語は価値的肯定性を表す語とは限らない。

(30)不反对／反对しない

不腐敗／腐敗しない

不冷淡／冷淡でない

不拘束／堅苦しくない

不偏心／えこひいきしない

(30)のように中国語の「不 A」の下接語は、価値的肯定性とは関わりがなく、ほとんどの形容詞を修飾することができる。

3.6 日中「不」の機能

「はじめに」に挙げた「不」の直訳不可能の翻訳問題の説明を含め、対訳における日中両言語における「不」の相違点を以下に纏める。

(1)不品行な人／品行不端的人

(2)それは不見識きわまる話だ。／说那太没有见识了。

(1)と(2)が中国語において直訳できないのは日中「不」の下接語の品詞に制約があるのが原因である。日本語の「不」は数多くの名詞の前に付けられるが、中国語の「不」は基本的に動詞と形容詞の前に付き、名詞には付きにくい。「品行」「見識」は中国語では名詞であるので、「不」で否定できない。また、日本語の「不」は語彙的否定のみを表し、中国語の「不」は語彙的否定と文法的否定両方の機能を果たしている。

(3)这个说法不科学。／この言い方は非科学的だ。

(4)这是不人道的行为。／これは非人道的な行為だ。

(3)と(4)のように中国語で「不」を前接して否定する語が日本語では「不」以外に「無」「非」「未」などの否定の造語要素を用いて翻訳される例が見られる。日本語における「不」の機能が完全には中国語の「不」と一致せず、中国語の「不」の一部の機能が日本語の「無」「非」「未」などによって分担されていることが分かる。

4. 日中「無」の類似点と相違点

4.1 中国語の「無」の意味

『中国語大辞典』によると、中国語の「無」は以下の3つの意味を持っている。

无

① 有の反対語 从无到有／無から有になる

② 不

无须乎这样／そうである必要がない

无妨试试／ひとつ試してみたらどうか

③ (...に) かかわらず 不论

事不论大小,都有人负责。／事大小となくすべて責任を負うものがある。

『中国語大辞典』の「無」の項目の説明から、中国語の「無」は日本語と同じく「ない」という意味を持っているが、②③のように文法的にも使用されている。

また、『中国語文法用例辞典』では、「無」を接頭語として位置付け、以下の二つの用法を持っている。

(无+名詞) +名詞 名詞を構成する。

例：无产者/無産者 无产阶级/プロレタリアート 无脊椎动物/無脊椎動物

(无+名詞) +動詞 名詞を構成する。

例：无痛分娩/無痛分娩 无形损耗/設備の歴史的価値低下 无条件刺激
62/無条件刺激

『中国語文法用例辞典』の“无”の項目では、中国語の「無」の二次複合語の用法について分類されているが、中国語の「無」の一次結合語の用法については記述されていない。

日中における「無」は「ない」という意味で共通している。次に、日本語の「無」の3字結合語における日中同形語を中心に「無」の機能の差異を考察する。

4.2 日中「無」の同形結合語

日本語の「無」は名詞、動名詞、形容動詞性名詞の前に前接する。「無」の名詞下接語は37語、動名詞下接語は37語、形容動詞性名詞の下接語は2語ある。

「無」の名詞下接語の37語のうち、日中同形下接語は33語、同形でない下接語は「利子」「免許」「愛想」「作法」の4語である。

(31) 「無」の名詞下接語の日中同形語 (33語)

無神経 無関心 無慈悲 無定見 無責任 無節操 無表情 無気力
無軌道 無邪気 無趣味 無目的 無価値 無秩序 無能力 無一文
無資産 無利息 無報酬 無過失 無国籍 無資格 無政府 無党派
無条件 無重力 無資力 無重量 無事故 無期限 無灯火 無色彩
無一物

(31)の同形下接語のうち、「邪気」⁶³は、日中同形であるが意味が明らかに異なる語である。

また、「無」の動名詞下接語の37語のうち、日中同形下接語は34語、同形でない下接語は「頓着」「欠席」「得点」の3語である。ただし、日中同形語のうち、「作為」は意味が明らかに異なっている。

⁶² “无条件(無条件)”については、「動詞を修飾できる」と記述している。

例：我无条件同意（ぼくは無条件に賛成だ）

⁶³ 『日本国語大辞典(第二版)』によると、日本語の「無邪気」の「邪気」は「悪意」の意味である。一方で、中国語の「邪気」は「よこしまな気風、病気のもとになる毒気」の意味である。

(32) 「無」の動名詞下接語の日中同形語 (34 語)

無計画 無思慮 無意識 無理解 無意味 無信心 無分別 無自覚
無防備 無造作 無感覚 無差別 無教育 無作為 無統制 無関係
無矛盾 無制限 無抵抗 無干渉 無許可 無競争 無回答 無批判
無鑑査 無試験 無配当 無担保 無所属 無着陸 無修正 無添加
無投票 無遠慮

「無」の下接語が形容動詞性名詞の語は、「無風流」「無器用」2語であり、この2語の下接語「風流」「器用」はいずれも日中同形語である。

これらの日中「無」の同形結合語は、下接語が同形異義語または同形類義語の場合は、下接語の意味により、翻訳も異なる。例えば、日本語の「無信心」は「(形動) 信仰心が無いこと。また、そのさま。ぶしんじん」であるのに対し、中国語の「信心」は「自信」の意であり、「無信心」は「自信がない」という意味である。下接語が同形同義語である場合、日中両言語ともに「無」が前接することができる。しかしながら、「無」の結合語の文中における成分や両言語の下接語の品詞性の差異によって、直訳不可能の場合がある。以下の4.3では、日本語の「無」の結合語が文中における成分別に、中国語での直訳可否を観察する。日本語の用例は現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版、中国語の用例は「百度新聞」によるものである。

4.3 日本語の「無」の中国語訳

4.3.1 文の成分からみた中国語訳

日本語における「無」の結合語は「ナ・ノ」をつけて連体修飾成分になり、そのまま述語にも位置づけられる。これに対して中国語では格助詞“的 (de)”⁶⁴を付けて連体修飾成分になり、述語になる場合は独立性を失い、主語と述語の関係を否定する文否定になる。

(33) 想像もしなかった無意義な日々を送っている。

朝日新聞 1995

⁶⁴ 中国語の「的」は日本語の「的」の機能と異なる。中国語の「的」は体言を繋げる格助詞の機能を果たす。

(34)ビデオカメラの普及は被写体の痛みに無感覚な傍観者的記録者を量産しつつあるのかもしれない。

朝日新聞 2008

(35)従って勝者の一方的な正義の主張も敗者の一方的な謝罪も、ともに無意義であろう。

朝日新聞 1991

(36)神性の一つがアパテイア（不動心）であるなら、神々しいまでの無感覚だ。

朝日新聞 2007

(33)(34)の「無意義」「無感覚」は連体修飾成分であり、(35)(36)の「無意義」「無感覚」は述語の成分である。いずれも文における成分に関わらず、語は独立性を保持している。

(37)把时间浪费在无意义的争论上。

（時間を無意義の論争に費やす。）

人民日报 2007

(38)换个角度看，闹剧并非全无意义。

（角度を変えてみれば、道化芝居はまったく無意義ではない。）

人民日报 2008

(37)は、中国語の「無意義」が連体修飾成分として使用され、(38)の「無意義」は一語ではなく、「道化芝居は意義がある」という文法的否定として働いている。

次に、「無」の結合語が文中における成分を、主語、述語、目的語、連体修飾成分及び連用修飾成分に分け、中国語での直訳可否を検討する。

・主語

(39)無回答は、男性 0.6%、女性 0.7%であった。

木原正博/木原雅子 2001『教育アンケート調査年鑑』

（無回答は、男性 0.6%、女性 0.7%。）

(40)無許可・無免許が発覚した場合には、罰せられるケースもあります。

菊原栄三 2001『自分でらくらく会社をつくる本』
无许可、无证如被发现，也会被罚。

「無」の結合語が主語である場合、中国語訳は主語のままで直訳可能であるが、中国語の「無回答」と「無許可」は直接的な主語の成分ではなく、「無回答の人」や「無許可のこと」などのように、連体修飾成分であり、後続の修飾する体言が省略されている。

・ 述語

(41)女性で特に気を付けたいのは、食事中に髪をかき上げたり髪に手を触れること。無意識だとはいえ、人に不快感を与えてしまいますし、不潔っぽく下品な印象を持たれてしまいがちです。

小林久美子 2002『小林久美子の三つ星テーブルマナー』
(作为女性尤其需要注意的是，吃饭的时候把头发拢上去或用手摸头发什么的。虽说是无意识(的行为)，也会给别人带来不舒服的感觉，容易给予他人不干净，粗俗的印象。)

(42)すべてが不確かな状況では、安易な判断を下すことの方が無責任といえる。

雑賀礼史 2004『リアルバウトハイスクール』
(在一切都不确定的情况下，轻易做判断才可谓是无责任(的行为)。)

(43)病気をしてすぐ辞めるとするのは、むしろ無責任だ。

細川隆元 1978『隆元のはだか交友録』
(生了病就马上辞掉，反而是无责任(的行为)。)

(44)日本人は美にはすぐれた感覚を持っているのに、醜さに対して全然無感覚だが、イギリス人はそれとは全く正反対だといわれている。

伊東光晴 1997『現代経済の変貌』
(日本人对美很敏感，但对丑完全无感觉，而英国人可以说是正好相反。)

(41)(42)の日本語の「無」の結合語が述語である場合、その中国語訳は直接述語

として翻訳できず、連体修飾成分として働く。ただし、(44)のように、「無感覚」の前に「完全」などの副詞の修飾があれば直訳可能であるが、この場合、「無」の否定は主語と述語の結びつきを否定する文否定である。

・目的語

(45)たとえば、十年以上前、ある日本の大手化学会社の副社長は筆者に、「取締役会での賛否すら明確に記録されていない」として、取締役の無責任を慨嘆した。

塩原俊彦 2003 『ビジネス・エシックス』

(例如十年以前, 某日本的化学大公司的副总经理告诉笔者“甚至没有明确记录在董事会上赞成还是反对”, 痛惜董事无责任。)

(46)近くに人がいるという証拠の音が鳴り響いているのに、彼女は無表情を保っている。

丸山健二 1994 『丸山健二全短編集』

(虽然声音回响证实了附近有人, 但她仍保持面无表情。)

(45)の「無責任」と(46)の「無表情」は日本語では目的語であり、その中国語訳は目的語として直訳できず、述語となる。

・連体修飾成分

(47)前の2のタイプほどではないが、やはり無思慮、無計画な行動を起こしがちで、慎重さに欠けるでしょう。

五味康祐 1978 『五味手相教室』

(虽然不至于前两个类型那样, 但还是容易引起无思虑、无计划的行动, 不够谨慎。)

(48)香港では、外資を特別に規制又は優遇する法律はなく、無差別、無干渉、無制限の政策をとっている。

通商産業省 大蔵省印刷局 1979 「通商白書」

(香港对外资没有特别的规制或优待, 实行无差别、无干涉、无限制的政策。)

(49)この時期から、広域社会の経験者で、しかも鉄の兵器をもち、かつ力の信奉者である和人たちが、採集という一種無競争の社会をつくっていた先住民族の秩序体系をみだしてゆくのである。

司馬遼太郎 2005『北海道の諸道』

(从这个时期起，作为经历过广域社会的人，且拥有铁兵器力的信奉者之和人们，开始打乱原住民创造出的采集这种无竞争社会的秩序系统。)

日本語の「無」の結合語が連体修飾成分である場合、中国語訳も連体修飾成分として直訳可能である。

次は、日本語の「無」の結合語が文中において連用修飾成分である場合の中国語訳をみる。

・連用修飾成分

(50)逆に小型にすることで、以前のように何でも冷蔵庫に入れて、賞味期限を切らしてしまったり、無計画に買い物をすることもなくなりました。

山崎えり子 1998『節約生活のススメ』

(相反用小型的话，就不会像以前那样什么都放进冰箱里，导致过期，无计划地买东西。)

(51)無許可で占使用することのないようお願いします。

岐阜県飛騨市 2008「広報ひだ」

(请不要无许可占用。)

(52)三十ポイントで次回の買い物の時に五千円分の割引が受けられます。無期限で使用できるのがうれしいところ。

岩田昭男/西本裕隆 2000『決定版！カードってお得』

(积三十分下次购物时可减免五千日元。(让人)高兴的是可以无期限地使用。)

(53)自文化の中では不可能な「エネルギーの解放」を、異文化の中でなら無責任に味わえるのが観光である。

橋本和也 1999『観光人類学の戦略』

(在本国文化中不可能的“能量释放”，而在异文化中可以无责任地品味，这就是观光。)

日本語の「無」の結合語が、連用修飾成分である場合、連体修飾成分のときと同様に、中国語へ直訳可能である。

4.3.2 下接語の品詞の差

(54)家計の状況をひと目で判断することができれば、主婦だけでなくふだん家計などには無関心な夫や子どもたちも興味を示すに違いありません。

松原美佐 1990『女の知的空間術』

(55)そうしてわかったことにもとづいて今から振り返ってみれば、母は無理解だったどころではなく、わたしのことをよく理解していた。

岸田秀 1991『フロイドを読む』

日本語の「無関心」「無理解」は、中国語で直訳可能ではあるが、中国語ではよく「不関心」「不理解」のほうが多く見られる。「関心」と「理解」は、中国語においては動名詞であり、「無」は名詞を否定し、「不」は動詞と形容詞を否定する。

以上、日本語の「無」の結合語を文中における成分別に中国語で直訳可能か否かについて検討した。日本語の「無」が「ない」という意味であることは、中国語と重なる。日本語の「無」の3字結合語は文中において、主語、述語、目的語、連体修飾成分、連用修飾成分いずれも見られるが、日中同形の「無」の3字結合語は、中国語において、主語、述語、目的語にならないため、翻訳する際には連体修飾成分、または、「無」が主語と述語の結びつきを表す文否定として成り立つ。

4.4 日中「無」の機能

以上、日本語・中国語のいずれにおいても、「無」はほとんどの場合名詞に前接し、下接語が動名詞の場合も名詞の品詞を取っている。

日本語の「無」の3字結合語は、一語化され、文中で主語、述語、目的語、連体修飾成分、連用修飾成分など多様な文法成分を担うことができる。一方で、中国語の「無」は接頭辞としては連体修飾成分または連用修飾成分になりうるが、主語や目的語にはなりにくい。また、述語になる場合は、「無」は語彙的否定では

なく、文法的否定を担う。よって、日本語から中国語へ翻訳するとき、連体修飾成分と連用修飾成分における「無」の結合語は、中国語へ直訳可能であるが、主語、目的語、述語成分における中国語訳は、連体修飾成分として翻訳するかあるいは「無」が主語と述語の結びつきを表す文否定として翻訳する必要がある。

中国語の「無」は接頭辞的、文法的に造語力が高いが、日本語は限られた語に付けられ、「無」が接頭辞であるという意識よりも、「無+2 字漢語」を一つの単語として見る意識のほうが強い。日本語は下接語の品詞規則があるものの、その品詞規則に沿ったすべての語を否定することはできず、常用されている語は限られている。

中国語の「不」は動詞を否定する場合、意思性を表し、形容詞を否定する場合は状態性を表す。一方で、中国語の「無」は名詞を下接語とし、「～がない」といった状態性を表す。下接語が動名詞である場合、意思性を表すときは「不」を、状態性を表す場合は「無」を、比較的柔軟に使用している。例えば「競争」は中国語において動詞性と名詞性を兼ねている動名詞である。「競争しない」という意思を表す場合「不」が、「競争がない」という状態を表す場合、「無」が選択される。中国語の「無」は語彙的否定と文法的否定両方を担う。品詞規則に沿う下接語であれば、どの語でも否定することができる。

5. 日中「非」の類似点と相違点

5.1 中国語の「非」の意味

中国語の「非」は、中国語の「不」「無」と同様に、文法的否定と語彙的否定両方を担い、「～でない」という意味を表す。文法的否定として「非」は、書き言葉に用い、且つ文言文でよく使用される。現代語としては“不是”が使われている。

5.2 日中「非」の同形結合語

日本語の「非」の3字結合語は14語あり、その下接語はNが8語、VNが5語、ANが1語ある。以下、下接語を品詞別に語例を示す。

(56)日本語の「非」の3字結合語（再掲）

・非N（8語）

非衛生 非金属 非現業 非公式 非合理 非国民
非条理 非人情

・非 VN (5 語)

非存在 非課税 非公開 非上場 非具象

・非 AN (1 語)

非合法

日本語の「非」の 3 字結合語のうち、日中同形下接語は 11 語である。

(57)日中「非」の同形下接語 (11 語)

衛生 金属 合理 国民 条理 人情 存在 課税 公開 具象 合法

5.3 日本語の「非」の中国語訳

(58)…不健康な場所において労働や日常生活を送らざるを得ず、こうした非衛生がチフスやコレラなどの悪疫を周期的に大流行させていたのである。

野々垣友枝 2001 『1789 年フランス革命論』

(59)さらに、リッツァは西欧の合理主義の先にマクドナルド化を見していますが、それがあつ種の非合理であることも批判しています。

大塚善樹 2001 『遺伝子組換え作物』

(60)非課税を確認する書類は、更新窓口では提示のみです。

東京都江東区 2008 「こうとう区報」

(61)ここは東京都二十三区内の変死体を調べて、死因を明らかにするための施設である。もともとは戦後の食糧難や非衛生な環境の中で、行き倒れや変質者が増えたことから作られた。

阿部寿美代 1997 『ゆりかごの死』

(62)長野市の条例は、非公開にする個人情報を「他人に知られたいくない情報」と狭く定義しているのです。

青山彰久 1999 「よくわかる情報公開制度」

(58)から(62)のように、日本語の「非」の 3 字結合語は、順に主語、述語、目

的語、連体修飾成分、連用修飾成分の文法成分になる例がある。これらの3字結合語はいずれも中国に直訳できない。その原因として一つは、中国語の「非」は一般的に名詞複合語を否定する。

(63) 据了解,我国部分农村地区目前仍在使用非卫生厕所,这成了肠道传染病、寄生虫病流行的重要因素。

搜狐新闻 2009年06月18日

(話によれば、我が国の一部の農村地区は現在まだ非衛生トイレを使用していて、これは腸管感染症、寄生虫病流行の重要な原因である。)

(64) …江河湖泊塘等非卫生水的农户减少 13.5%…

中国网 2008年12月12日

(…川、湖、池などの非衛生水の農家が 13.5%減少される…)

(65) …我们要摒弃那些非节约型和非合理型的消费方式, …

搜狐新闻 2009年12月15日

(…私たちはあれらの非節約型と非合理型の消費方式を排除しなければならぬ…)

(66) …社会财富的积累存在一些非合理配置的问题, …

新浪 2009年11月05日

(社会財産の累積は少しの非合理配置の問題が存在して、…)

(63)～(66)の中国語の「非衛生」「非合理」は独立性が低く、「非+衛生廁所」「非+衛生水」「非+節約型」「非+合理型」「非+合理配置」のように、中国語の「非」は複合名詞を否定する機能を持っている。

直訳不可能の原因として、もう一つは、「不」や「無」と同じく、両言語の下接語の品詞性に差異が見られる。中国語において「衛生」「合理」は形容詞に属し、「課税」「公開」は動詞として働いている。よって「不」が前接するのが自然である。

5.4 日中「非」の機能

日本語の「非」の3字結合語の下接語は、N、VN、ANの語が見られる。ANは1語のみであるが、「非」は「～的」を否定する語例が数多くある。中国語の「非」の3字結合語は独立性が低く、主に名詞複合語を否定する。日本語の「非」の3字結合語は中国語で直訳できず、中国語では「非+複合語」の形で翻訳することができる。

6. 日中「未」の類似点と相違点

6.1 中国語の「未」の意味

『中国語大辞典』では、「未」を以下のように解釈している。

未

否定の副詞

1) = “不” 後に一般的に単音節動詞が来て、多く書面語に用いる。

“不知可否”（よいかどうかわからない。）

2) まだ…していない。

= “没有” “不会”

・健康尚未恢复。(体調がまだ回復しない。)

・此人未来。(この人はまだ来ていない。)

・我生在山乡,从未见过大海。(私は山里生まれ、これまで大海をみたことがない。)

・天未大亮他就下地干活去了。(夜がまだすっかり明けきらないうちに彼は畑に仕事に行った。)

中国語の「未」は否定の副詞として2)の「まだ…していない」の意味が日本語と共通している。但し、日本語の「未」は語彙的否定を表し、中国語の「未」は語彙的否定のみならず、文法的否定も表す。

6.2 日中「未」の同形結合語

日本語の「未」の3字結合語は15語ある。

(67)日本語の「未」の3字結合語(15語)(再掲)

未解決 未開拓 未開発 未確認 未完成 未経験
未決定 未処理 未成熟 未成年 未整理 未組織
未発達 未発表 未分化

「未」の3字結合語の15語はすべてが日中同形下接語である。下接語が同形同義語である場合、結合語は文中における成分によって直訳可能の場合と不可能の場合とがある。

6.3 日本語の「未」の中国語訳

日本語の「未」の結合語は状態性を表すため、主語と目的語になる語例は少ない。主に、連体修飾成分と述語成分として使われている。

・主語

(68)未完成は、作者の死により作曲が中止されたのではない。

古処誠二 2001『未完成』

(未完成(的作曲), 并没有因作者身亡而中止。)

(68)の「未完成」は主語の成分であり、中国語訳は主語には成り立たず、「未完成の作曲」など「作曲」のような語を付け加え、「未完成」を連体修飾成分として翻訳することが可能である。

(69)ブレア率いる労働党の未経験ぶりを心配した人たちは、未経験が逆に新鮮さと大胆さをもたらしたことを大きく評価していた。

マークス寿子 2002『不安な国日本』述語

(担心布莱尔所率领的劳动党没有经验的人们, 对没有经验(无经验)反而带来了创新与勇敢给予了很好的评价。)

(69)の日本語の「未経験」は、下接語の品詞の差により、中国語へ直訳不可能である。日本語の「経験」はサ変動詞になりうる動名詞であり、「未」は「経験する」という動詞性の否定を表す。一方で中国語の「経験」は名詞であるので、「未」が前接できず、中国語の「無」や「没有」によって否定することができ

る。

・ 述語

(70)しかも肝腎の問題は未解決で、鐘があったために二人が死んだのか、鐘がなかったために二人が死んだのか、その疑問は依然として取残されていた。

岡本綺堂 1989『白髮鬼』

(而且重要的问题尚未解决，到底是因有钟而至两个人死了，还是因没有钟两个人才死的，依然留下了疑问。)

(71)この時期のイギリスは、ほかのヨーロッパの国と比べ、オペラにおいては未開拓であった。

鎌田滋子 2005『音楽を福祉に』

(这个时期的英国与其他欧洲国家相比，歌剧（市场）尚未开拓。)

(72)私の手元には、《文芸報》のバックナンバーはもう少し後からしかないので中身は未確認である。

丸山昇 2001『文化大革命に到る道』

(我手头的“文艺报”的 back number 是过后才有的，所以内容尚未确认。)

(70)～(72)の「未解決」「未開拓」「未確認」は文中において述語成分となる。これらの語は中国語においてそのまま述語成分として直訳できず、「未」の前に「尚（まだ）」「還（まだ）」など副詞の修飾が必要となり、中国語において文法的否定にする必要がある。

・ 目的語

(73)これら文書資料は整理・未整理を含めて優に推定十万点を越え、資料整理の終了したのから順次一般公開している。

書誌研究懇話会編 1992「全国図書館案内」

(这些书籍资料包括整理・未整理的（书籍资料），估计足有十万本，按照整理完毕的先后顺序逐一公开。)

(73)のように、日本語の「未」の結合語が文中において、目的語となる場合、中国語で直訳できず、他の成分を追加し、「未」の結合語を連体修飾成分として翻訳する必要がある。

・連体修飾成分

(74)癌発生のメカニズムの解明は、研究者のみならず一般の人たちにとっても、重要性の高い未解決の問題である。

鷹野正興 2004『生化学』

(阐明癌症发生的机制，不仅对研究者，而且对一般人来说也是重要度高的未解决的问题。)

(75)未確認の微生物の形態や生化学的特徴、DNAの塩基配列などを調べて、属や種など分類学上の位置を明らかにすること。

西村実 2002『バイオの英語』

(通过调查未确认的微生物的形态和生化学特征，DNA碱基序列等，来明确其属性及种类等分类学上的性质。)

(74)(75)のように、結合語が文中において、連体修飾成分である場合、対応する中国語は直訳可能である。

・連用修飾成分

(76)サンフランシスコ平和条約の締結後も、未解決に残っていたソ連との国交回復の問題は、第3次鳩山内閣によって、最優先課題としてとりあげられた。

渡邊昭夫(ほか)2006『現代の日本史』

(旧金山和平条约缔结后，未解决而遗留下来的苏联国交恢复问题，被第三次鸠山内閣列为最优先课题。)

日本語の「未」の3字結合語が連用修飾成分である場合、連体修飾成分と同じく、中国語で直訳可能である。

6.4 日中「未」の機能

日中両言語の「未」は「まだ～していない」という意味を表し、主に VN を下接語としている。日本語の「未」の結合語は文中において主語、述語、目的語、連体修飾成分、連用修飾成分が見られ、日中「未」の同形結合語は、連体修飾成分と連用修飾成分である場合、中国語で直訳可能であるが、主語、述語、目的語として位置する場合、中国語では独立性を持たず、連体修飾成分として翻訳するか主語と述語の結びつきを否定する文法的否定にする必要がある。

7. おわりに

否定の造語要素の日中同形結合語が中国語において直訳できないのは日中「不・無・非・未」の下接語の品詞性及び文中における成分と関わりがある。

日本語の「不」は数多くの名詞の前に付けられるが、中国語の「不」は基本的に動詞と形容詞の前に付き、名詞には付きにくい。中国語で「不」を前接して否定する語が日本語では「不」のほか「無」「非」「未」などを用いて翻訳される例が見られる。ここから日本語における「不」の機能が完全には中国語の「不」と一致せず、中国語の「不」の一部の機能が日本語の「無」「非」「未」などによって分担されているのが明らかである。

また、日本語の「不穏当」「不活発」「不得意」「不熱心」などの「不 A」の下接語は、価値的肯定性を持っている。一方で、中国語の“不 A”の形容詞下接語は価値的肯定性を表す語とは限らない。

中国語の「不」は動詞を否定する場合、意思性を表し、形容詞を否定する場合は状態性を表す。一方で、中国語の「無」は名詞を下接語とし、「～がない」といった状態性を表す。下接語が動名詞である場合、意思性を表すときは「不」を、状態性を表す場合を「無」を、比較的柔軟に使用している。例えば「抵抗」は中国語において動詞性と名詞性を兼ねている動名詞である。「抵抗のない」状態を表したい場合は「無抵抗」が、「抵抗しない」といった意思を表したい場合は、「不抵抗」が使用される。

3字結合語の文中における成分からみたとき、日本語の「無」の3字結合語は、一語化され、文中で主語、述語、目的語、連体修飾成分、連用修飾成分など多様な文法成分を担うことができる。一方で、中国語の「無」は連体修飾成分または連用修飾成分になりうるが、主語や目的語にはなりにくい。また、述語になる場合は、「無」は語彙的否定ではなく、文法的否定を担う。よって、日本語から中国語へ翻訳するとき、連体修飾成分と連用修飾成分における「無」の結合語は、中

国語へ直訳可能であるが、主語、目的語及び述語成分における中国語訳は、ほかの成分の追加が必要となる。

日本語の「非」の3字結合語の下接語は、N、VN、ANの語が見られ、ANは1語のみであるが、「非」は「～的」を否定する語例が数多くある。中国語の「非」の3字結合語は独立性が低く、主に名詞複合語を否定する。日本語の「非」の3字結合語は中国語で直訳できず、中国語では「非+複合語」の形で翻訳する。

日中両言語の「未」は「まだ～していない」という意味を表し、主にVNを下接語としている。日本語の「未」は主語、述語、目的語、連体修飾成分、連用修飾成分が見られ、日中「未」の同形結合語は、連体修飾成分と連用修飾成分である場合、中国語で直訳可能であるが、主語、述語、目的語として位置する場合、中国語では独立性を持たず、連体修飾成分として翻訳するか主語と述語を否定する文法的否定にする必要がある。

日本語において「不・無・非・未」を使用することによって、和語の「ない」を使用するのに比べて、文章が簡潔になり洗練される効果がある。中国語の場合、「不」は文語と口語の区別がないが、「無・非・未」は文語的で、改まった感じを与える。中国語の「無」は口語で“没有”、“非”は“不是”、“未”は“还没有”が使用されるが、日本語と同じく「無・非・未」を使用することによって文章または語を簡潔化し洗練させる効果がある。“没有”“不是”“还没有”はもっぱら文法的否定に用いるが、中国語の「無・非・未」は文法的否定と語彙的否定両方の機能を持つ。

第九章 日韓「不・無・非・未」の類似点と相違点

1. はじめに

接頭語とは語構成要素の一種であり、接辞のうち、語基の前に付くものをいい、例えば「お話、素顔、真水、再利用、アンチ巨人、小高い……」の傍線部のような形式を指し、接尾辞と異なり、基本的には語の品詞を決定する力を有していない⁶⁵。

しかし、「不・無・非・未」は、次の(1)と(2)に示すように結合語の品詞を変化させられることから、前述の接頭語とは異なる性質を持つと言える。

(1)不道德な行為 * 道德な行為

(2)無意味な事 * 意味な事

(1)の「道德」は名詞であるが、たとえば「道德な行為」のような形は成立せず、「行為」の連体修飾成分にならないのに対し、「不」が前接した「不道德」は「不道德な行為」のような形で形容動詞の語幹を構成することができる。同様に(2)では、名詞としての「意味」は「意味な事」のような形は成り立たず、「事」の連体修飾成分になれないのに対して、「意味」に「無」が前接すると「無意味な事」のように「事」の連体修飾成分になることができ、「無意味」は形容動詞の語幹を作ることができる。すなわち、否定の造語要素との結合の前後に品詞転換が見られる。

日本語の接辞には和語と漢語があるように韓国語の接辞においても固有語⁶⁶と漢字語がある。固有語の接頭辞は一般的に意味を添加する機能のみ有するのに対し、漢字語には語基の品詞性を変化させる接頭辞が多く見られる。語基の品詞性を変える機能は固有語には見られない漢字語の接頭辞の特性である⁶⁷。

上述のように日本語と韓国語の「不・無・非・未」は、下接語の品詞を転換させる点で類似した機能を持っている。膠着語である日本語と韓国語における下接語と結合語の品詞転換機能は、結合語の文中における活用形が変わることである。

⁶⁵ 『日本語学研究事典』の「接頭語」の項目を参照。

⁶⁶ 塚本(2008)では、日韓両言語の語種について両言語ともにその言語内で生まれた語（一般的に日本語では和語、朝鮮語では固有語とそれぞれ呼ばれ、名称が異なるだけ）か、他の言語から取り入れられた借用語かにまず大きく区分され、その借用語はさらに、大多数を占める漢語と、残りを占める西洋語（いわゆる外来語）に区分すると記述されている。

⁶⁷ No myeonghui (2005: 87-88)を参照。

日韓両言語の「不・無・非・未」は数多くの同形語を形成しており、下接語と結合語の品詞転換機能を明らかにすることによって、両言語母語話者の誤用を防ぐことができる。そこで、本章では、両言語の否定接頭辞全体の類似点と相違点を概観した上で、日韓両言語における「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性に焦点を当て、その類似点と相違点を明らかにする。

2. 日本語と韓国語の「不・無・非・未」の特性

2.1 日本語の「不・無・非・未」の特徴

第一章の 1.1 の先行研究から分かるように、日本語の否定の造語要素は意味を添加するだけでなく、品詞転換機能も持つ。また、意味的な結合関係が修飾関係の接頭辞及び和語の語順と異なり、下接語は漢語のみならず和語もある。次に韓国語の先行研究を踏まえ、韓国語の否定の造語要素の特徴について概観し、両言語の類似点と相違点をまとめる。

2.2 韓国語の「不・無・非・未」の特徴

No myeonghui(2005:178)は、字音接頭辞を語基に対する機能によって修飾性字音接頭辞と叙述性字音接頭辞に分け、「불 bul (不)・무 mu (無)・비 bi (非)・미 mi (未)」⁶⁸は、語基に叙述的機能を果たす叙述性字音接頭辞として否定の意味を表しており、その特性は、語基に叙述性を付与し、かつ品詞性を変えることにあり、品詞性を変える場合、とりわけ「하다 hada」との結合に影響を与えると記述している。また、No myeonghui(2005:151)の「否定を表す字音接頭辞」についての記述から、韓国語の「불 bul (不)・무 mu (無)・비 bi (非)・미 mi (未)」の特徴を以下の①～③にまとめられる。

- ① 固有語の語順と異なり、漢文の語順に従い、韓国語においては単語として定着している。
- ② 語基の品詞性を変えることが可能である。
- ③ 特定の否定接頭辞に付く語基も見られるが、複数の否定接頭辞と結合できる語基も見られる。

⁶⁸ ハングルの直後のローマ字は発音を示し、括弧内は対応する日本語の漢字を示す。

上記の①について、韓国語の語順は日本語と同様に「主語＋目的語＋述語」である。日韓両言語とも語彙的否定を表す「不・無・非・未」は否定対象語の前に付くことから、漢文の語順に従っていることを表す。②の品詞性を変えることが可能である点も日本語と共通している。③の特徴も日本語と類似している。たとえば、日本語では「無意味」とは言えるが、「*不意味」「*未意味」「*非意味」とは言えない。即ち、「意味」は「不・無・非・未」のうち、「無」のみ前接することができる。一方で、「不許可」と「無許可」という語が見られるように、単一の造語要素と結合する下接語と複数の造語要素と結合可能な下接語とが見られる。

韓国語の「不・無・非・未」は、形態上はすべて名詞の前についているが、その名詞の性質には異なりが見られる。「不・無・非・未」が付く名詞について下位分類を行った先行研究には、Jo hyeonsug (1989) がある。

Jo hyeonsug (1989) は、「不・無・非・未」の後に付く語基を名詞、状態性名詞、動作性名詞に分類し、「不」「無」「未」は名詞、状態性名詞及び動作性名詞と結合し、「未」と結合する動作性名詞は特に瞬間性を表す語が多いのに対して、「非」は主に名詞性語基と結合し、「非＋名詞＋的」の形式が多用され、「的」以外にも多くの名詞との二次結合現象が特徴であると論述し、以下の例を挙げて説明している。

- 名詞 : 규칙 (規則) → 불규칙 (不規則)
- 국적 (国籍) → 무국적 (無国籍)
- 경제 (経済) → 비경제적 (非経済的)
- 성년 (成年) → 미성년 (未成年)
- 状態性名詞 : 만족 (満足) → 불만족 (不満足)
- 성숙 (成熟) → 미성숙 (未成熟)
- 動作性名詞 : 간섭 (干涉) → 불간섭 (不干涉)
- 성공 (成功) → 불성공 (不成功)
- 감각 (感覺) → 무감각 (無感覺)
- 설치 (設置) → 미설치 (未設置)

Jo hyeonsug (1989) に示した「不・無・非・未」の下接語の下位分類は日本語の「不・無・非・未」の下接語の品詞分類と共通性が見られる。韓国語の「状態性名詞」と「動作性名詞」はそれぞれ日本語の形容動詞性名詞と動名詞に共通する。鈴木 (1972) は『日本語文法・形態論』の中で、「いわゆる形容詞と形容動詞

とは語彙的な意味の性格がおなじであるだけでなく、品詞を性格つける文論的・述語論的なはたらき、形態的なカテゴリーが共通であって、異なるのは、主に文法的な形の作り方だけである。したがって品詞としては区別すべきではない。」と論述し、形容動詞と形容詞は文法的な形の作り方だけの区別であり、品詞としては区別がないのである。よって、韓国語の形容詞と日本語の形容動詞を合わせてAと表記し、分析を行う。

2.3 日韓「不・無・非・未」の類似点と相違点

2.1、2.2 では先行研究を踏まえ、日韓両言語の否定の造語要素の特性を概観した。両言語の類似点と相違点は以下のようにまとめられる。

・類似点

- ① 漢文の語順に従い、単語として定着している。
- ② 語基の品詞性を変えることができる。
- ③ 一定の意義を添え、叙述性をもつ。
- ④ 特定の否定の造語要素に付く下接語も見られるが、複数の否定の造語要素と結合できる下接語も見られる。
- ⑤ 下接語の語種について日韓両言語の「不・無・非・未」は主に漢語の前に前接する。

・相違点

日本語の「不」と「無」は「ぶ」とも読まれる語があり、「ぶ」と読まれるときはマイナスの意味を付与する。韓国語においては発音による意味の差異は見られない。

このように日韓両言語における「不・無・非・未」の特徴は極めて類似しており、その相違点を明らかにする必要がある。本章では日韓両言語の類似点の一つである品詞転換機能に着目し、両言語の下接語と結合語の品詞性について考察を行う。

3. 韓国語の品詞性及び日本語との対応関係

李（2002:44-45）は韓国語の品詞性について次のように述べている⁶⁹。

漢字語は、実体概念を表す語は自立して名詞になり、属性概念を表す語で動作性を持つものは、日本語の場合「する」を、韓国語の場合「하다 hada」をつけてそれぞれ「する動詞」と「하다 hada 動詞」になる。また、状態性を持つものは、日本語においては「な・に」などをつけて「ナ形容詞」、韓国語においては動詞と同形の「하다 hada」をつけて「하다 hada 形容詞」になる。

李（2002）の韓国語の品詞性に対する記述により⁷⁰形態上韓国語と日本語の各品詞との主な対応関係を以下の表 12 に示す。日本語では形容動詞、韓国語では形容詞と言われているが、対照の関係上、合わせて A と表記し、形容詞性名詞は AN と表記する。また、副詞性は AD と表記する。

本章では、表 12 に示した日韓両言語の形態上の対応関係を基に、日本語と韓国語の「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性を観察する。

⁶⁹ 引用部分のローマ字及び括弧内の日本語訳（直訳）は筆者による。

⁷⁰ 李（2002：76-80）は以下のような認定基準を設定し、韓国語の漢字語を 4 つの品詞性に分類している。

1) 名詞性

- ① 格助詞「이 i/가 ga・을 eul/를 reul・의 ui・에서 eseo …(が・を・の・から)」などが自由に付くことができるか。
 - ② 叙述格助詞「이다 ida (だ)」が自由に付くことができるか。
 - ③ 接尾辞「한 han」(な)の結合がなくても後の名詞を修飾する、つまり、連体修飾の(冠形詞的な)機能を果たすことができるか。
- 名詞及びそれに準ずる漢字語に付く接尾辞「的 jeok」が接することができるか。

2) 動詞性

- ① 現在時制の叙述形「-한다 handa」が自由に付くことができるか。
- ② 現在時制の冠形詞形「-하는 haneun」を自由に取ることができるか。
- ③ 「-하고 있다 hago itda」形や「-해 있다 hae itda」を形が接することができるか。
- ④ 語彙的意味が「動作・作用」の意を呈しているか。

3) 形容詞性

- ① 現在時制の叙述形「-하다 hada」が自由に付くことができるか。
- ② 現在時制の冠形詞「-한 han」を自由に取ることができるか。
- ③ 語彙的意味が「性質・状態」の意を呈しているか。

4) 副詞性

- ① 「-이 i・-히 hi・-로 ro」がなくても単独で統語上、連用修飾の(副詞的な)働きをしているか。
- ② 名詞が副詞的に用いられる場合はないか。

表 12 日本語と韓国語の形態上の対応関係

品詞性	日本語	韓国語
N	N が N は N を ...	N 이 i/가 ga N 은 eun/는 neun N 을 eul/를 reul ...
VN	V する V する N V した N V される ...	V 하다 hada V 하는 haneun N V 한 han N V 되다 doeda ...
AN	A だ A な N A に V ...	A 하다 hada A 한 han N A 하게 hage V ...

4. 日韓「不」の下接語と結合語の品詞性

拙稿（朴 2015）は、NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』により抽出した「不」に後続する2字漢語を名詞(N)、動名詞(VN)、形容動詞性名詞(AN)に分類し、分析を行った。その分類結果に従い「不」の下接語と結合語の品詞性について考察を行う。語の品詞性については『デジタル大辞泉』『日本国語大辞典（第二版）』及び現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NTの用例を参照し、形容動詞性の判定は「結合語+な+N」の形態として使用されるか否かによって判定する。日本語の用例は現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NT、韓国語の用例は国立国語院の現代文語コーパスによるものである。

4.1 日本語の「不」の下接語と結合語の品詞性

4.1.1 名詞下接語

「不」の名詞下接語は全部で24語⁷¹あり、結合語はすべて形容動詞性名詞にな

⁷¹ 語例は【資料1】にて示す。

りうる。「不規則」を例として説明する。

(3)a 規則がある／規則を守る／文法規則⁷²

b 不規則な生活がつづく。

高野正博 2002『大腸の病気』

c 角質上皮は鱗状でなく多角形で密着、不規則に配列。

奥谷喬司 2002『イカ』

(3)の「不規則」の下接語「規則」は、「規則がある」「規則を守る」「文法規則」のように名詞のみの用法を持っているが、「不規則」は「不規則な生活」「不規則に配列」のように連体修飾および連用修飾ができ、形容動詞性を持つ。「*規則な生活」「*規則に配列」は言えないように、「規則」は、「不」が前接することによって、形容動詞性名詞になる品詞転換が見られる。

以上、「不」の下接語が名詞である場合、その結合語は形容動詞性名詞に転換する。

次に、「不」の下接語が動名詞である場合、「不」と結合前後の品詞性について観察する。

4.1.2 動名詞下接語

「不」の下接語が動名詞である場合、結合語は形容動詞性名詞になる語とならない語とが見られる。「不徹底」「不統一」の下接語と結合語を例にして説明する。

(4)a たとえば、「IT化の効果」の内容では、IT利用の徹底が進むことによって、現状以上に効果を出せる次のような項目があります。

向浩一 2002『社長から始めるIT経営』

b 介護老人施設を訪問すると、徹底して掃除が行き届いている所は、運営体制が「義務感」で管理されていない。

川崎和男 2004『デザインの極道論』

c その内容には、「良好な人間関係」に配慮するあまり不徹底な面が目立つ。

中窪裕也（ほか）2003『労働法の世界』

⁷² 出典の明記のないものは筆者による作例である。また、用例の下線は筆者によるものである。以下同様。

(4)の「徹底」は、「徹底が」のような名詞用法と「徹底する」のような動詞用法が見られ、サ変動詞に成りうる動名詞である。「不」の前接した「不徹底」は「*不徹底する」の用例が見られない代わりに、「不徹底な N」の用法が見られる。即ち、動名詞の「徹底」は「不」と結合することで動詞性がなくなり、形容動詞性名詞として使用されるようになる。以下に動名詞下接語が「不」との結合により形容動詞性名詞に転換する語例を示す。

(5)形容動詞性のある結合語 (31 語)

不調和 不飽和 不徹底 不用意 不撰生 不特定
不統一 不承知 不信用 不遠慮 不消化 不養生
不成功 不確定 不連続 不整頓 不均衡 不信心
不協和 不整合 不注意 不勉強 不用心 不細工
不首尾 不案内 不同意 不適応 不一致 不利益
不始末

また、動名詞下接語の場合、「不」と結合した後、名詞になる語例も見られる。

(6)a 国を単位とした共通の国民意識の成立がその前提となっていた。

勝俣鎮夫岩 1994『波講座日本通史』

b そのゲームは、そもそもゲームとして成立しないままだった。

篠原資明 2002『ゲームの世界』

c 例えば、審理が長引き、終局判断ではじめて仲裁契約の不成立を理由に却下されると、訴えの提起を時効期間内にすることができなくなるおそれがある場合などである。

安藤一郎 2001『建築紛争処理手続の実務』

(7)夏美は不合格の知らせを知ると、露骨に不機嫌そうな顔をした。

小池真理子 1993『殺意の爪』

(6)の「成立」は「成立が」「成立しない」のように、サ変動詞になりうる動名詞であり、「*成立な N」の形態としては使用されていない。「不成立」は「*不成立する」「*不成立な N」とは言えず、もっぱら名詞として使用されている。また、(7)の「合格」は、動名詞であり、「不合格」は「*不合格する」「*不合格な N」

の形態は見られず、「不合格の N」のように名詞として使用されている。

上述のように、動名詞下接語の場合、「不」の結合語の一部は動詞性を失い、形容動詞性への転換は見られず、もっぱら名詞性を有する。次の(8)に語例を示す。

(8)形容動詞性のない結合語 (17 語)

不生産 不介入 不成立 不起訴 不賛成 不拡大
不遡及 不干涉 不処分 不作為 不合格 不履行
不納付 不信任 不侵略 不順守 不許可

(4)~(8)の分析により「不」の下接語が VN である場合、下接語と結合語の品詞性は以下の二つのパターンにまとめることができる。

- ① 下接語 VN (N・V する) → 結合語 AN (N・A な)
- ② 下接語 VN (N・V する) → 結合語 N

4.1.3 形容動詞性名詞の下接語

「不」の下接語が形容動詞性名詞の場合、結合語も形容動詞性を持っており、品詞転換は見られない。

(9)a…異議の理由として非両立性を挙げることは簡便かつ穏当な方策といえる。

中村道 2003 『21 世紀国際社会における人権と平和』

b 不穏当な言い方であることは充分承知しています。

山崎敏子 1998 『告発-人工透析死』

(10)a 近年、家庭からの不用品の交換や売買を行うフリーマーケットが各地にでき、参加者も増加するなど、活発な取り組みが行われている。

実著者不明 1994 『環境白書』

b このように、保健学習の不活発な要因が指摘されているが、最も重要な要因として保健の学習内容が考えられる。

小原健治(ほか)2001 『新しい教育課程の創造』

(9)(10)のように下接語の「穏当」と「活発」はそれぞれ「穏当な」「活発な」のように形容動詞性を持ち、その結合語の「不穏当」「不活発」も「不穏当な N」「不

活発な N」という形態として使用されていることから、形容動詞性を持っており、結合前後の品詞転換が見られない。下接語が形容動詞性名詞の語は 36 語ある。

(11)「不」の下接語が AN の語 (36 語)

不穩当 不活発 不得意 不熱心 不自由 不鮮明
 不可能 不完全 不必要 不健康 不適任 不適格
 不格好 不器用 不透明 不健全 不親切 不誠実
 不確實 不機嫌 不明瞭 不公正 不正確 不公平
 不適當 不明朗 不平等 不適切 不名誉 不充分
 不十分 不自然 不正直 不愉快 不明確 不風流

また、形容動詞性に動詞性も兼ねる下接語 (AN/VN) が 9 語見られるが、それらの結合語はすべて動詞性を失い、形容動詞性名詞になる。

(12)下接語が AN/VN の語(9 語)

不安心 不評判 不安定 不満足 不謹慎 不都合
 不始末 不相応 不調法

以上、日本語における「不」の下接語と結合語の品詞性をまとめると表 13 のようになる。

表 13 日本語の「不」の下接語と結合語の品詞性

下接語	語数 (%)	結合語	語数 (%)
N	24(100%)	AN (N・A な)	24(100%)
VN (N・V する)	48(100%)	N	17(35.4%)
		AN (N・A な)	31(64.6%)
AN (N・A な)	36(100%)	AN (N・A な)	36(100%)
AN/VN (N・V する・A な)	9(100%)	AN (N・A な)	9(100%)

日本語の「不」の下接語が名詞である場合、その結合語は形容動詞性名詞になる。下接語が動名詞である場合は、動詞性を失い名詞になる結合語と、動詞性を失い形容動詞性名詞になる結合語とが見られ、形容動詞性名詞になる結合語が多

い。下接語が形容動詞性名詞である場合は結合前後に品詞転換が見られない。また、下接語が形容動詞性名詞に動詞性も兼ねている語は、「不」と結合後に動詞性を失い、形容動詞性名詞になる。

品詞転換機能は、形態上からみた変化であるが、このような形態上の変化を生じる原因は、「不」の結合語の意味と関わりがある。結合語の意味が状態性を持つ場合は形容動詞の語幹になりやすいのである。

(13)不 N

- 不規則 規則的でないこと⁷³
- 不経済 経済的でないこと
- 不成績 成績がよくないこと

「不規則」の「不」の下接語「規則」は状態性を持っていないが、意味からみた場合、「不」の否定する述語は「規則」ではなく、「規則的だ」という形容動詞である。「不経済」と「不成績」の「不」は、それぞれ「経済的だ」「よい」を否定している。「規則的だ」「経済的だ」「よい」は形容動詞や形容詞であるため、状態性を持ち、「不」は状態性を否定するので、結合語は形容動詞の語幹になりやすい。

(14)不 VN

- a 下接語の動詞性を否定する場合
 - 不調和 調和していないこと
 - 不介入 介入しないこと
- b 下接語の名詞性を否定する場合
 - 不首尾 首尾の悪いこと
 - 不細工 細工がまずいこと

下接語が動名詞である場合、「不」は下接語の動詞性を否定する語 a と下接語の名詞性を否定する語 b とがある。さらに、下接語の動詞性を否定する場合、結合語は「不調和」のような状態性の強い語と「不介入」のような動作性の強い語が見られ、前者は形容動詞になりやすく、後者は形容動詞になりにくい。「不」が動

⁷³ 語の意味は『日本国語大辞典(第二版)』を参照した。

名詞下接語と結合した場合、結合語の状態性が強いかわ弱いかは、第五章で分析した結合語の持つ程度性とも関連しており、検討する余地があるが、今後の課題とする。

次に韓国語の「불 bul(不)」の下接語と結合語の品詞性について考察を行い、日本語との類似点と相違点を導き出す。まず、4.2に韓国語の辞書により「불 bul(不)」の意味及び「不」の3字結合語の語例を確認し、4.3では韓国語の「不」の品詞転換機能について考察を行う。

4.2 韓国語の「不 bul」の意味と語例

本節では韓国語の『국립국어원 표준국어대사전』 Gungnipgugeowon Pyojungugeodaesajeon (国立国語院 標準国語大辞典)⁷⁴により「不」と2字漢語の結合語を抽出し、同辞書の品詞分類と用例、および韓国の国立国語院に開示されている말뭉치 malmungchi (コーパス)⁷⁵を用いて使用実態を確認する。

『標準国語大辞典』によれば、韓国語の「不」は次のような意味を持っている。

부 bu(不)⁷⁶ 接辞

(‘ㄷ’, ‘스’から始まる名詞の前に付いて)「～でないこと」「～しないこと」「合わない」の意味を添加する接頭辞。

부도덕 (不道德) 부정확 (不正確) 부자유 (不自由) …

불 bul(不) 接辞

(一部の名詞の前に付いて)「～でないこと」「～しないこと」「合わない」の意味を添加する接頭辞。

불가능 (不可能) 불경기 (不景気) 불공정 (不公正) …

辞書により、韓国語の「不」は、名詞の前に付いて、「부 bu」と「불 bul」二つの発音が見られるが、後続の字の子音と関わりがあり、意味の相違は見られない

⁷⁴ 『국립국어원 표준국어대사전』(国立国語院 標準国語大辞典)は、標準語を中心に北朝鮮語、方言、古語など50万単語が収録されている。本論文では標準語のみを考察範囲とし、以下、『標準国語大辞典』という。

⁷⁵ 「国立国語院に開示されているコーパスは「21세기 세종계획 말뭉치(21世紀世宗計画コーパス)」における国語基礎資料である。現代文語と現代口語に分けられており、新聞、雑誌、書籍、その他出版物、放送電子ファイルなど60,558,573語句が収録されている。本論文では現代文語を用いて用例の検索を行う。以下、現代文語コーパスという。

⁷⁶ ハングルの発音を示すローマ字及び日本語訳は筆者によるものである。

と分かる。『標準国語大辞典』で選出した「不」の結合語は全部で 133 語あり、『日本国語大辞典』の「不」の 3 字結合語の語例と対照すると、日韓同形語は 91 語 (68.4%)、韓国語のみの語は 42 語 (31.6%) 見られ、韓国語において半数以上が日韓同形語である。

(15)日韓同形語(91 語)⁷⁷

不可能	不徳義	不道德	不規則	不自然	不自由
不適合	不適當	不適任	不適切	不適合	不正当
不正直	不公正	不公平	不均一	不均衡	不整合
不正確	不条理	不調和	不注意	不健全	不見識
不満足	不明瞭	不分明	不相当	不鮮明	不誠実
不安全	不安定	不穩当	不完全	不愉快	不利益
不人情	不徹底	不聰明	不充分	不親切	不透明
不便利	不平均	不平等	不必要	不合理	不確實
不確定	不活発	不名誉	不景気	不経済	不規律
不起訴	不本意	不消化	不随意	不品行	不連続
不人望	不適応	不得意	不得策	不介入	不謹慎
不服従	不相応	不摂生	不成功	不成立	不遑及
不受理	不信仰	不信用	不信任	不安心	不融通
不履行	不認可	不一致	不賛成	不参加	不採用
不統一	不飽和	不特定	不評判	不許可	不拡大
不節制					

(16)韓国語のみの語(42 語)

不可当	不正義	不均等	不健実	不堅実	不明確
不相当	不相得	不信実	不充実	不合当	不確固
不變更	不数日	不遷怒	不自量	不待遇	不待接
不得志	不堪当	不結実	不拘束	不売買	不卜日
不分割	不比例	不相見	不相容	不上程	不相合
不相和	不順従	不承認	不熔着	不肉食	不参席
不出馬	不出席	不親和	不通過	不退陣	不合意

⁷⁷ 韓国語の漢字表記は日本語と字体と異なるが、本章では便宜上日本語の漢字で表記する。

(15)のように「不」の結合語では数多くの日韓同形語が存在するため、日韓両言語の「不」の下接語と結合語の品詞転換機能の相違点を明らかにすることで、両言語母語話者の誤用を防ぐことができると思われる。

次の 4.3 では韓国語「不」の下接語と結合語の品詞性を考察し、日本語と対照する。

4.3 韓国語の「不」の下接語と結合語の品詞性

韓国語の「不」の下接語は日本語と同様に、名詞、動名詞、形容詞性名詞に分けられ、動名詞に加え形容詞性を兼ねる語や、形容詞性名詞に加え副詞性を兼ねる語が見られる。次に、それぞれの品詞性を持つ下接語が「불 bul (不)」と結合した後の品詞性について観察する。

4.3.1 名詞下接語

(17)a * 경기하다 (* 景氣 hada)

b * 불경기하다(*不景氣 hada)

c 광고수입에 지나치게 의존했다가 경기가 나빠져 광고물량이 부족하게 되면 신문 경영이 난관에 봉착하게 된다.

이효성 1996 『한국언론의 좌표』

(広告収入に頼りすぎると景氣が悪くなって広告物量が不足すれば新聞経営が難関にぶつかることになる。)

d 미국의 불경기가 한국의 무역적자에 영향을 주고 있으나...

조선일보 1991

(アメリカの不景氣が韓国の貿易赤字に影響を与えているが...)

(18)a * 정기하다 (* 定期 hada)

b * 부정기하다(*不定期 hada)

c 정기 간행물(定期 刊行物)

조선일보 1993

d 부정기 화물선 (不定期 貨物船)

(17)のように韓国語の「不景氣」の下接語「景氣」は「hada」が付けられない名詞であり、「不」が前接した「不景氣」も「hada」は付けられず、名詞用法のみし

か見られない。(18)の「不定期」の下接語「定期」も「hada」が付けられない名詞であり、「不定期」も「hada」が下接できず、名詞として使用されている。このように「불 bul (不)」の下接語と結合語ともに名詞である語例を(19)に示す。

(19)下接語 N→結合語 N (5語)

불경기(不景氣) 불수위(不随意) 부정기(不定期) 불수일(不数日)
불본의(不本意)

また、次のように名詞下接語が形容詞性名詞になる語例が見られる。

(20)a 이익을 얻다. (利益を得る)

b* 이익하다 (*利益 hada)

c...선수들의 불이익을 최소화하기 위해...

스포츠서울 1998

(...選手たちの不利益を最低限にするために...)

d...이사의 지위를 이용하여 회사에 불이익한 거래를 할 염려가 있다.

이기수 1999 『기업법』

(...理事の地位を利用して会社に不利益な取引をする懸念がある。)

(20)のように韓国語の「이익 (利益)」は、「이익을 (利益を)」のような名詞のみの品詞を持ち、「hada」は付けられないが、「不」が前接することによって、「불이익을 (不利益を)」のような名詞用法を持つほか、「hada」を付けることができるようになり、「불이익한 거래 (不利益な取引)」のように連体修飾の用法が可能となる。即ち、下接語に名詞のみの品詞を有する語が、「不」が前接することにより、名詞のほか形容詞としても使用されるようになる。名詞下接語が形容詞性名詞に転換する語数は次の 13 語である。

(21)下接語 N→結合語 AN (13語)

부도덕(不道德) 불규칙(不規則) 부적임(不適任) 불균형(不均衡)
부조리(不条理) 불이익(不利益) 부정의(不正義) 불건식(不見識)
불상동(不相同) 불인정(不人情) 불인망(不人望) 부덕의(不徳義)
불품행(不品行)

この他、1例のみであるが、名詞下接語が「불 bul (不)」と結合することにより、形容動詞性、名詞性、及び動詞性を合わせ持つ語になる。現代文語コーパスにおいては名詞としての使用例が1例のみで、実際の活用形は年代の古い新聞用例⁷⁸に遡って確認した。

(22)下接語 N→結合語 AN/VN

a 신용이 있다 (信用がある)

신용을 잃다 (信用を失う)

*신용하다 (信用 hada)

b 中共에 對한 不信用을 再考하게 할수있는것은...

경향신문 1953

(中国共産党に対する不信用을再考するようにできたのは...)

c...이런 불신용한 회사의 비료나 약품구입에속지안토록 주의하는것이 조켓다한다.

동아일보 1932

(...このような不信用な会社の肥料や薬品購入に騙されないように注意したほうがよいという)

d 兒童에게 教科書を 不信用하는 心理를 일으키어...

동아일보 1931

(兒童に教科書を*不信用する心理を引き起こして...)

(22)aのように「불신용 (不信用)」の下接語「신용 (信用)」は「신용이 (信用が)」「신용을 (信用を)」のように使用できるが、「hada」は付けられない名詞である。(22)cの「불신용한 회사 (不信用な会社)」は、形容詞の「불신용하다 (不信用 hada)」の連体修飾形であり、dの「不信用하는 心理 (不信用する心理)」は動詞の「불신용하다 (不信用 hada)」の連体修飾形である。結合語の「불신용 (不信用)」は名詞のみならず、形容詞性と動詞性も合わせ持っている。

韓国語の「不」の下接語が名詞である場合について、下接語と結合語の品詞性を以下にまとめる。

⁷⁸ (22)の出典のある用例は NAVER 뉴스 라이브러리 (NAVER ニュースライブラリー) により選出したものである。

- ① 下接語 N→結合語 N
- ② 下接語 N→結合語 AN (N・A 하다 hada)
- ③ 下接語 N→結合語 AN/VN (N・A 하다 hada・V 하다 hada)

韓国語の「不」の下接語が名詞である場合、結合語は名詞の語と形容詞性名詞に転換する語があり、後者のほうがやや多い。次に下接語が動名詞の場合における下接語と結合語の品詞性について考察を行う。

4.3.2 動名詞下接語

韓国語の「不」の下接語が動名詞である場合、次の(23)～(26)のように結合語の品詞性は下接語と同様に動名詞である。

(23)…○○씨를 불구속하는 것으로 수사를 사실상 마무리 할 방침입니다.

MBC 뉴스데스크 98

(…○○氏を*不拘束することで捜査を事実上締めくくる方針である。)

(24)우리가 하느님께 순종하든지 불순종하든지 하느님은 언제나 우리 있는 곳에, 죄 많은 곳에 찾아오시고, 우리와 함께 계시며 우리를 깨우쳐 주시고 바로잡아 주십니다.

이계준 1992 『어울리는 삶 - 이계준 목사 설교집』

(私たちが神様に順従しようが(*不順従しようが) 神様はいつも私たちのいる所に、罪深い所に尋ねて来られ、私たちと一緒にいて私たちが覚ましてくださり、正してくださいます。)

(25)…국회에 불출석하는 사태가 빚어지고 있다…

동아일보 2003

(…国会に*不出席する事態が起こっている…)

(26)또 입시철이 되면 합격하는 학생보다는 불합격하는 학생의 수가 엄청나게 많다.

정영우 1993 『교양인의 화법』

(また入試シーズンになると合格する学生に比べて*不合格する学生の数がおびただしく多い。)

(23)의「구속(拘束)」は「hada」が下接して動詞になる動名詞である。「不」と結合した「불구속(不拘束)」も同様に「불구속하다(不拘束 hada)」という動詞性を持ち、「不」と結合前後に品詞轉換機能は見られない。(23)~(26)の下線部はいずれも日本語で直訳すると不自然である。日本語の「不」の下接語が動名詞である場合、動詞性を失うが、韓国語の場合は動詞性を保有したままの語例が多く見られる。次の(27)に韓国語の動名詞下接語が動名詞結合語となる語例を示す。

(27)下接語 VN→結合語 VN (56 語)

불간섭 (不干涉)	불감당 (不堪当)	불개입 (不介入)
불구속 (不拘束)	불복일 (不卜日)	불복종 (不服從)
불상용 (不相容)	불상정 (不上程)	불섭생 (不摂生)
불성립 (不成立)	불소급 (不遡及)	불수리 (不受理)
불순종 (不順從)	불승인 (不承認)	불신앙 (不信仰)
불신임 (不信任)	불이행 (不履行)	불인가 (不認可)
불일치 (不一致)	불찬성 (不贊成)	불참가 (不參加)
불출마 (不出馬)	불출석 (不出席)	불통과 (不通過)
불통일 (不統一)	불퇴진 (不退轉)	불퇴진 (不退陣)
불포화 (不飽和)	불합격 (不合格)	불허가 (不許可)
불확대 (不拡大)	부적응 (不適應)	부자량 (不自量)
불결실 (不結實)	불근신 (不謹慎)	불매매 (不売買)
불분할 (不分割)	불비례 (不比例)	불상견 (不相見)
불상응 (不相應)	불상합 (不相合)	불상화 (不相和)
불성공 (不成功)	불안심 (不安心)	불용착 (不熔着)
불육식 (不肉食)	불융통 (不融通)	불참석 (不參席)
불채용 (不採用)	불친화 (不親和)	불합의 (不合意)
부득지 (不得志)	부득책 (不得策)	부대우 (不待遇)
부대접 (不待接)	부득의 (不得意)	

また、韓国語の動名詞下接語が「不」と結合した後に形容詞性名詞になる語例も見られる。

(28)증독성 간 장애는 부주의한 상황에서는 전혀 본인이 눈치채지 못하는 사이에 일어날 가능성이 크다는 것을 명심해야 한다.

이상중 1993 『중년기 건강클리닉』

(中毒性肝障害は不注意な状況では本人が全く気づかないうちに起きる可能性が大きいというのを心に深く刻まなければならない。)

(28)の「부주의(不注意)」の下接語「주의(注意)」は「hada」が付けられる動名詞であり、結合語の「부주의(不注意)」は「hada」形容詞に転換され、形容詞性名詞になる。

このように動名詞下接語が形容詞性名詞の結合語に転換する語例を(29)に示す。

(29)下接語 VN→結合語 AN (8語)

부조화(不調和)	부주의(不注意)	불안정(不安定)
불평균(不平均)	불확정(不確定)	불경제(不經濟)
부정합(不整合)	불규율(不規律)	

韓国語の「不」の下接語が動名詞である場合、「不」と結合前後の品詞性は下記のようにまとめることができる。

① 下接語 VN (N・V 하다) →結合語 VN (N・V 하다)

② 下接語 VN (N・V 하다) →結合語 AN (N・A 하다)

日本語の「不」の下接語が動名詞である場合、結合語は動詞性を失い、名詞または形容動詞性名詞になるが、韓国語の動名詞下接語は「不」との結合後、多くの場合は動名詞のまま、一部の結合語のみ形容詞性名詞に転換する。

4.3.3 形容詞性名詞の下接語

下接語が形容詞性を持つ語は結合語も形容詞性を持っている。ただし、形容詞性に加えて副詞性も兼ねる語の結合語は、副詞性を失う。

(30)a 전화가 가능한 사람에게는 전화로...

이슬기 1989 『돈의 여행』

(電話が可能な人には電話で...)

b...근본적인 개혁은 불가능한 형편이었다.

강만길 외 1994 『한국사』

(…根本的な改革は不可能な状況であった。)

(30)의 「가능 (可能)」과 「불가능 (不可能)」はいずれも「가능한 (可能 han)」 「불가능한 (不可能 han)」という形態で形容詞の連体修飾形で使用され、品詞転換は見られない。下接語と結合語ともに形容詞性名詞の語を(31)に示す。

(31)下接語 AN→結合語 AN (13 語)

불가능(不可能)	부자유(不自由)	부적격(不適格)
부적합(不適合)	불균등(不均等)	불투명(不透明)
불평등(不平等)	불필요(不必要)	불명예(不名誉)
불충명(不聰明)	불편리(不便利)	불가당(不可当)
불상득(不相得)		

これらの他、形容詞性名詞に動詞性を兼ねる下接語が 1 語あり、その結合語は形容詞性名詞になる。

(32)下接語 AN/VN→結合語 AN(1 語)

불합리(不合理)

また、次の(33)のように形容詞性名詞に副詞性を兼ねる下接語は、「不」と結合後、(33)a のような「-히-hi」の付いた副詞の形態としては使用できず、形容詞性名詞になる。

(33)a...바깥에 나가 적당히 산책하면서...

이승우 1994 『엄마 이렇게 낳아 주세요』

(…外に出て適当に散歩しながら…)

b 그것은 적당하게 사용되면 매우 훌륭한 문체상의 표현기법이다.

고려대학교 출판부 2000 『한국어 은유연구』

(それは適当に使用されたらとても素晴らしい文体上の表現技法である。)

c 표현 자체가 부적당하게 사용되고 있음도 지적하고 있다.

마이크로소프트웨어 1990

(表現自体が不適當に使用されていることも指摘している。)

次の(34)と(35)に副詞性を兼ねる下接語の語例を示す。

(34)下接語 AN/VN+AD→結合語 AN (2語)

불만족(不満足) 불상당(不相当)

(35)下接語 AN+AD→結合語 AN (30語)

부적당(不適當)	부적절(不適切)	부정직(不正直)
불충분(不充分)	불분명(不分明)	불명료(不明瞭)
불명확(不明確)	불확실(不確實)	불활발(不活發)
불친절(不親切)	부자연(不自然)	불공정(不公正)
불공평(不公平)	불균일(不均一)	불성실(不誠實)
불신실(不信實)	부정확(不正確)	불완전(不完全)
불유쾌(不愉快)	불충실(不充實)	불건실(不健實)
불건전(不健全)	불안전(不安全)	불철저(不徹底)
부정당(不正當)	불견실(不堅實)	불온당(不穩當)
불합당(不合當)	불확고(不確固)	불선명(不鮮明)

4.4 日韓「不」の下接語と結合語の品詞性

以上、日本語と韓国語の「不」の下接語と結合語の品詞性を以下の表 14 にまとめる。

表 14 から分かるように、日本語と韓国語の「不」の下接語が N である場合、日本語の結合語はすべて AN になるのに対し、韓国語は主に N または AN になる。下接語が AN である場合、「不」との結合語は両言語とも品詞転換が見られない。しかしながら、下接語が VN である場合、日本語の結合語は N または AN になるのに対し、韓国語の場合は多くの語が動詞性を保有したままであり、品詞転換は見られない。また、韓国語において、下接語は AN に加えて副詞性を持つ語も見られ、この類の語は「不」と結合後に副詞性を持たなくなり、形容詞性名詞になる。

表 14 日韓「不」の下接語と結合語の品詞性

下接語(%)	結合語(日)	語数(%)	結合語(韓)	語数(%)
N(100%)	—	—	N	5(26.3%)
	AN	24(100%)	AN	13(68.4%)
	—	—	AN/VN	1(5.3%)
VN(100%)	N	17(35.4%)	N	—
	AN	31(64.6%)	AN	8(12.5%)
	—	—	VN	56(87.5%)
AN(100%)	AN	37(100%)	AN	13(100%)
AN/VN(100%)	AN	4(100%)	AN	1(100%)
AN/VN+AD(100%)	—	—	AN	2(100%)
AN+AD(100%)	—	—	AN	30(100%)

4.5 日韓両言語の品詞転換機能の相違点がある原因

日韓両言語の「不」の下接語が動名詞の場合、その差異は顕著である。

(36)a 介入⇔不介入 介入する⇔*不介入する

成立⇔不成立 成立する⇔*不成立する

適応⇔不適応 適応する⇔*不適応する

b 개입 (介入) ⇔불개입 (不介入)

개입하다 (介入 hada) ⇔불개입하다 (不介入 hada)

성립 (成立) ⇔불성립 (不成立)

성립하다 (成立 hada) ⇔불성립하다 (不成立 hada)

적응 (適応) ⇔부적응 (不適応)

적응하다 (適応 hada) ⇔부적응하다 (不適応 hada)

下接語が動名詞の場合、日本語の結合語は動詞性を失い、名詞または形容動詞性名詞になるのに対し、韓国語は、動名詞下接語の語数全体の 87.5%が動詞性を失わず、「不」との結合前後に品詞転換が見られない。その一因として両言語の形態上の制約が考えられる。日本語の「する」の否定は「しない」であり、「ないする」とは言えない。即ち、否定要素を「する」の前に置くことができない。これに対して韓国語では否定要素を述語の前に置くことが可能である。

(37)안 하다 an hada (ない する)

못 하다 mos hada (できない する)

안 먹다 an meogda (ない 食べる)

못 먹다 mos meogda (できない 食べる)

(37)のように韓国語の固有語において、否定要素を述語の前に置く形態があるので、否定の造語要素が「hada」の前に置く形態が韓国語では受け入れやすいと考えられる。

韓国語の「不」は名詞性、動詞性両方を否定することができ、それが形態上に表れる。日本語の「不」も動詞性を否定するが、結合語の形態上は名詞として表れる。韓国語の「不」の下接語がVNの場合、結合語は下接語の動詞性を転換せずに、そのまま活用することができる。一方で日本語の「不」の下接語がVNの場合、結合語は動詞性を失い、名詞または状態性の語に転換する。

4.6 日韓「不」の品詞転換機能の相違点

日韓両言語の否定の造語要素は単語否定、品詞転換機能、意義の添加機能において極めて類似している。本節では、日韓「不」の下接語と結合語の品詞性について対照研究を行った。日本語の「不」の結合語は、形容動詞性名詞に転換する機能が見られ、形容動詞性名詞になるか否かは、否定する語の意味及び否定する語の動作性と状態性の強弱と関わりがあると考えられる。また、日本語の動名詞下接語の場合、その結合語は動詞性を失う。韓国語においては、形容詞性名詞の下接語とその結合語の品詞性は日本語と類似しているが、動名詞の場合は、多くの語が動詞性の形態を保有している点で日本語と異なる。それは、日本語においては否定要素を述語の前に置くことができないのに対し、韓国語の固有語では否定要素を述語の前に置く形態があるためである。また、否定の意味からみれば、下接語が動名詞であるとき、日本語の「不」の結合語は状態性を持ち、韓国語の「不」の結合語は、動詞性も表すことができる。

5. 日韓「無」の下接語と結合語の品詞性

5.1 日韓「無」の意味

『標準国語大辞典』によれば、韓国語の「無 mu」は次のような意味を持っている。

무 mu(無)

(一部の名詞の前に付いて)「～がない」の意味を添加する接頭辞

무감각 (無感覺) 무자비 (無慈悲) …

韓国語の「無」は日本語と同じく「～がない」という状態を表し、名詞の前に前接する。以下、日本語の「無」の下接語と結合語の品詞性をまとめた上、韓国語と対照する。

5.2 日本語の「無」の下接語と結合語の品詞性

第三章の3で述べたように、「無」の下接語は、名詞、動名詞、形容動詞性名詞に分けられる。「無」の名詞下接語は37語あり、結合語が形容動詞性名詞に転換する語は17語、結合語が形容動詞に転換しない語は20語である。「無」の動名詞下接語は37語あり、そのうち、形容動詞性名詞の結合語に転換する語は21語であり、動名詞下接語が名詞結合語に転換する語は16語である。「無」の名詞下接語37語、動詞下接語37語に対し、形容動詞性名詞の下接語は「無風流」「無器用」2語のみであり、その下接語と結合語はいずれも形容動詞性を持っている。「無風流」「無器用」の「無」はいずれも「ぶ」と読まれ、「不」とも表記される。次に、用例を挙げながら日本語の「無」の下接語と結合語の品詞性を見る。

5.2.1 名詞下接語

(38)愛について無関心な人間は、もう人間でなくなったことで、人間は生きていくかぎり、愛とは無縁になれない存在のようである。

瀬戸内寂聴 2005 『寂聴人は愛なしでは生きられない』

(39)やはりこの両極端な性格が災いしての破局だったのだろうか、ちょっと無責任な想像をしてしまう。

西澤保彦 2001 『夏の夜会』

(38)(39)の「無関心」と「無責任」の下接語「関心」「責任」は名詞であるが、「無」と結合した後に「無関心な人間」「無責任な想像」のように形容動詞性名詞に転換する。一方で、(40)(41)のように、「無」と結合前後に品詞が名詞のままの語もある。

(40)千九百九十年頃には、材料・薬品製造は将来の課題で、むしろ、地上では重力などの陰に隠れてその影響が把握しにくい物理現象の影響を宇宙の無重量状態で調べて、それを地上での材料製造などに応用するのが当面の課題とされた。

富田信之 2002『宇宙ステーション入門』

(41)だからといって、人間の場合看護師が行なうような採血等の作業を、無資格の看護者や診療補助者が行なって良いとはいえません。

田邊昇 2005『愛犬の友』

「無」の下接語が名詞である場合、「無重量」「無資格」のように、「無」と結合した後も名詞として使用される語がある。

5.2.2 動名詞下接語

日本語の「無」の動名詞下接語の 37 語のうち、動名詞下接語が形容動詞性名詞の結合語に転換する語は 21 語であり、動名詞下接語が名詞結合語に転換する語は 16 語である。「無」の結合語が形容動詞性名詞に転換する語がやや多い。

(42)「計画的な人生なんてつまらない」という方もいらっしゃるかもしれませんが、無計画な人生ほどコワイものはありません。

欠野アズ紗 1998『自分の年金計画をいま見直さない』

(43)同時に、労働者にたいする無制限な搾取など、独占資本の横暴な反社会的な蓄積行動にたいする規制、いわば資本主義にたいする規制の国際ルールがつけられてきたことです。

小森良夫 2003『「ルールなき資本主義」との闘争』

(44)集めた本は、一冊三十円から四十円で無許可の露店に卸す。

中村智志 2002『路上の夢』

(42)(43)の「無計画」と「無制限」の下接語は「計画する」「制限する」のように、サ変動詞になりうる動名詞であるが、「*無計画する」「*無制限する」とは言えないように、「無」の結合語は動詞性を失い、「無計画な」「無制限な」という形容動詞性を持つ。これに対し、(44)の「無許可」の下接語「許可」は、動名詞であるが、「無許可」は動詞性を失い、名詞として使用される。

5.2.3 形容動詞性名詞の下接語

日本語の「無」の下接語が形容動詞性名詞の場合、「無」と結合前後に品詞転換がない。

(45)われわれは無風流中に風流をおこなおうとするが、無風流中の無風流なヤカ
えには、時として、頭から茶を亡国呼ばわりをするのがある。

松永安左エ門 2002『喝！日本人』

(46)あれは誇りばかり高くて無器用な男だ。

堀内純子 1992『ふたりの愛子』

「無風流」と「無器用」の下接語はいずれも「風流な」「器用な」の形態で使用できる形容動詞性名詞である。「無」と結合した後にも「無風流な」「無器用な」の形態で使用可能であることから、「無」と結合前後に品詞転換がないことが分かる。

5.3 韓国語の「無 mu」の下接語と結合語の品詞性

『標準国語大辞典』において抽出した韓国語の「無」の3字結合語は192語ある。その下接語はN、VN、AN、及びAN/VNに分けられ、それぞれ117語、73語、1語、1語である。日本語と同じように、韓国語の「無」の下接語も主に名詞と動名詞に前接する。以下、下接語の品詞別に結合語の品詞性を観察する。

5.3.1 名詞下接語

「無」の名詞下接語の 117 語のうち、その結合語は、名詞が 53 語、形容詞性名詞が 64 語である。

(47) 下接語 N→結合語 N(53 語)

무가사 (無歌詞)	무개성 (無個性)	무결함 (無缺陷)
무계급 (無階級)	무공덕 (無功德)	무공용 (無功用)
무공해 (無公害)	무과실 (無過失)	무대가 (無代価)
무대책 (無対策)	무도수 (無度数)	무동기 (無動機)
무국적 (無国籍)	무규범 (無規範)	무기강 (無紀綱)
무변리 (無辺利)	무보수 (無報酬)	무보험 (無保險)
무분규 (無紛糾)	무사고 (無事故)	무색소 (無色素)
무소권 (無訴權)	무소신 (無所信)	무승부 (無勝負)
무용건 (無用件)	무이상 (無理想)	무이식 (無利息)
무이자 (無利子)	무자산 (無資産)	무작위 (無作為)
무정기 (無定期)	무정부 (無政府)	무정조 (無正条)
무종교 (無宗教)	무주소 (無住所)	무주택 (無住宅)
무중력 (無重力)	무증거 (無證據)	무증상 (無症状)
무진사 (無診査)	무추척 (無脊椎)	무천자 (無天子)
무하기 (無下記)		
무담체 (無担体) 〈化学〉 ⁷⁹	무질소 (無窒素) 〈化学〉	
무맥박 (無脈搏) 〈医学〉	무의욕 (無意欲) 〈医学〉	
무일변 (無日辺) 〈經濟〉	무일보 (無日歩) 〈經濟〉	
무변태 (無變態) 〈動物〉	무부하 (無負荷) 〈物理〉	
무사증 (無査証) 〈法律〉	무장하 (無裝荷) 〈電氣〉	

(48) 즉 임치물에 멸실 또는 훼손이 있을 때에는 원칙적으로 창고업자에게 책임이 발생하는 것으로 추정되고 이 책임을 면하기 위해서는 자기의 무과실을 입증하여야 한다.

이기수 1999 『기업법』

(すなわち寄託物に滅失または毀損がある時には原則的に倉庫業者に責任が

⁷⁹ 『標準国語大辞典』において専門用語と明記された語は〈〉の中に該当の専門分野を示す。

発生することと推定され、この責任を免れるためには自分の無過失を立証しなければならぬ。))

(49) 김 군은 지금까지 동남아시아에서 일하는 대부분의 현지 가이드들과 마찬가지로 완전 무보수로 일해 왔으며 말문을 트기 시작했다.

손일락 1995 『도락 보헤미안』

(金君は今まで東南アジアで働いている大部分の現地ガイドたちと同じく完全に無報酬で働いてきたと話の口火を切り始めた。)

韓国語の「過失」「報酬」は名詞であり、その結合語の「無過失」「無報酬」も名詞として使用される。

(50) 下接語 N→結合語 AN(64 語)

무가치 (無価値)	무감정 (無感情)	무경계 (無経界)
무경위 (無涇渭)	무권리 (無權利)	무궤도 (無軌道)
무규각 (無圭角)	무규칙 (無規則)	무기능 (無技能)
무기력 (無氣力)	무내용 (無内容)	무능력 (無能力)
무도덕 (無道德)	무도리 (無道理)	무명색 (無名色)
무법칙 (無法則)	무변제 (無辺際)	무부모 (無父母)
무사기 (無邪氣)	무사상 (無思想)	무성격 (無性格)
무성의 (無誠意)	무세력 (無勢力)	무소득 (無所得)
무소식 (無消息)	무소양 (無素養)	무신경 (無神經)
무신념 (無信念)	무연고 (無緣故)	무염치 (無廉恥)
무원칙 (無原則)	무의의 (無意義)	무의지 (無意志)
무인격 (無人格)	무일전 (無一錢)	무자격 (無資格)
무자력 (無資力)	무자미 (無滋味)	무자본 (無資本)
무자식 (無子息)	무재능 (無才能)	무절조 (無節操)
무정견 (無定見)	무정수 (無定數)	무정액 (無定額)
무정소 (無定處)	무정형 (無定形)	무정형 (無定型)
무조건 (無條件)	무존장 (無尊丈)	무주견 (無主見)
무주의 (無主義)	무지식 (無知識)	무직업 (無職業)
무질서 (無秩序)	무책임 (無責任)	무취미 (無趣味)
무폭력 (無暴力)	무한량 (無限量)	무항산 (無恒産)

무항심 (無恒心) 무현관 (無顯官) 무형식 (無形式)
무형적 (無形跡)

(51)근로자들이 땀흘려 한푼 두푼 모은 돈들이 무가치한 ‘종이조각’으로 전락한다.

금융연합회 1997 『금융 97년 4월호』
(勤勞者たちが汗を流して一錢二錢と集めたお金が無価値な「紙くず」に転落する。)

(52) 《흥부전》을 보면 아무리 선의로 해석해도 흥부가 게으르고 무능력한 사람이라는 것은 부정할 수가 없다.

이어령 2003 『진리는 나그네』
(『興夫伝』を見ればいくら善意で解釈してもホンブが怠け者で無能力な人ということとは否定することができない。)

(51)(52)のように韓国語の「価値」と「能力」は「hada」が付けられない名詞であるが、「無」と結合した後の「無価値」と「無能力」は「hada」を下接することができ、結合語の後に「-한 han」を付け、連体修飾成分となる。

5.3.2 動名詞下接語

韓国語の「無」の下接語が動名詞の語は 73 語ある。その結合語は、動名詞が 4 語、名詞が 42 語、形容詞性名詞が 27 語である。以下、下接語の品詞別に語例と用例を示す。

(53)下接語 VN→結合語 VN(4 語)

무담보 (無担保) 무비판 (無批判) 무저항 (無抵抗) 무착륙 (無着陸)

『標準国語大辞典』によれば、(53)の 4 語は動名詞であるが、現代文語コーパスでは動詞としての用例がないことから、韓国語の「無」の結合語は動詞性を表しにくいことが窺える。

(54)下接語 VN→結合語 N(42 語)

무가당 (無加糖) 무갈등 (無葛藤) 무감사 (無鑑査)

무결근 (無缺勤)	무결석 (無缺席)	무경고 (無警告)
무경쟁 (無競争)	무관세 (無関税)	무기록 (無記録)
무기명 (無記名)	무대상 (無代償)	무대응 (無対応)
무득점 (無得点)	무면허 (無免許)	무목적 (無目的)
무반동 (無反動)	무반응 (無反応)	무반주 (無伴奏)
무방어 (無防御)	무서명 (無署名)	무소속 (無所属)
무소유 (無所有)	무수입 (無収入)	무수정 (無修正)
무수확 (無収穫)	무시험 (無試験)	무실점 (無失点)
무예고 (無予告)	무응답 (無応答)	무작정 (無酌定)
무저당 (無抵当)	무준비 (無準備)	무착색 (無着色)
무통제 (無統制)	무투표 (無投票)	무허가 (無許可)
무회계 (無会計)		
무발생 (無発生) 〈生物〉	무매개 (無媒介) 〈哲学〉	
무월경 (無月経) 〈医学〉	무호흡 (無呼吸) 〈医学〉	
무배당 (無配当) 〈経済〉		

(55) 무면허로 운전을 하다가 필기 시험만 3년에 걸쳐 마흔 번 넘게 보고
간신히 합격했다는 말을 들었을 때 하준은 부끄러웠다.

정도상 1992 『날지 않으면 길을 잃는다』

(無免許で運転をしていて、筆記試験だけで3年にわたって40回あまり受
験して辛うじて合格したという話を聞いた時ハズンは恥ずかしかった。)

(56) 아마도 그 사내의 완벽한 무반응이 오히려 그녀를 불안하게 만들었던
모양이었다.

최수철 2001 『고래 뱃속에서』

(たぶんその男の完璧な無反応がむしろ彼女を心細くしたようだった。)

韓国語の「免許」と「反応」は「hada」を付け、動詞になりうる動名詞である
が、「無免許」「無反応」は「hada」が付けられず、名詞として使用される。

また、韓国語の「無」の下接語が VN で、結合語が AN になる語は 27 語あ
る。以下に語例を示す。

(57)下接語 VN→結合語 AN(27 語)

무각성 (無覺醒)	무감각 (無感覺)	무감동 (無感動)
무경험 (無經驗)	무계획 (無計画)	무관계 (無關係)
무관심 (無關心)	무교양 (無教養)	무교육 (無教育)
무규율 (無規律)	무근거 (無根拠)	무기한 (無期限)
무반성 (無反省)	무방비 (無防備)	무분별 (無分別)
무소용 (無所用)	무의미 (無意味)	무의식 (無意識)
무지각 (無自覺)	무절제 (無節制)	무정위 (無定位)
무제한 (無制限)	무주장 (無主張)	무지각 (無知覺)
무차별 (無差別)	무표정 (無表情)	무혐의 (無嫌疑)

(58)공산주의의 확산에 대한 미국인의 공포를 담았던 전작과 달리 획일화된 규범에 맞춰 살아가는 현대인의 무감각한 일상을 형상화했다.

중앙일보 방송 2002

(共産主義の拡散に対するアメリカ人の恐怖を盛った前作と違い、画一化された規範に合わせて生きて行く現代人の無感覺な日常を形象化した。)

(59)문장의 비논리적 현상은 글자 그대로 무의미한 순환 상태에 떨어지는 경우도 있다.

고려대학교 대학국어편찬실 1994 『언어와 표현』

(文章の非論理的現象は文字のとおり無意味な循環状態に落ちる場合もある。)

(58)(59)のように韓国語の「感覺」と「意味」は「hada」が付けられる動名詞である。「無」と結合した後の「無感覺」と「無意味」も「hada」が付けられるが、動詞性を失い、状態性を表す形容詞性名詞になる。

5.3.3 形容詞性名詞の下接語

形容詞性名詞の下接語が名詞結合語に轉換する語は1語のみである。

(60)下接語 AN→結合語 N(1 語)

무기교 (無技巧)

(61)요란스럽지 않은 시어 구사와 별스런 기교를 부리지 않는 무기교가 읽는이로 하여금 편안함을 느끼게 하는 여류시인 이현정씨의 세번째 시집...

뉴스피플 1993

(騒々しくない詩語、語句と変な技巧を使わない無技巧が読者に安心感を与える女流詩人のイヒョンジョンさんの三番目の詩集。…)

韓国語の「技巧」は「hada」が付けられる形容詞性名詞であるが、その結合語の「無技巧」は「hada」付けられず、名詞として使用される。

また、形容詞性名詞に動詞性を兼ねる下接語が 1 語あり、その結合語は動詞性を失い、形容詞性名詞になる。

(62)下接語 AN/VN→結合語 AN(1 語)

무자비 (無慈悲)

(63)자연에 대한 무자비한 공격, 농촌의 구조적 파괴, 농민의 존재이전을 강요하는 공업사회의 비정을 당신도 함께 생각해야 한다.

친규석 1994 『이 땅덩이와 밥상』

(自然に対する無慈悲な攻撃、農村の構造的破壊、農民の存在以前を強要する工業社会の非情をあなたも一緒に思わなければならない。)

韓国語の「慈悲」は「hada」を付け、形容詞または動詞になりうるが、「無慈悲」は動詞性を失い、形容詞性名詞になる。

以上、韓国語の「無」の下接語と結合語の品詞性について用例を挙げながら説明した。

5.4 日韓「無」の品詞轉換機能の相違点

日本語と韓国語の「無」の下接語と結合語の品詞性を以下の表 15 にまとめる。韓国語の「無」は、日本語と同様に主に N と VN の語を下接語としている。下接語が N のとき、結合語は日韓両言語ともに AN への品詞轉換がある。また、下接語が VN のとき、日韓両言語共に N または AN の結合語になる。異なるのは、下接語が VN のときである。韓国語では 4 語が VN のままで、品詞の轉換が見られない。

表 15 日韓「無」の下接語と結合語の品詞性

下接語(%)	結合語(日)	語数(%)	結合語(韓)	語数(%)
N(100%)	N	20(54.1%)	N	53(45.3%)
	AN	17(45.9%)	AN	64(54.7%)
VN(100%)	N	16(43.2%)	N	42(57.5%)
	AN	21(56.8%)	AN	27(37.0%)
	—	—	VN	4(5.5%)
AN(100%)	AN	2(100%)	AN	—
	—	—	N	1(100%)
AN/VN(100%)	AN	—	AN	1(100%)

6. 日韓「非」の下接語と結合語の品詞性

6.1 韓国語の「非 bi」の意味

『標準国語大辞典』の「非」の項目では次のように解釈されている。

非

名詞

間違っているまたは正しくないこと。

例：是と非を問う。

反対語：是

非

接辞

(一部の名詞の前に付き)

「ない」の意味を添加する接頭辞

例：非公式 非武装 非民主的 非人間的 非生産的 非業務用

『標準国語大辞典』の「非」の項目の説明から、韓国語の「非」は、日本語と同様に、独立して使用することができ、文字の意味は「是」の反対語として「間違っている」「正しくない」を表している。一方で、接頭辞としての意味もあり、一部の名詞の前に前接し、否定を表す点で日本語と類似している。

6.2 日本語の「非」の下接語と結合語の品詞性

日本語の「非」の3字結合語は14語あり、その下接語は名詞、動名詞、形容動詞性名詞に分けられる。以下、用例を挙げながら、「非」の下接語と結合語の品詞性をみる。

6.2.1 名詞下接語

「非」の名詞下接語は8語あり、そのうち5語が形容動詞性名詞の結合語となり、3語が名詞結合語となる。

(64)下接語 N→結合語 AN (5語)

非衛生 非公式 非合理 非条理 非人情

(65)もともとは戦後の食糧難や非衛生な環境の中で、行き倒れや変質者が増えたことから作られた。

阿部寿美代 1997『ゆりかごの死』

(66)宇宙軍が貸与を許可したのは、その方式でのブレイン・ギア開発を断念したという非公式な宣言にほかならない。

津守時生 2001『三千世界の鴉を殺し』

(67)科学の発展が人類を幸福にするものであるなら、神という理解不可能なものをあがめる非合理的な宗教はわれわれには不必要ではないかというのだ。

武光誠 2003『日本人なら知っておきたい神道』

(65)のように名詞である「衛生」が「非」と結合した後、「非衛生な環境」のように「非衛生」は、形容動詞性名詞に転換する。同様に、「公式」「合理」も「非」と結合した後に、形容動詞の語幹となる。また、次のように、下接語が名詞である場合、結合語も名詞である語は3語ある。

(68)下接語 N→結合語 N (3語)

非金属 非現業 非国民

(69)通常の金属材料の凝固組織はノンファセットであり、これから記述する黒鉛やセメンタイト、シリコンなどは非金属でありファセットになる。

中江秀雄 2001『状態図と組織』

(70)この両職種の五十五歳年金というものと六十歳の定年、この関係と六十歳から年金がつく現業、非現業の職種で六十歳定年制というものの関係には、似ているようであって微妙な違いはある。

国会会議録 1981

(71)それは、当時の日本人にとっては、非国民といってもよい態度であった。

北杜夫 1986『マンボウ交友録』

(69)～(71)の「金属」「現業」「国民」は「非」と結合前後品詞転換がなく、名詞として使用される。

6.2.2 動名詞下接語

日本語の「非」の下接語が動名詞である場合、結合語はすべて名詞となり、動詞性を失う。

(72)下接語 VN→結合語 N (5 語)

非存在 非課税 非公開 非上場 非具象

(73)非公開にする個人情報の定め方には2通りあります。

青山彰久 1999『よくわかる情報公開制度』

(74)サタンたちはある種の地獄的領域、孤立した純然たる夜、非存在の領域に封じ込められたのである。

W・H・チャーチ(著)/石原佳代子(訳)2003『魂の進化』

(75)原則としてすべての財貨、サービスに課税されますが、そもそも消費課税になじまないものや、社会政策的な配慮を必要とされるものなどについては、非課税とされています。

羽深成樹 2005『図説日本の税制』

(73)～(75)の「公開」「存在」「課税」は「する」が付けられる動名詞であるが、結合語の「非公開」「非存在」「非課税」は「する」が付けられず、動詞性を失い、名詞として使用されている。

6.2.3 形容動詞性名詞の下接語

「非」の形容動詞性名詞の下接語は1語のみである。

(76)下接語 AN→結合語 AN (1語)

非合法

(77)いまは国内市場を対象にしたピストルや猟銃、スポーツライフルなど、合法的な取引しかしていない。

松本仁一 2004『カラシニコフ』

(78)秋田はそのころ非合法的な運動となっていた日本労働組合全国協議会傘下の日本金属労働組合の組織者でした。

鶴見俊輔 1991『戦後日本の大衆文化史』

(77)(78)のように、「非合法」の下接語は、「合法的な N」の形態で使用可能な形容動詞性名詞である。その結合語の「非合法」も「非合法的な N」の形態で使用でき、品詞の転換が見られない。

以上、日本語の「非」の下接語と結合語の品詞性は次のとおりである。

- ① 下接語 N→結合語 N
- ② 下接語 N→結合語 AN
- ③ 下接語 VN→結合語 N
- ④ 下接語 AN→結合語 AN

次に、韓国語の「非」の下接語と結合語の品詞性について観察する。

6.3 韓国語の「非」の下接語と結合語の品詞性

韓国語の「非」の下接語は、日本語と同様に、名詞、動名詞及び形容動詞性名詞に分けられる。No myeonghui(2005:163)では、漢字接頭辞の「非」は「～でない」

という否定の意味を添加し、語基の品詞性には特に影響を与えていないと指摘されているが、下接語の品詞別に調査した結果、韓国語の「非」においても品詞転換機能が見られることが分かった。以下に語例を示す。

6.3.1 名詞下接語

韓国語の「非」の名詞下接語は 29 語あり、その結合語のすべてが名詞である。

(79) 下接語 N → 結合語 N (29 語)

비교인 (非敎人)	비국민 (非国民)	비금속 (非金属)
비농가 (非農家)	비능률 (非能率)	비인간 (非人間)
비인정 (非人情)	비정규 (非正規)	비정상 (非正常)
비정의 (非正義)	비정형 (非定型)	비주류 (非主流)
비판결 (非判決)	비학자 (非学者)	비현업 (非現業)
비회원 (非會員)	비효용 (非効用)	비효율 (非効率)
비가역 (非可逆) 〈物理〉	비등방 (非等方) 〈物理〉	
비악음 (非樂音) 〈物理〉	비탄성 (非彈性) 〈物理〉	
비동기 (非同期) 〈電氣〉	비구상 (非具象) 〈芸術〉	
비소설 (非小説) 〈文学〉	비소수 (非素数) 〈数学〉	
비임지 (非林地) 〈農業〉	비정질 (非晶質) 〈化学〉	
비활성 (非活性) 〈化学〉		

(80) 이 사람들은 기존 사회주의의 비능률과 실패의 원인을 체제 자체가 아니라 국가중심적 소유와 계획에 있었기 때문이라고 분석한다.

김광식 1995 『인간을 위하여 미래를 위하여』

(この人々は既存の社会主義の非能率と失敗の原因が体制自体ではなく国家中心的所有と計画にあったからだと分析する。)

(81) 산후 우울증은 비정상이 아니다.

노만수, 송경희 1994 『노만수 박사 부부의 성공적인 수유법』

(産後の鬱病は非正常ではない。)

(82) 특히 오늘날의 농업은 에너지를 줄이는 것이 아니라 파괴하는 비효율의 방식이라고 반박한다.

한겨레신문 2001년

(特に今日の農業はエネルギーを減らすのではなくエネルギーを破壊する非効率の方式だと反論する。)

(80)~(82)의 「非能率」「非正常」「非効率」의 下接語はいずれも 「hada」가 付けられない名詞であり、その結合語も 「hada」 と結合できない名詞である。

6.3.2 動名詞下接語

韓国語の「非」の動名詞下接語は 15 語あり、そのうちの 11 語が名詞結合語となり、4 語が動名詞結合語である。

(83) 下接語 VN→結合語 N (11 語)

비공인 (非公認)	비대칭 (非対称)	비무장 (非武装)
비반전 (非反転)	비보도 (非報道)	비자치 (非自治)
비협조 (非協調)		
비분리 (非分離) 〈生物〉	비상근 (非常勤) 〈法律〉	
비정합 (非整合) 〈地理〉	비존재 (非存在) 〈哲学〉	

(84) 그동안 청와대는 대통령의 외부행사 일정에 대해 사전 보도를 하지 말 것을 요구했고 출입기자들에게 외부행사 일정을 사전에 알려줄 때도 비보도를 조건으로 해왔다.

동아일보 2003

(その間青瓦台は大統領の外部行事日程に対して事前に報道をしないことを要求したし、出入りの記者たちに外部行事日程を前もって知らせてあげる時も非報道を条件でして来た。)

(84)의 「報道」は 「hada」 を付け、動詞として使用されるが、その結合語の 「非報道」は 「hada」 が下接できず、名詞として使用される。

また、下接語と結合語が動名詞である語は以下の 4 語である。

(85)下接語 VN→結合語 VN (4 語)

비공개 (非公開) 비과세 (非課稅) 비확산 (非擴散)
비적대 (非敵對)

(86)…사무국장은 "내부문제"라며 기자의 회의장 출입을 저지한 채 회의를 비공개로 진행시켰다.

경향신문 1993

(…事務局長は「内部問題」と言いながら記者の会議場出入りを阻止したまま会議を非公開で進行させた。)

(87)정○○ 민주당 총무도 <한국방송> 라디오의 한 대담프로그램에 출연해 "국회 상임위 등에서 (대북 송금과) 관련된 분들을 증인이나 참고인으로 불러 직접 확인한 뒤 공개할 것은 공개하고 비공개할 것은 비공개해서 국민의 의혹을 깨끗이 풀어야 한다"고 말해, 관련자들의 국회 증언을 통한 해결을 주장했다.

한겨레신문 2003 년

(チョン○○民主党総務も〈韓国放送〉ラジオの一对談プログラムに出演して「国会常任委などに(対北送金と)係わる方々を証人や参考人と呼んで直接確認した後、公開することは公開して*非公開することは非公開して国民の疑惑を完全に解かなければならない」と言い、関係者たちの国会証言を通して解決すると主張した。)

(88)이와 관련해 재경부는 노인과 장애인의 저축에 대해 개인당 2000 만 ~ 3000 만 원, 가구당 5000 만 원까지 비과세하는 방안을 검토 중이다.

동아일보 2001 년

(これと関連して財政經濟部は高齢者と障がい者の貯金に対して個人当たり 2000 万—3000 万ウォン、世帯当たり 5000 万ウォンまで*非課税する方案を検討中だ。)

(86)は「非公開」が名詞として使用される例、(87)は「非公開」が動詞として使用される例である。「公開」は「hada」が付けられる動名詞であり、その結合語も「hada」が下接できる動名詞である。(88)の韓国語の「課税」は動名詞であり、「非」と結合した後の「非課税」も、動詞性を保有している。これに対し、

日本語の「非公開」と「非課税」は動詞性を持たず、動きや変化を表すことができない。(87)(88)の韓国語の下線部はそれぞれ「非公開にすること」、「非課税にする法案」と翻訳することができるが、このときの「非公開」と「非課税」いずれも結果状態を表す。

6.3.3 形容詞性名詞下接語

(89)下接語 AN→結合語 N (1語)

비합법 (非合法)

(90)下接語 AN/VN→結合語 AN (1語)

비합리 (非合理)

(91)NGO 가 시민의 권익을 위하여 추진하는 각종 활동은 소수의견이거나 비합법이라는 이유로 정부로부터 제재를 받는다.

박상필 2003 『NGO 와 정부 그리고 정책』

(NGO が市民の権益のために推進する各種活動は少数意見や非合法という理由で政府から制裁を受ける。)

韓国語の下接語に形容詞性のある語は「非合法」と「非合理」の2語のみである。「非合法」は名詞に転換され、「非合理」は動詞性を失い、形容詞性名詞になる。

以上、韓国語の「非」の下接語と結合語の品詞性をまとめると次のとおりである。

- ① 下接語 N→結合語 N
- ② 下接語 VN→結合語 N
- ③ 下接語 VN→結合語 VN
- ④ 下接語 AN→結合語 N
- ⑤ 下接語 AN/VN→結合語 AN

このほか、日本語と同様に、韓国語においても「非」は「～的」の否定に多用されている。

(92)韓国語の「非～的」

非経済的 非計量的 非公開的 非公式的 非科学的 非軍事的
 非規範的 非論理的 非能率的 非道德的 非文法的 非民主的
 非本質的 非生産的 非紳士の 非実用的 非良心的 非衛生的
 非倫理的 非理性的 非人間的 非人道的 非敵対的 非専門的
 非正常的 非組織的 非妥協的 非合理的 非合法的 非恒久的
 非現実的 非協調的 非効率的

韓国語の「～的」の否定として「非」が多用される現象について No myeonghui(2005:164)では、「非」は主に名詞と結合する特性を持っており、「～的」は名詞性を持っているため、「非」と結合しやいのだと指摘されている。韓国語の「～的」は名詞性を持っているが、日本語の「～的」は形容動詞の語幹として形容動詞性を持っている。両言語の「～的」の品詞性はまったく異なるが、「非」が付きやすいことは共通している。

6.4 日韓「非」の品詞転換機能の相違点

日韓「非」の下接語と結合語の品詞性を以下の表 16 にまとめる。

表 16 日韓「非」の下接語と結合語の品詞性

下接語(%)	結合語(日)	語数(%)	結合語(韓)	語数(%)
N(100%)	N	3(37.5%)	N	29(100%)
	AN	5(62.5%)	—	—
VN(100%)	N	5(100%)	N	11(73.3%)
	—	—	VN	4(26.7%)
AN(100%)	AN	1(100%)	N	1(100%)
AN/VN(100%)	—	—	AN	1(100%)

日韓両言語の「非」の3字結合語の下接語はともにN、VN、ANに分けられる。下接語がNである場合、日本語の「非」の結合語はNまたはANになるが、韓国語はすべてNである。下接語がVNのとき、日本語の「非」の結合語は動詞性を失い、すべてNになるが、韓国語の「非VN」の結合語は、73.3%がNとなり、26.7%がVNのままである。また、日本語ではNの下接語がANの結合語に、VN

の下接語が N の結合語になる品詞転換機能が見られる。一方で、韓国語では、主に VN の下接語が N の結合語になる品詞転換機能が見られる。

7. 日韓「未」の下接語と結合語の品詞性

7.1 韓国語の「未 mi」の意味

『標準国語大辞典』における「未」の機能と意味についての記述は以下のとおりである。

未

(一部の名詞の前に付き)

まだ～でないこと、またはまだ～になっていないこと、という意味を添加する接頭辞。

例：미개척 (未開拓) 미성년 (未成年) 미완성 (未完成)
 미해결 (未解決)

韓国語の「未」の下接語の品詞性と否定の意味は日本語に類似している。

7.2 日本語の「未」の下接語と結合語の品詞性

日本語の「未」の下接語は名詞と動名詞がある。以下、下接語の品詞別に結合語の品詞性について観察する。

7.2.1 名詞下接語

「未」の名詞下接語は「未成年」1語であり、その結合語も名詞である。

(93)未成年の子が結婚するときには、父母の同意、少なくともそのいっぽうの同意が必要である。

宮本みち子 (ほか) 2006『家庭基礎 自分らしい生き方とパートナーシップ』

7.2.2 動名詞下接語

「未」の動名詞下接語は 14 語であり、その結合語は形容動詞性名詞が 9 語、名詞が 5 語である。

(94)下接語 VN→結合語 AN (9 語)

未解決 未開拓 未開発 未完成 未経験 未成熟 未整理 未発達
未分化

(95)アレルギー物質を含む食品表示の詳細はまだ未解決な部分（添加物・香料など）は多いのですが、企業などの準備期間を設けるために1年間の猶予期間を経て平成十四年4月1日より実質的に適用されることとなります。

海老澤元宏 2001『最新食物アレルギー』

(96)就職するまで十年以上も間がある小中学生に、現在の未完成なITを押しつけるのは、愚の骨頂というべきだ。

東谷暁 2001『教育の論点』

(97)芸術としては不純で未成熟な世界、だがそこには芸術以前のものの価値と権利を再発見させるような新鮮さがある。

巖谷國士 2004『封印された星』

(95)～(97)の「解決」「完成」「成熟」は「する」が付けられる動名詞である。「未」と結合した後の「未解決」「未完成」「未成熟」は「する」が付けられず、「-な」が付けられる形容動詞性名詞と転換する。

(98)下接語 VN→結合語 N (5 語)

未確認 未決定 未処理 未組織 未発表

(99)現在ならば未確認飛行物体となるのだろうが、当時の人々が即座に思い浮かべるものは「戦乱」の予兆であった。

東郷隆 2005『猿若の舞』

(100)最近、若い人々は、モラトリアムとって、未決定の期間が長く、自分を未決定 にすることによって自由を求めるといいますが、私などはその走りだったのかもしれない。

尾本恵市 1987『ヒトの発見』

(101)繰り延べ税というのは未処理の不良債権を処理して、損失を出したと仮定して還付される過年度の税のことである。

櫻井よしこ 2001『迷走日本の原点』

(99)～(101)の「確認」「決定」「処理」は、「する」が付けられる動名詞であるが、「未」との結合語の「未確認」「未決定」「未処理」は動詞性を失い、もっぱら名詞として使用されている。

日本語の「未」の下接語は名詞と動名詞とがある。下接語が名詞の語は「未成年」1語のみであり、その結合語も名詞であり、品詞性は変わらない。下接語が動名詞である場合、結合語は形容動詞性名詞に転換する語が9語、名詞に転換する語が5語ある。日本語の「未」の下接語と結合語の品詞性を以下にまとめる。

- ① 下接語 N→結合語 N
- ② 下接語 VN→結合語 AN
- ③ 下接語 VN→結合語 N

次に韓国語の「未」の下接語と結合語の品詞性をみる。

7.3 韓国語の「未」の下接語と結合語の品詞性

韓国語の「未」は日本語の「未」と同じく、主に動名詞を下接語とし、少数の名詞下接語と形容詞性下接語が見られる。以下に用例を挙げながら韓国語の「未」の下接語と結合語の品詞性について観察する。『標準国語大辞典』で抽出した韓国語の「未」の3字結合語は52語あり、そのうち、名詞下接語は2語、動名詞下接語は48語、形容詞性名詞の下接語は2語ある。以下、下接語の品詞別に、下接語と結合語の品詞性について観察する。

7.3.1 名詞下接語

韓国語の「未」の下接語が名詞である場合、その結合語も名詞である。

(102)下接語 N→結合語 N (2語)

미성인 (未成人) 미성년 (未成年) 〈法律〉

(103) 18 세 이하 미성년이나 수입이 없는 대학생도 부모가 동의하면 카드를 발급받을 수 있다.

중앙일보 경제 2002

(18歳以下の未成年や収入のない大学生も両親が許可すれば、カードを発行することができる。)

韓国語の「未成年」の下接語「成年」は、「hada」が付けられない名詞であり、結合語の「未成年」も「hada」が下接することができない名詞である。

7.3.2 動名詞下接語

韓国語の「未」の下接語が動名詞である場合、結合語は名詞または動名詞である。

(104) 下接語 VN → 結合語 N (10 語)

미공개 (未公開)	미발령 (未發令)	미부료 (未付料)
미분양 (未分讓)	미심사 (未審査)	미정비 (未整備)
미착용 (未着用)	미합의 (未合意)	미해명 (未解明)
미확보 (未確保)		

(105) 증권거래법에 따르면 미공개 정보를 이용한 불공정거래 행위자에 대해 최고 10년 이하의 징역이나 2000만원 미만의 벌금형을 선고할 수 있다.

조선일보 경제 2002

(証券取引法によれば未公開情報を利用した不公正取引行為者に対して最高10年以下の懲役や2000万ウォン未満の罰金刑を宣告することができる。)

(106) 경기가 나빠 미분양 아파트가 늘기 때문이다.

조선일보 경제 1993

(景気が悪くて未分讓アパートが増えるからだ。)

(107)또 봄 가을 등 관광 성수기에 전세버스를 이용하는 행락객들의 안전벨트 미착용도 집중 단속할 예정이다.

동아일보 2001

(また春、秋など観光オンシーズンに貸切りバスを利用する行楽客たちのシートベルト未着用も集中的に取り締まる予定だ。)

(105)~(107)의 한국어의 「公開」「分讓」「着用」は「hada」を付けることのできる動名詞であるが、韓国語の「未公開」「未分讓」「未着用」は動詞性を失い、もっぱら名詞として使用されている。

次に下接語と結合語が動名詞の語を示す。

(108)下接語 VN→結合語 VN (37 語)

미가동 (未稼働)	미개간 (未開墾)	미달성 (未達成)
미도착 (未到着)	미결산 (未決算)	미경험 (未經驗)
미성취 (未成娶)	미성편 (未成篇)	미조직 (未組織)
미확산 (未拡散)	미취학 (未就学)	미개발 (未開發)
미결정 (未決定)	미결제 (未決濟)	미등기 (未登記)
미발표 (未發表)	미배급 (未配給)	미배당 (未配當)
미배정 (未配定)	미부임 (未赴任)	미분화 (未分化)
미불입 (未払入)	미상환 (未償還)	미설치 (未設置)
미송환 (未送還)	미숙련 (未熟練)	미완료 (未完了)
미완성 (未完成)	미지급 (未支給)	미지불 (未支払)
미착수 (未着手)	미처리 (未処理)	미확인 (未確認)
미해결 (未解決)	미결정 (未確定)	미결재 (未決裁)
미타결 (未妥結)		

(109)창조성은 우리가 사용하는 개념에 따라 반영할 수 있는 것으로서 더 이해하기 쉬운 세계로 만드는 전환 양식에 의해 미조직된 구조를 확대하기 위하여 우리의 언어와 행동에 펼치는 것이다(Fiumara, 1995:98).

고려대학교 출판부 2000 『한국어 은유연구』

(創造性は、私たちが使う概念によって反映することができることとして、もっと理解しやすい世界を作る轉換様式によって *未組織された構造を拡大するために私たちの言語と行動によって広げるのだ。)

(110)대학에 입학한 후에도 그는 현철이의 소식을 알기 위해 여러곳을 수소문 하였으나 사람들의 입을 통해서 들리는 이야기는 현철이가 서울에 있다, 부산에 있다, 혹은 강원도에서 봤다, 아니면 자살했다는 미확인된 소식만 들었을 뿐 그에 대해서 정확한 소식은 알 길이 없었다.

박인석 1990 『가야 할 나라(상)』

(大学に入学した後にも彼はヒョン Chol-이 の消息を知るために、うわさをたよりに色んな所を捜したが、人々の口を通じて聞いた話はヒョン Chol-이 がソウルにいる、釜山にいる、あるいは江原道で見た、ではなければ自殺したという *未確認された 消息だけで、正確な消息は分かるあてがなかった。)

(111)그는 또 "나는 금강산 관광객이 풀려난 뒤에 북한에 미지불된 돈을 보내라고 했다"며 "관광객의 신변 안전이 보장되지 않으면 (금강산 관광을) 재개하지 않을 것"이라고 밝혔다.

한겨레신문 1999

(彼はまた「私は、金剛山観光客が釈放された後に北朝鮮に *未払いされ たお金を送りなさいと言った」とし、「観光客の身近の安全が保障されなければ(金剛山観光を)再開しないこと」を示した。)

(112)더욱이 지난해 5 월 경찰청으로부터 112 신고 접수 뒤 미처리된 업소를 특별 단속하라는 지시를 받고도 화재가 나던 날까지 단속을 하지 않았다.

예음문화재단 1999 『시사저널』

(なおかつ去年の5月に警察庁から112の申告を受付した後 *未処理され た業所を特別に取り締まれという指示を受けてからも、火事が起こった日まで取り締まりをしなかった。)

(109)~(112)의 한국어의 「組織」「確認」「支払」「処理」はいずれも動名詞であり、「未」が前接した「未組織」「未確認」「未支払」「未処理」も、下接語の品詞と一致し、動名詞である。ただし、「未」の結合語が動詞として使用されるとき、「hada」よりも受動態を表す「doeda」が付く。

(113)下接語 VN→結合語 AN (1語)

미성숙 (未成熟)

(114)우리 언론은 이런 미성숙한 모습에서 벗어나 하루빨리 진실하고 공정한 보도를 하고, 사회적 책임을 지며, 높은 윤리의식을 지닌 성숙한 언론으로 거듭나야 한다.

이효성 1996 『한국언론의 좌표』

(私たちの言論はこんな未成熟な姿から脱して、一日も早く誠実で公正な報道をし、社会的責任を負って高い倫理意識を持つ成熟した言論に生まれ変わらなければならない。)

韓国語の「成熟」は「hada」が付けられる動名詞である。「未」と結合した後の「未成熟」は形容詞性名詞に転換する。

7.3.3 形容詞性名詞の下接語

「未」の下接語が形容詞性名詞の語は以下の2語である。

(115)下接語 AN→結合語 AN (2語)

미가신 (未可信) 미분명 (未分明)

(116)냄새와 향기에는 분명한 차이가 있다.

(においと香りには*分명한差がある。)

고려대학교 교양국어 작문자료: 작문자료(국어교육과)1995

(117)미가신한 정보로 남을 평가하지 마라.

(未可信⁸⁰な情報で他人を評価するな。)

『標準国語大辞典』の「未可信」の項目の例文より

韓国語の「可信」と「分明」は形容詞性名詞であり、その結合語の「未可信」と「未分明」も形容詞性名詞であり、品詞転換が見られない。ただし、国立国語院の現代文語コーパスに「未可信」と「未分明」の使用例がないことから、現代ではあまり使用されていないと考えられる。

韓国語の「未」は、名詞、動名詞、形容詞性名詞の漢語を下接語とし、日本語と同じく下接語が名詞である場合、結合語も名詞となる。下接語が動名詞である

⁸⁰ 『標準国語大辞典』によれば、韓国語の「未可信」は「いまだ信じられないこと」の意である。

場合、結合語は名詞に転換する語が 10 語、動名詞に転換する語が 37 語、形容詞性名詞に転換する語が 1 語見られる。また、下接語が形容詞性名詞の場合、結合語も形容詞性名詞である。韓国語の「未」の下接語と結合語の品詞性は、以下の 4 つのパターンが見られる。

- ① 下接語 N→結合語 N
- ② 下接語 VN→結合語 N
- ③ 下接語 VN→結合語 VN
- ④ 下接語 AN→結合語 AN

7.4 日韓「未」の品詞転換機能の相違点

日韓両言語の「未」の下接語と結合語の品詞性を以下の表 17 にまとめる。

表 17 日韓「未」の下接語と結合語の品詞性

下接語(%)	結合語(日)	語数(%)	結合語(韓)	語数(%)
N(100%)	N	1(100%)	N	2(100%)
VN(100%)	N	9(64.3%)	N	10(20.8%)
	AN	5(35.7%)	VN	37(77.1%)
	—	—	AN	1(2.1%)
AN(100%)	—	—	AN	2(100%)

日本語の「未」は名詞と動名詞の前に付くが、名詞下接語は 1 語のみで、主に動名詞を下接語とする。韓国語の「未」は名詞、動名詞及び形容詞性名詞の前に付く。名詞下接語と形容詞性名詞の下接語はそれぞれ 2 語であり、日本語と同様に下接語の多くが動名詞である。

日本語の「未」が動名詞の前に付く場合、結合語の 64.3% は名詞になり、35.7% は形容動詞性名詞になる。一方で、韓国語の「未」が動名詞の前に付く場合、その結合語の 77.1% は動名詞のままで、品詞が変わらない。残りの結合語については 20.8% が名詞になり、2.1% が形容詞性名詞になる品詞転換機能が見られる。

下接語が動名詞である場合、韓国語の「未」の 3 字結合語は 77.1% が動名詞のままで品詞が転換されていない。また、「未」の 3 字結合語が動詞として使用されているときは、「hada」よりも受動態を表す「doeda」の形態で多く使用されてい

る。その原因について、No myeonghui (2005:168) では「未」が受動的意味を持っているため、「未」の結合語の後に付く接尾辞も「hada」よりも受動態を表す「doeda」を選択するのが自然であると指摘している。

また、日本語と同じく、韓国語の「不・無・非・未」は2字結合語と3字結合語による二次結合語が多い。二次以上の結合語の多くは専門用語である。

(118) 「未○」「未○○」の二次以上の結合語

- 〈法律〉未課税証明書 未承認国家
- 〈経済〉未実現利益
- 〈一般語〉未使用品 未受精卵

(119) 「無○」「無○○」の二次以上の結合語

- 〈教育〉無学年制 無償教育 〈心理〉無指導療法 〈化学〉無水硅酸
- 〈生物〉無酸素水域 無性生殖 無性世代 無意識的選択
- 〈医学〉無酸素症 無酸素血症 無酸症 無色素血症 無纖維素原症
無纖維素原血症 無髓神経 無心臓体 無塩～ (無塩食事療法)
- 〈社会〉無産運動 無産政党 無産層 無産革命
- 〈法律〉無償契約 無申告加算税
- 〈天文〉無霜期間
- 〈経済〉無償貸出 無償貸付 無税地 無税品 無額面株
無利息～ (無利息公債) 無指定信託 無現金決済 無現金去来
- 〈工業〉無線工学
- 〈通信〉無線～ (無線局)
- 〈哲学〉無世界論 無世界説 無制約者
- 〈物理〉無損失物質 無液気圧計 無定位～
- 〈航空〉無揚力～ 無指向性無線標識 無揚力시위線
- 〈動物〉無羊膜～ (無羊膜動物)
- 〈植物〉無孢子生殖
- 〈地理〉無樹木気候
- 〈電気〉無接点～ (無接点継電器) 無停電電源装置
- 〈数学〉無定義概念
- 〈水工〉無縁紡績 無償～ 無声～ 無鉛～ 無酒精麦酒

8. おわりに

日韓両言語の「不・無・非・未」は単語否定、品詞転換機能、意義の添加機能において極めて類似している。本章では日韓両言語の「不・無・非・未」の特徴を概観した上で、両言語の類似点である品詞転換機能に着目し、「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性について対照研究を行った。

日本語の「不」の結合語は、ANに転換する機能が見られ、ANになるか否かは、否定する語の意味及び否定する語の動作性と状態性の強弱と関わりがあると考えられる。また、日本語の「不」の下接語がVNの場合、その結合語は動詞性を失う。韓国語においては、「不」の下接語がNのときその結合語の品詞性は日本語と類似しており、下接語がVNの場合は、多くの語が動詞性の形態を保有している点で日本語と異なる。それは、日本語においては否定要素を述語の前に置くことができないのに対し、韓国語の固有語では否定要素を述語の前に置く形態があるため、形態上で受け入れやすかったためであると考えられる。また、韓国語の「不」の結合語は状態性のほか、動作や状態の変化といった動詞性を表しやすいことも明らかとなった。

韓国語の「無」は、日本語と同様に主にNとVNの語を下接語としている。下接語がNのとき、日韓両言語の結合語はともにANへの品詞転換がある。下接語がVNのとき、日韓両言語ともにNまたはANの結合語になる。異なるのは、下接語がVNのときであり、日本語では「無」の結合語がANまたはNに品詞転換するのに対し、韓国語では「無」の「無VN」の5.5%がVNのままで、品詞の転換がないことである。

日韓両言語の「非」の3字結合語の下接語はN、VN、ANに分けられる。下接語がNである場合、日本語の「非」の結合語はNまたはANになるが、韓国語はすべてNである。下接語がVNのとき、日本語の「非」の結合語は動詞性を失い、すべてNになるが、韓国語の「非VN」の結合語は73.3%がNとなり、26.7%がVNのままである。また、日韓両言語の「非」の3字結合語はいずれも名詞になる割合が高い。日本語ではNの下接語がANの結合語に、VNの下接語がNの結合語になる品詞転換機能が見られる。一方で、韓国語では、主にVNの下接語がNの結合語になる品詞転換機能が見られる。

また、日本語と同様に韓国語は「～的」の否定として「非」が多用されている。韓国語の「～的」は名詞性を持っているが、日本語の「～的」は形容動詞の語幹として形容動詞性を持っている。両言語の「～的」の品詞性はまったく異なるが、「非」が付きやすいことは共通している。

日本語の「未」は N と VN の前に付くが、下接語が N の語は 1 語のみで、主に VN を下接語とする。韓国語の「未」は N、VN 及び AN の前に付く。下接語が N の語と下接語が AN の語は、それぞれ 2 語であり、日本語と同様に下接語の多くが VN である。

日本語の「未」が VN の前に付く場合、「未 VN」の 64.3% が N になり、35.7% は AN になる。一方で、韓国語の「未」が VN の前に付く場合、その結合語の 77.1% は VN で、品詞は変わらない。

また、「未」の 3 字結合語が動詞として使用されるときは、「hada」よりも受動態を表す「-doeda」の形態で多く使用されている。それは、「未」が受動的意味を持つためである。

韓国語の下接語が VN のとき、結合語も VN の語がある。その原因として韓国語が否定要素を述語の前に置くという形態が受け入れやすいことが考えられる。ただし、韓国語の下接語が VN のとき、すべての結合語が VN になるわけではない。結合語が VN になる度合いは「不・無・非・未」の結合語が動詞性を表す強弱にも関わりがあると考えられる。

第十章 本論文の主な結論と今後の課題

1. 各章の主な結論

本論文は2部構成となっている。

第Ⅰ部では、まず、日本語の「不・無・非・未」それぞれの造語機能と意味機能を分析した上で、造語機能について通時的な考察を行った。次に、程度副詞との共起から「不・無・非・未」の否定の程度性について調査を実施した。さらに、「非」と「的」の共起から「非」の機能の特性について分析した。最後に、現代語の「不・無・非・未」の造語機能と意味機能から「不・無・非・未」の優先選択の問題について検討した。

第Ⅱ部では、まず、日本語と中国語の同形下接語を対象とし、中国語へ直訳可能かどうかについて分析を行った。次に、日本語と韓国語の下接語と結合語の品詞性を中心に、日韓両言語の品詞転換機能について対照研究を行った。

以下に各章の主な結論をまとめる。

第二章では、「不」と「非」の2字結合語と3字結合語を意味により分類し、通時的に「不」と「非」の3字結合語の意味機能と造語機能について考察を行った。

「不」は「(ある基準)にそむく／外れる／合わない」、「(量、レベルなど)が足りない」、「～が悪い」、「～でない」、「～がない」、「(動作)しない」、「(状態)しない／していない」といった7つの意味を持っている。「非」は「(ある基準)にそむく／外れる／合わない」、「(量、レベルなど)が足りない」「～が悪い」「～でない」という意味を持っている。「不」と「非」はいずれも「～でない」という意味を持つが、「不」はもっぱら「(状態)でない」という意味を表し、「非」は状態の否定のほか、「(事物・事態)でない」という意味も表すことができる。また、「不」は「～がない」の意味以外に2字結合語、3字結合語ともに、各意味による造語が見られるが、「非」の2字結合語の持つ「足りない」「悪い」の意味は、「非」の3字結合語の造語には影響を与えていない。

造語機能から見たとき、「不」の3字結合語は、既に近世以前から使用され、とりわけ近世の文学作品においては現代語の持つ各意味による造語が見られる。一方で「非」の3字結合語は中古の「非参議」、中世の「非学生」という二つの語例のみであり、職名と身分の否定を表し、「非」の否定の意味は「～でない」という範囲外を表す。明治、大正期では「不」の3字結合語が急増し、現代語の下接語の品詞性と同様に、「不」は名詞、動名詞、形容動詞性名詞に前接し、動名詞下接語の語数が最も多い。明治、大正期において「非」の下接語は身分・職名を表す

名詞のほか、「正義」「文明」などの抽象名詞も増えており、名詞のみならず、動名詞、形容動詞性名詞の下接語もある。明治、大正期の「不」と「非」の3字結合語には臨時的一語も多かったため、多くの語は現代に定着されなかった。漢語使用の減少とともに、現代の「不」と「非」の3字結合語は明治、大正期に比べ、少なくなっている。

第三章では、「無」の3字結合語について下接語と結合語の品詞性、下接語の意味と品詞転換機能との関連性について分析を行い、「無」の造語機能について通時的な考察を行った。

「無」の下接語は名詞、動名詞、形容動詞性名詞が見られ、名詞下接語の37語及び動名詞下接語の37語は、いずれも「人間活動－精神および行為」を表す語と「抽象的關係」を表す語が多い。「無」の名詞下接語と動名詞下接語は、「無」と結合した前後に形容動詞性名詞に品詞転換する語と形容動詞性名詞に品詞転換しない語が見られるが、これは「無」の結合語に「無」に近づく幅があるか否かと関わりがある。下接語が客観的特徴を持つ場合、結合語は、完全にゼロを表し、品詞転換が見られない。一方で、下接語が主観的特徴を持つ場合、結合語は「無」に近づく幅があり、形容動詞性名詞への品詞転換機能が見られる。

通時的に見た場合、中世以前はもっぱら「無」の2字結合語が使用される。「無」の3字結合語の使用例は中世から見られるようになり、特に明治、大正期では急増する。現代語における「無」の3字結合語の半数以上が明治、大正期から使用されているものである。

第四章では「未」の造語機能と意味機能について考察を行った。「未」の否定によって表す段階は動作過程の開始限界に達していない状態または動作過程の終了限界と結果状態に達していない状態を表す。前者は「動作がまだ発生していない状態」を表し、後者は「動作がまだ完全に終了していない状態または動作が結果状態に達していない状態」という「動作状態の否定」を表す。

近世以前において、「未」の2字結合語は見られるが、3字結合語は見られない。下接語の品詞性からみると「未詳」以外は、すべて動詞である。近世以前から、「未」は主に動詞の否定として使われている。

また、『太陽』コーパスの「未」の3字結合語の29語のうち、現代語にもある語は8語のみであり、21語は現代語に見られない語である。明治から現代に至るまで「未」の3字結合語の語数が減少したことが窺える。

第二章から第四章における否定の造語要素に対する通時的な考察から、「不・無・非・未」の3字結合語の出現時期が最も早いのは「不」であり、「無」の3字

結合語はそれに次ぎ、「非」と「未」の3字結合語の出現時期は比較的遅い。現代語の「不・無・非・未」の3字結合語が明治、大正期の語数に比べて減少された原因は以下の二点が考えられる。

第一に、「ノン」「ノー」などの否定接頭辞が多用されるようになる。

例：ノーアイロン　ノーコントロール　ノーストップ
 ノンアルコール　ノンカロリー　ノンムレ睡眠

現代においては、外来語をカタカナ表記で受容されるようになり、外来語の接頭辞が発達することによって、漢字系の否定の造語要素による新造語が減少されることが考えられる。

第二に明治期から現代に至るまで漢字、漢語使用の減少も一つの原因であると考えられる。以下の図は土屋（2000）による図である。図は『東京日日新聞』（『毎日新聞』）を資料として明治時代から現代までの漢字含有率の変化が示されたものである。

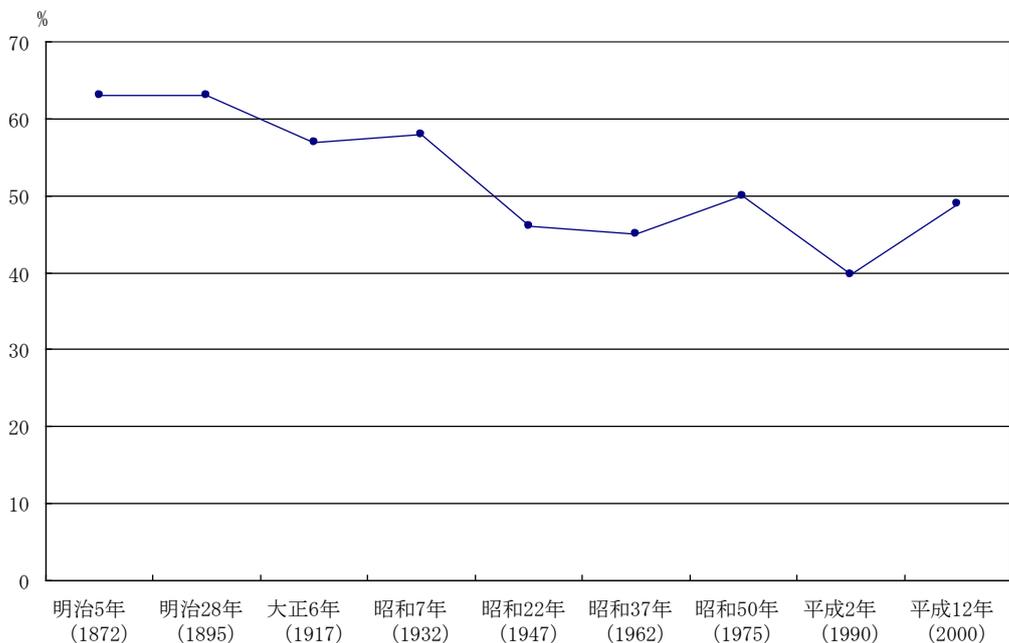


図 漢字含有率の変化

(土屋 2000 により)

図から分かるように明治時代から現代へと至るに従い、漢字の含有率が低下してきているのが見られる。

第五章では、朝日新聞の1985年1月1日から2009年12月31日までの「不・無・非・未」が程度副詞の「とても」と「すこし」に後接する用例を考察した。その結果、最も程度副詞に付きやすいのが「不」の結合語であり、「とても」と「すこし」に後接する例がともに多いことが明らかとなった。それは、「不」の結合語は形容動詞になりやすく、程度性を表しやすいからだと考えられる。また、「不」の結合語は極限を想定されにくいいため、肯定側との距離により、「とても」と「すこし」が偏りなく前接される。「不」の結合語の前には「すこし」が付く例が多いことから「不」は話者の好ましくないマイナスの評価を表しやすいことが分かる

「無」の結合語は、少量を表す「すこし」より、大量を表す「とても」に付きやすい。「無」の結合語は本来には、「一点的」の状態性の語であるため、程度副詞に付かない。しかし、「無」の一部の結合語は、「無」の「ゼロ」の意味が弱化したため、「一点的」ではなく、「極限」を想定しうる語になる。これは、第三章に述べた「無」の下接語と品詞転換機能とも関わっている。「無」の下接語が主観的特徴を持つ場合、結合語は「無」に近づく幅があり、形容動詞性名詞への品詞転換機能が見られる。このとき、「無」の結合語は程度副詞の修飾を受けることが可能である。程度性を持つ「無」の結合語は、否定側の「ゼロ」という極限に極めて近く、肯定側までの距離が遠いため、大量を表す程度副詞に付きやすい。

「非」の3字結合語には、一点的で程度性を持たない語が多い。程度性のある「非」の結合語は、「ある範囲から外れる」意味を持っているので、肯定側までの心理的距離が遠いため、「とても」に付きやすい。

「未」の結合語の前に程度副詞が付く用例は最も少ない。「動作過程の終了限界または結果状態に達していない状態」を表す「未」の結合語の一部は極限を想定しうる点で「無」に類似している。ただし、「未」の結合語の場合、否定側の極限に近いとは限らないので、「とても」と「すこし」にあまり偏りなく付くことができる。

第六章では、「非〇〇的」の成立過程について考察を行った。「非」は「不」「無」「未」に比べて、接尾辞「的」との二次結合が多いのが特徴である。「非〇〇的」の定着過程には「〇〇的」の定着過程を経て、「非」が加わるプロセスが見られる。「非」の二次結合形は明治期の辞書には見出し語として出現していないが、現代では多用されている。

「不」と「非」は「不衛生／非衛生的」「不合理／非合理的」「不経済／非経済

的」など後続の語に同形の2字漢語が多く見られるが、形態上「非」は「的」を媒介として連体修飾をし、「不」は「不○○な」の形で連体修飾をする。「ある範囲から外れる」という「非」の意味機能は「不」と異なっている。

第七章では、「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性、結合語の接続形態、否定の意味の相互作用により、「不・無・非・未」の優先選択の規則性をまとめた。その結果を①～③に示す。

- ①下接語がNの場合、最も前接しやすいのは「無」であり、「非」・「不」がそれに次ぎ、最も前接しづらいのが「未」である。「不」・「無」・「非」は同じ名詞を下接語とする場合でも、その形態を詳細に見ると接尾辞「的」との複合語になる場合は「非」が優先的に用いられることが分かった。また「マイナスの評価」の価値判断を表す必要のある場合は「不」が使用される。
- ②下接語がVNの場合、「不・無・非・未」の四種の造語要素はいずれも前接することができるが、その語数から見ると「不」「未」「無」が最も前接しやすく、最も前接しづらいのが「非」である。「無」はVNの語を否定する場合、主に下接語の名詞性を否定する。これを意味用法の側面からみると、「その動作がまだ発生していない」、あるいは「完了していない」という動的プロセスにおける一時点の状態を表すときは「未」が優先的に選択される。それに対し、動的プロセスと関わりのない静態状態の否定には「不」と「無」が使用される。
- ③下接語がANのときは「不」が圧倒的に優勢である。「非」の3字結合語のうち、下接語がANの語例が少なく、「無(む)」と「未」は下接語がANの語に前接することができない。ただし、「非」は「的」と共起し、形容動詞の語幹を形成する。

第八章では、日本語と中国語の「不・無・非・未」の同形結合語が、中国語へ直訳可能かどうかを中心に分析し、日中両言語の「不・無・非・未」の類似点と相違点についてまとめた。

日中同形結合語が中国語において直訳できないのは日中「不・無・非・未」の下接語の品詞に制約があるのが一因である。日本語の「不」は数多くの名詞の前に付けられるが、中国語の「不」は基本的に動詞と形容詞の前に付き、名詞には付きにくい。中国語で「不」を前接して否定する語が日本語では「不」以外に「無」「非」「未」などの造語要素を用いて翻訳される例が見られる。

また、日本語の「不A」の下接語は、価値的肯定性を持っている。一方で、中国語の「不A」の形容詞下接語は価値的肯定性を表す語とは限らない。

中国語の「不」は動詞を否定する場合、意思性を表し、形容詞を否定する場合は状態性を表す。一方で、中国語の「無」は名詞を下接語とし、「～がない」といった状態性を表す。下接語が動名詞である場合、意思性を表すときは「不」を、状態性を表す場合を「無」を、比較的柔軟に使用している。例えば「抵抗」は中国語において動詞性と名詞性を兼ねている動名詞である。「抵抗のない」状態を表したい場合は「無抵抗」が使用され、「抵抗しない」といった意思を表したい場合は、「不抵抗」が使用される。

3字結合語の文中における成分からみたとき、日本語の「無」の3字結合語は、一語化され、文中で主語、述語、目的語、連体修飾成分及び連用修飾成分など多様な文法成分を担うことができる。一方で、中国語の「無」の結合語は連体修飾成分または連用修飾成分になりうるが、主語や目的語にはなりにくい。また、述語になる場合は、「無」は語否定ではなく、文法的否定を担う。よって、日本語から中国語へ翻訳するとき、連体修飾成分と連用修飾成分における「無」の結合語は、中国語へ直訳可能であるが、主語、目的語、述語成分における中国語訳は、ほかの成分の追加が必要となる。

日本語の「非」の3字結合語の下接語には、N、VN、ANの語が見られる。ANは1語のみであるが、「非」は「～的」を否定する語例が数多くある。中国語の「非」の3字結合語は独立性が低く、主に名詞複合語を否定する。日本語の「非」の3字結合語は中国語で直訳できず、中国語では「非+複合語」の形で翻訳する。

日中両言語の「未」は「まだ～していない」という意味を表し、主にVNを下接語としている。日本語の「未」は主語、述語、目的語、連体修飾成分、連用修飾成分が見られる。日中「未」の同形結合語は、連体修飾成分と連用修飾成分である場合、中国語で直訳可能であるが、主語、述語、目的語として位置する場合、連体修飾成分として翻訳するか主語と述語を否定する文法的否定とする必要がある。

語彙的否定としての日中両言語の「不」は意味と機能に差異が顕著である。日本語においては「不・無・非・未」を使用することによって、和語の「ない」に比べて、文章を簡潔化し、洗練する効果がある。中国語の場合、「不」は文語と口語とも同様であるが、「無・非・未」は文語的で、改まった感じを与える。また、中国語の「無」は口語で“没有”、「非」は“不是”、「未」は“还没有”が使用され、日本語と同じく「無・非・未」を使用することによって文章または語を簡潔化し、洗練する効果がある。よって、専門用語の新造語に生産性を持っている。“没有”“不是”“还没有”はもっぱら文法的否定に用いるが、中国語の「無・非・未」は文法的

否定と語彙的否定両方の機能を持つ。

第九章では、日韓両言語の否定の造語要素の特徴を概観した上で、両言語の類似点である品詞転換機能に着目し、「不・無・非・未」の下接語と結合語の品詞性について対照研究を行った。

日本語の「不」の下接語が VN の場合、その結合語は動詞性を失う。韓国語においては、「不」の下接語が N のときその結合語の品詞性は日本語と類似しており、「不」の下接語が VN の場合は、多くの語が動詞性の形態を保有している点で日本語と異なる。それは、日本語においては否定要素を述語の前に置くことができないのに対し、韓国語の固有語では否定要素を述語の前に置く形態があるためであると考えられる。また、韓国語の「不」の結合語が状態性のみならず、動詞性も表せることも示した。

韓国語の「無」は、日本語と同様に主に N と VN の語を下接語としている。下接語が N のとき、日韓両言語の結合語は共に AN への品詞転換がある。下接語が VN のとき、日韓両言語共に N または AN の結合語になる。異なるのは、下接語が VN のとき、韓国語では「無 VN」の結合語の 5.5% が VN のままで、品詞の転換がないことである。下接語が VN のとき、韓国語は「不 VN」の 87.5% が VN のままで、動詞性を保っている。これに対して、「無」はわずか 5.5% であることから、韓国語の「無」は「不」に比べて、動詞性を表しにくいことが明らかである。

日韓両言語の「非」の 3 字結合語の下接語は共に N、VN、AN に分けられる。下接語が N である場合、日本語の「非」の結合語は N または AN になるが、韓国語はすべて N である。下接語が VN のとき、日本語の「非」の結合語は動詞性を失い、全て N になるが、韓国語の「非 VN」の 73.3% が N となり、26.7% が VN のままである。また、日韓両言語の「非」の 3 字結合語は共に名詞になる割合が高い。日本語では N の下接語が AN の結合語に、VN の下接語が N の結合語になる品詞転換機能が見られる。一方で、韓国語では、主に VN の下接語が N の結合語になる品詞転換機能が見られる。

日本語と同様に、韓国語では「～的」の否定として「非」が多用されている。韓国語の「～的」は名詞性を持っているが、日本語の「～的」は形容動詞の語幹として形容動詞性を持っている。両言語の「～的」の品詞性はまったく異なるが、「非」が付きやすい点で共通している。

日本語の「未」は N と VN の前に付くが、下接語が N の語は 1 語のみで、主に VN を下接語とする。韓国語の「未」は N、VN 及び AN の前に付く。下接語が N の語と下接語が AN の語は、それぞれ 2 語であり、日本語と同様に下接語の多く

がVNである。

日本語の「未」がVNの前に付く場合、「未VN」の64.3%はNになり、35.7%はANになる。一方で、韓国語の「未」がVNの前に付く場合、その結合語の77.1%はVNで、品詞が変わらない。結合語の20.8%がNになり、2.1%がANになる品詞転換機能が見られる。

下接語がVNである場合、韓国語の「未VN」の77.1%がVNのままで品詞が転換されない。また、「未」の3字結合語が動詞として使用されているときは、「hada」よりも受動態を表す「doeda」の形態が表れやすい。それは、「未」が受動的意味を持っているためである。

韓国語の下接語がVNの場合、結合語もVNの語がある。その原因として韓国語が否定要素を述語の前に置くという形態が受け入れやすいことが考えられる。ただし、韓国語の下接語がVNのとき、全ての結合語がVNになるわけではない。結合語がVNになる度合いは、韓国語の「不・無・非・未」の結合語が動詞性を表しやすいか否かに関わりがあると考えられる。

2. 今後の課題

本論文では「不・無・非・未」の3字結合語を中心に検討してきたが、2字結合語と3字以上の結合語の語構造及び否定の意味についても検討する必要がある。

また、近世以前から「不」は「ぶ」と読まれる語が多いため、「不」の結合語にはマイナスの意味が込められている可能性もある。「不」の発音の「ふ」と「ぶ」、「無」の発音の「む」と「ぶ」の違いと関連性について通時的な考察を通して、発音の成立過程や意味の変化を解明する必要もあるだろう。

さらに、「不・無・非・未」の結合語が連体修飾成分である場合、その接続形態は「ノ」または「ナ」であるが、両者の違いについても検討する余地があると考ええる。

対照研究において、日韓両言語の「不」は品詞転換機能のみならず、同形結合語の意味、各品詞の下位分類による使用形態、接尾辞「的」との結合関係においても相違点があるが、今後の課題とする。

【資料 1】「不」の 3 字結合語の下接語の品詞分類

(全 117 語)

「不」の下接語が N の語 (24 語)

不規則	不条理	不経済	不行跡	不成績	不体裁
不衛生	不義理	不面目	不見識	不合理	不器量
不道德	不本意	不行儀	不作法	不人情	不名誉
不気味	不徳義	不景気	不行状	不品行	不採算

「不」の下接語が VN の語 (48 語)

不調和	不飽和	不徹底	不用意	不摂生	不許可
不適應	不特定	不統一	不細工	不注意	不介入
不案内	不承知	不用心	不信用	不一致	不始末
不遠慮	不消化	不養生	不成功	不作為	不生産
不確定	不勉強	不連続	不整頓	不起訴	不賛成
不拡大	不遡及	不干涉	不処分	不同意	不合格
不履行	不納付	不信任	不侵略	不順守	不成立
不均衡	不信心	不利益	不首尾	不協和	不整合

「不」の下接語が AN の語 (36 語)

不穩当	不活発	不得意	不熱心	不自由	不鮮明
不可能	不完全	不必要	不健康	不適任	不適格
不格好	不器用	不透明	不健全	不親切	不誠実
不確實	不機嫌	不明瞭	不公正	不正確	不公平
不適當	不明朗	不平等	不適切	不名誉	不充分
不十分	不自然	不正直	不愉快	不明確	不風流

「不」の下接語が AN/VN の語 (9 語)

不安心	不評判	不安定	不満足	不謹慎	不都合
不始末	不相応	不調法			

【資料 2】「不」の 2 字、3 字結合語の意味分類

(全 234 語)

a (ある基準) にそむく／外れる／合わない(6 語)

1 字下接語(5 語) :

不法 不意 1 (思い) 不順 1 (正道) 不倫 不慮 1 (思い)

2 字下接語(1 語) : 不本意

b (～が足りない／ない／少ない／低いなど) 基準以下(23 語)

1 字下接語(10 語) :

不才 不徳 不漁 不義

不意 2 (注意) 不慮 2 (思慮) 不知 2 (知恵) 不能 1 (才能)

不学 (ふ・ぶ) 不精 (ぶ)

2 字下接語(13 語) :

不勉強 不注意 不見識 不条理 不徳義 不道德 不義理

不作法 (ぶ) 不遠慮 (ぶ) 不人情 (ふ・ぶ) 不用意 (ふ・ぶ)

不信用 (ふ・ぶ) 不器量 (ふ・ぶ) 1 (才能)

c～が悪い (32 語)

1 字下接語 (10 語) :

不運 不況 不遇 不味 不評 不利

不作 2 (作物) 不作 3 (作品) 不出 2 (出来上がり)

不調 2 (古くは「ぶ」とも、調子)

2 字下接語(22 語) :

不首尾 不始末 不成績 不品行 不評判 不都合 不行状 不行跡

不景気 不面目 不名誉 不利益 不採算

不格好 (ぶ) 不調法 (ぶ) 不気味 (ぶ) 不細工 (ぶ)

不機嫌 (ふ・ぶ) 不行儀 (ふ・ぶ) 不用心 (ふ・ぶ)

不体裁 (ふ・ぶ) 不器量 (ふ・ぶ) 2 (容貌)

d～でない(73 語)

1 字下接語(31 語) :

不孝 不幸 不祥 不詳 不実 不純 不浄 不正 不全 不善
不和 不良 不明 不便 不平 不敏 不同 不等 不貞 不忠
不一 不穩 不可 不快 不潔 不吉 不当 不順 3 (順当)
不粹 (ぶ) 不興 (ふ・ぶ) 不昧 2 (明るい)

2 字下接語(42 語)

不公正 不健全 不公平 不自然 不健康 不正直 不親切 不鮮明
不愉快 不明朗 不明確 不明瞭 不平等 不必要 不熱心 不得意
不透明 不適格 不適任 不適當 不適切 不均衡 不謹慎 不經濟
不十分 不充分 不正確 不誠実 不衛生 不穩当 不確實 不確定
不活発 不可能 不完全 不合理 不規則
不生産 2 (生産的) 不器用 (ぶ) 不風流 (ぶ) 不案内 (ふ・ぶ)
不自由 (ふ・ぶ)

e～がない(3 語)

1 字下接語(3 語) :

不敵 不二 不例

f (動作) しない(53 語)

1 字下接語(32 語) :

不言 不戦 不惑 不劳 不離 不要 不用 不問 不偏 不服
不拔 不発 不买 不犯 不売 不納 不動 不撓 不党 不帰
不起 不屈 不退 不敬 不測 不承 不参 不信
不作 1 (耕作) 不出 1(出る・出す)
不順 2 (従う) 不昧 1 (くらまされる)

2 字下接語(21 語) :

不賛成 不承知 不処分 不信任 不侵略 不摂生 不遑及 不履行
不特定 不同意 不納付 不干涉 不介入 不拡大 不起訴 不許可
不順守 不作為
不生産 1 (生産する) 不養生 (ふ・ぶ) 不信心 (ふ・ぶ)

g (状態) しない／していない(57 語)

1 字下接語(39 語) :

不急 不朽 不具 不振 不肖 不熟 不治 不死 不尽 不随
不滅 不安 不足 不遜 不断 不着 不沈 不通 不定 不適
不凍 不在 不妊 不燃 不敗 不備 不変 不磨 不羈 不眠
不識 不易 不満 不溶 不乱 不老
不調 1 (整う) 不知 1 (知る) 不能 2 (できる)

2 字下接語(18 語) :

不合格 不安定 不一致 不協和 不消化 不成功 不成立 不整合
不飽和 不安心 不整頓 不調和 不適應 不徹底 不統一 不満足
不連続
不相応 (ふ・ぶ)

初出一覧

本博士論文の一部分はこれまで発表してきた論文を修正、加筆したものである。
以下、本博士論文と既発表論文との関係を示しておく。

第一章 本研究について
書き下ろし

第二章 「不」と「非」の造語機能と意味機能
朴景淑 2016 「不」と「非」の造語機能と意味機能」、名古屋大学国語
国文学会 平成 28 年度秋季大会、口頭発表
(一部修正、加筆あり)

第三章 「無」の造語機能と意味機能—3 字結合語を中心に—
朴景淑、2018 年 3 月 (掲載予定) 「無」の造語機能と意味機能—3 字
結合語を中心に—、『人文学フォーラム』1 号、名古屋大学人文学研究
科

第四章 「未」の造語機能と意味機能
書き下ろし

第五章 程度副詞との共起からみた「不・無・非・未」の性質
書き下ろし

第六章 「非〇〇的」の成立過程
朴景淑 2015、字音接辞「不」と「非」との相違点、國語學懇話會編『み
くにことば』、中日出版社
(一部修正、加筆あり)

第七章 否定の造語要素の優先選択
朴景淑 2009 修士論文「日中両言語における否定接頭辞の研究」、
名古屋大学
朴景淑 2012 「否定接頭辞の最適選択について」国語懇話会、

口頭発表

(一部修正、加筆あり)

第八章 日中「不・無・非・未」の類似点と相違点

第1節、第2節、第4節～第7節

書き下ろし

第3節

朴景淑 2017 「日中対訳からみた「不」の用法」『日中言語対照研究論集』19号、白帝社

第九章 日韓「不・無・非・未」の類似点と相違点

第1節～第3節、第5節～第8節

書き下ろし

第4節

朴景淑、2018年4月（掲載予定）「日韓否定接頭辞の類似点と相違点—「不」の品詞転換機能を中心として—」、『名古屋言語研究』12号、名古屋大学

(一部修正、加筆あり)

第十章 本論文の主な結論と今後の課題

書き下ろし

参考文献

日本語の参考文献は著者の五十音順に掲載し、中国語と韓国語の参考文献はアルファベット順に掲載する。

・日本語の参考文献

- 相原林司 1986 「不一無一非一未一」、『日本語学』5 (3)、pp. 67-72
- 天野成昭、近藤公久 2000、NTT データベースシリーズ『日本語の語彙特性 第7巻』、三省堂
- 奥野浩子 1985 「否定の接頭辞「無・不・非」の用法についての一考察」、『月刊言語』14 (6)、pp. 88-93
- 金水敏 2000 「時の表現」、『時・否定と取り立て』、岩波書店
- 工藤真由美 2000 「否定の表現」、『時・否定と取り立て』、岩波書店、pp. 93-150
- 久保圭 2010 「否定表現に関わる動的プロセスと価値判断について—日本語の否定接頭辞を中心に—」、『言語科学論集』(16)、pp. 57-77
- サトーアメリア・川崎晶子・ソーニアロンギ 1982 「語頭の位置にある否定的な意味を持つ造語要素「無・不・未・非」の意味と使われ方」、『日本語と日本文学』2、pp. 1-10
- 佐藤喜代治 1979 『日本の漢語—その源流と変遷—』角川書店
- 佐野由紀子 1999 「程度副詞との共起関係による状態性述語の分類」、『現代日本語研究』第6号、大阪大学日本語学講座、pp. 32-50
- 鄒善軍 2006 「日本語の「不」と中国語の「不」：接頭辞を中心に」、『人間社会学研究集録』1、pp. 135-147
- 土屋信一 2000 「明治・大正期・昭和期の漢字使用—東京日日新聞を資料として—」、前田富祺編『国語文字史の研究』5、和泉書院
- 塚本秀樹 2008 「日本語と朝鮮語における品詞と言語現象のかかわり：対照言語学からのアプローチ」、『アジア・アフリカの言語と言語学』(Asian and African languages and linguistics) no.3、pp. 29-46
- 野村雅昭 1973 「否定の接頭語「無・不・未・非」の用法」、『国立国語研究所論集 ことばの研究』4、pp. 31-50
- 野村雅昭 1977 「造語法」、『岩波講座 日本語 9 語彙と意味』、pp. 245-284
- 野村雅昭 1978 「接辞性字音語基の性格」、『電子計算機による国語研究』9、pp. 102-138

- 野村雅昭 1981「近代日本語と字音接辞の造語力」、『文学』49-10、岩波書店
- 野村雅昭 1998「結合専用形態の複合字音語基」、『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』11、pp. 149-162
- 松井利彦 2015「明治前半期の接頭辞「不」と「無」、『近代語研究 第18集(古田東朔教授追悼論文集)』、武蔵野書院、pp. 323-348
- 森岡健二 1994『日本文法体系論』、明治書院
- 須山名保子 1974「接辞「不」「無」をめぐって」、『学習院大学国語国文学会誌』17、pp. 19-28
- 朴景淑 2009『日中両言語における否定接頭辞の研究』、修士論文、名古屋大学
- 朴景淑 2012「日本語と中国語の「不・無・非・未」、『名古屋大学人文科学研究』41、pp. 33-43
- 朴景淑 2015「字音接辞「不」と「非」との相違点」、国語学懇話会編『みくにことば』、中日出版社、pp. 182-193
- 飛田良文（ほか）2007『日本語学研究事典』、明治書院
- 福田有美 2005「日本語否定接辞と漢字造語力考」、『外国語教育論集』27、筑波大学外国語センター、pp. 17-27
- 国立国語研究所 2004 分類語彙表増補改訂版データベース（ver.1.0）
- 山下喜代 2013「現代日本語における漢語接辞研究の概観」、『青山語文』43、pp. 157-168
- 山田孝雄 1936『日本文法學概論』、寶文館
- 李于錫 2002『韓日漢字語の品詞性に関する対照研究—二字漢字語の品詞性とその周辺—』、J&C
- 呂叔湘 1983『中国語語法分析問題』、大東文化大学国語学部・中国語研究室（訳）、光生館
- 呂叔湘（主編）菱沼透（ほか 訳）2004『中国語文法用例辞典—現代漢語八百詞増訂本』日本語版、東方書店
- 渡辺実 1983『副用語の研究』、明治書院
- 渡辺実 1990「程度副詞の体系」、『上智大学国文学論集』23、pp. 1-16

・日本語の参考辞書

- 井上十吉 1919『井上英和大辞典』、至誠堂
- 『英和対訳袖珍辞書』1869 蔵田屋清右衛門
- エフ・ワーリントン・イーストレキ（ほか）1894『英和新辞林』、三省堂

岡倉由三郎 編 1927『研究社新英和大辞典（初版）』
 旺文社 編 1948『エッセンシャル英和辞典』、旺文社
 神田乃武（ほか）編 1902『新訳英和辞典』、三省堂
 柴田昌吉、子安峻 1882『英和字彙』、日就社
 白川静 1996『字通』、平凡社（<http://japanknowledge.com/library/>による）
 大東文化大学中国語大辞典編纂室編 1994『中国語大辞典』、角川書店
 『日本国語大辞典』第二版（小学館、2002）（<http://japanknowledge.com/library/>による）
 松村明 監修 1995『大辞泉』、小学館
 松村明 監修 2012『大辞泉』第二版、小学館
 （デジタル大辞泉 <http://japanknowledge.com/library/>による）
 芳川鉞雄 訳（ほか）1888『英和袖珍字彙』、積善館

・中国語の参考文献

张志公主編 1979『汉语知识』人民教育出版社
 （張志公主編 1979『漢語知識』人民教育出版社）
 朱亚军 2001“现代汉语词缀的性质及其分类研究”『汉语学习』2001（02）、pp. 24-28
 （朱亜軍 2001「現代中国語の接辞の性質及びその分類についての研究」、『漢語学
 習』2001（02））

・中国語の参考辞書

汉语大词典编写组 2005『汉语大词典』2.0 光碟版 商务印书馆（香港）
 （汉辞网 <http://www.hydc.com/>）
 （『漢語大詞典』（汉辞网 <http://www.hydc.com/>による）

・韓国語の参考文献

박석문 1999「한자어 부정 접두사의 결합 관계에 대하여
 —沒,無,未,不,非를대상으로—」반교어문학회、<반교어문연구> 10 권 0 호、pp.
 3-38
 （Bag seogmun1999「漢字語の否定接頭辞の結合関係について—沒、無、未、不、
 非を対象に—」）
 김규철 1980「한자어 단어형성에 관한 연구」『국어연구』41
 （Gim gyucheol1980「漢字語の単語形成について」）

조현숙 1989 「부정 접두어 무,부,미,비 의 성격과 용법」

『冠嶽語文研究』14、pp. 231-252

(Jo hyeonsug (1989) 「否定接頭語 無、不、未、非の特徴と用法」)

노명희 2005 국어학총서 49 『현대국어 한자어 연구』、태학사

(No myeonghui,2005 国語学叢書 49 『現代国語漢字語研究』、taehaksa)

・ 韓国語の参考辞書

국립국어원 표준국어대사전 (<http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp> による)

Gungnipgugeowon Pyojungugeodaesajeon (国立国語院 標準国語大辞典)

用例出典

・ 朝日新聞データベース聞蔵 II ビジュアル (知恵蔵)

・ 現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版 (略称 BCCWJ-NT)

(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>による)

・ 国立国語研究所編 『太陽コーパス—雑誌『太陽』日本語データベース—』国立
国語研究所資料集 15、博文館新社刊 CD-ROM

・ 『新編—日本古典文学全集』(小学館)

(Japan Knowledge Lib(<http://japanknowledge.com/library/>による))

・ 百度新聞 (<http://news.baidu.com/>による)

・ 국립국어원 말뭉치 현대문어

(<https://ithub.korean.go.kr/user/corpus/corpusSearchManager.do> による)

(国立国語院 現代文語コーパス)